



機動戦士ガンダム

モビルスーツ

MS大図鑑

PART.3

【アクス戦争編】

Illustration by Kenichi Ishibashi

GUNDAM WAR HISTORY

.....【ガンダム戦史】



1.ベズンの反乱

ニューティサイズ

UC0088年2月22日、

地球連邦軍内部の急進派であり、ジオン残党狩りに名を借りたスペースノイド弾圧の急先鋒でもあったティターンズは、事実上崩壊した。そのため連邦軍はエウーゴが主導権を掌握することになるが、それを不満としたティターンズ教導部隊の一部青年将校が、2月24日「ニューティサイズ」を名乗り、訓練部隊として駐留していたラグランジェ4に位置する小惑星ベズンにおいて反乱を起こし、その宙域を制圧した。彼らはベズンに配備されていた連邦製ジオンタイプ(RMS-141ゼク・アイン多数と建造途中のRMS

小惑星ベズンにおけるニューデ
ィサイズと、連邦軍の駐留部隊の
戦闘では、新兵器のRMS-141ゼ
ク・アインが威力を発揮した。教
導部隊の本拠でもあり、制圧は短
時間で終了している。

【第三章『アクシズ戦争』と 『第2次ネオ・ジオン抗争』】

イラスト/岡本英郎



142ゼク・ツヴァイ数機分
のパーツをもって装備として
いた。

ネオ・ジオンへの対策と軍
組織の再編成のために主力部
隊を割けない連邦軍は、3月
23日に、討伐隊として「α任
務部隊」を編成し、ニューデ
ィサイズの鎮圧にあたらせた。
α任務部隊は新造艦のアーガ
マ級強襲用宇宙戦艦ベガサス
IIIを含む9隻を先遣艦隊とし、
状況しだいで大規模な艦隊の
派遣も検討していた。

α任務部隊とニューディサ
イズはベズンの空域近くで長
距離戦を展開したが、その時
点でニューディサイズ艦隊は
ベズンを脱出しており、安全
圏に達すると同時に徹底抗戦
の意思を示すため、ベズンに
仕掛けた核爆弾を爆発させ、
事実上の宣戦布告とした。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



2. エアーズ市の攻防

月面都市制圧戦

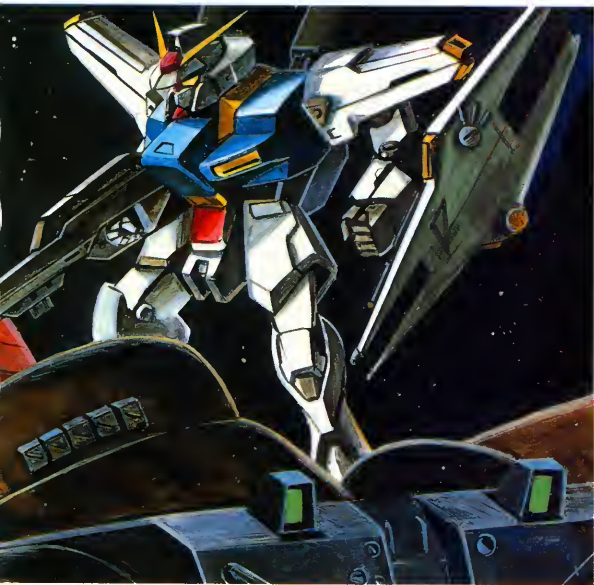
3月28日、ニューデイズ討伐のため旧ソロモンから発進した連邦軍宇宙艦隊司令官ブライアン・エイノー提督率いる艦隊が、任を離れ月面の自治都市エアーズに向かい、ニューデイズと合流した。α任務部隊の先発隊は、エイノー艦隊が持ってきたORX-013ガンダムMkⅡV（G-1V）始めとするMS部隊の前に敗退した。そのため本隊の到着をまって、4月1日、エアーズ市への降下作戦に踏み切る。上空で大規模な艦隊戦が繰り広げられる中、MSZ-006C1ゼータプラス、MSZ-010BFアズ、MSA-0011E x 1 S E x

0088年4月2日、エアーズ市上空で繰りひろげられたEX-SガンダムとガンダムMK-Vの戦い、どちらも連邦製のインコム兵器搭載のMSで、アナハイム製ガンダムとオーガスタ製ガンダムのコンセプトの違いが明確に現れている。



EX-Sガンダムを含むMSA-007ネロ、ジムIIIの編隊による降下部隊がエアーズ市の上空から侵入を開始した。だが、インコム兵器を駆使するG-Vによって阻まれ、FAZZ3機が全滅、EX-Sガンダムも壊滅的な打撃を受けるが、激戦の末、辛うじてG-Vを殲滅する。以降、物量に押され劣勢となったニューデイズにネオ・ジオンから援助の申し出があるが、テイターンズと同じ存立基盤、主義をもつエアーズ市、ニューデイズは、申し出を拒否した。そしてマス・ドライバー基地を占拠し、兵員を脱出させたのち、ゼク・ツヴァイを投入し最後の抵抗を試みたが、4月5日、ニューデイズは本隊に投降し、戦闘は終結した。

GUNDAM 【ガンダム戦史】WAR HISTORY



3. 民間防衛隊

過激分子の傭兵

0090年7月25日、サイド6でコロニーの再建作業中の民間修理会社モノトーン社のスタッフが、反地球連邦組織NSPの過激派カロードに襲撃された。そのとき、スタッフがガンダムに酷似した作業用MS、MWS19051GDガンダムファーストを使用していたことにより、ネオ・ジオンの過激派偽装陽動部隊にマークされてしまう。この部隊は開発中の実験機の実戦試験部隊としても機能しており、戦艦からNT専用MSまで多様な装備を持ち、反地球連邦組織に武器の供与も行っていた。

モノトーン社のスタッフ及

0090年12月15日、NSPのカラード隊を援助している過激派偽装陽動部隊のグワジン級の戦艦がNSP 穏健派のザクⅢ後期型と共同戦線を張るアラハスのDガンダムサード。ズサC改が向え撃つ。



び連邦軍のファクトリーチーム「アラハス」は、カラードとネオ・ジオンの襲撃を数回に渡って受けることになった。アラハスの技術スタッフは、その対抗策として、Dガンダムを徹底的に改造し、RGX-D3 Dガンダムサードを作り上げた。

同年12月15日、ネオ・ジオンの地球寒冷化作戦を知り、離反したカラードの穏健派がアラハスに味方し、ネオ・ジオンの陽動部隊とカラード過激派との決戦が行われた。規模そのものは、2つの大戦と比べようもないが、反連邦組織と連邦軍間の戦闘としては、戦後最大のものであった。

この他にも0090年から0093年にかけて反連邦組織は数多くのテロを引き起した。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



4. シャアの反乱

『第2次ネオ・ジオン抗争』

0092年12月22日、突如として難民收容コロニーのスウィートウォーターを占拠した艦隊は、シャアを総帥としたネオ・ジオンの復興を宣言した。しかし連邦政府は何の対策もせず、2カ月が過ぎた。2月27日に実質的な宣戦布告があったにもかかわらず、連邦は事態を認識しておらず、沈黙したままだった。3月3日、ネオ・ジオン艦隊はスウィートウォーターを発進し、5th(ファイブス)・ルナへ進路をとったため、連邦軍の外郭新興部隊であるロンド・ベルもそれを追った。

翌日、5th・ルナをめぐり、ネオ・ジオンとロンド・

0093年3月4日、5thルナにおける攻防戦で、アムロの乗るリ・ガズィはヤクト・ドーガとは互角に闘えたが、シャアのサザビーが介入したことにより、撤退せざるを得なくなる。



ベルのMS部隊が激戦を繰り広げたが、ロンド・ベルの戦力は決して充実しておらず、AMS-119ギラ・ドーガの大部隊とNT専用重MSのMSN-03ヤクト・ドーガの前に、量産型のRGM-89ジェガンの部隊とRGZ-91リ・ガズィでは歯が立たなかった。5th・ルナは地球に降下を始め、地球連邦本部があるチベットのラサを目指して落下していった。だが、連邦政府は、極秘のうちに本部を他の場所に移転していた。そのため、連邦壊滅という事態はまぬがれたものの、周辺住民に5th・ルナ落下の事実を公表していなかったため、多くの人命が失われた。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



5. アクシズ落下

地球寒冷化作戦

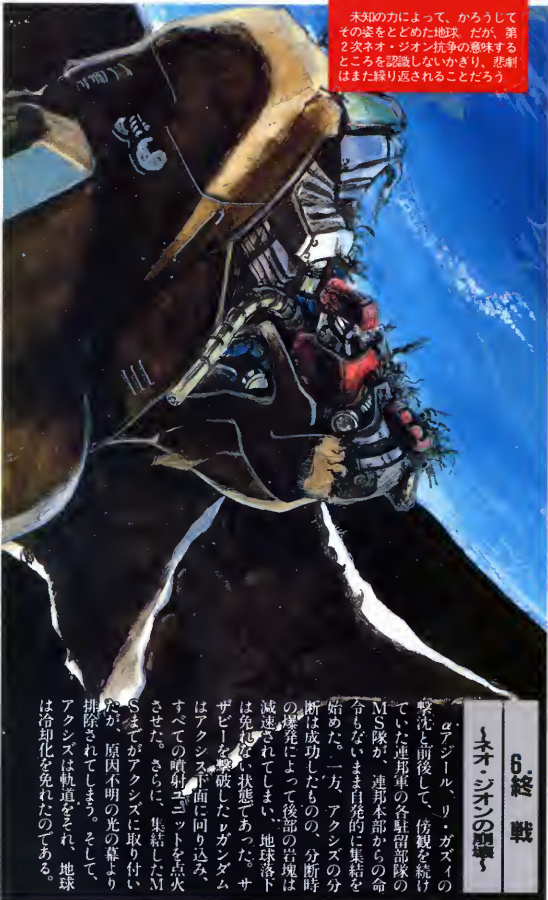
5th・ルナの闘いにおいて、戦力不足を痛感したロンド・ベルのMS部隊隊長のアムロ・レイ大尉は、アナハイム・エレクトロニクス社のフォン・ブラウン工場で建造中のRX-93レガンダムをテストもそこそこで実戦に投入する。

3月6日、極秘裏に行われた和平協定に乗じて、ネオ・ジオン艦隊は、3月12日に投降を装いルナツーを襲撃、熱核兵器を奪取。同時にアクシズを奪回し、核汚染を含む地球寒冷化作戦を発動した。ロンド・ベル隊は、アクシズの核パルス・エンジン点火阻止に向かうが間に合わず、MS隊の主力であるレガンダムも

0093年3月12日、アクシズにおけるレガンダムとサザビーの格闘。MSの限界まで、白兵戦を展開する2機は、一方で、MSの性能の向上がどこまで進んだかをも証明している。



ヤクト・ドーガや超大型MAのNZ-333 αアジールに足留めされる。 Rond・ベル隊は、アクシズを地球突入軌道からそらせるため、旗艦ライカラム艦長のブライトを含む工作部隊をアクシズ内部に潜入させ、ワーカーを駆使して分断工作を開始する。ヤクト・ドーガを倒し、混戦空域を離脱したレガンダムは、核兵器を満載したムササビの4番艦を破壊し、アクシズ上でシヤアの乗るMSN-04サザビーと激戦を繰り広げる。双方が装備していたビット兵器はすでに消耗し、MS同士の格闘戦を行う。両機ともにサイコ・フレーム搭載のためか、あたかも人間そのもののように関わっていた。やがて、アクシズ分断が始まった。



未知の力によって、かろうじて
その姿をとどめた地球。だが、第
2次ネオ・ジオン抗争の意味する
ところを認識しないかぎり、悲劇
はまた繰り返されることだろう

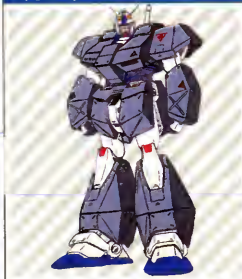
6. 終戦

ネオ・ジオンの覆滅

αアジール、リ・ガズイの撃沈と前後して、傍観を続けていた連邦軍の各駐留部隊のMS隊が、連邦本部からの命令もないまま自発的に集結を始めた。一方、アクシズの分断は成功したもの、分断時の爆発によって後部の岩塊は減速されてしまい、地球落下は免れない状態であった。サザビーを撃破したレガンダムはアクシズ下面に回り込み、すべての噴射ユニットを点火させた。さらに、集結したMSまでがアクシズに取り付いたが、原因不明の光の幕より排除されてしまう。そして、アクシズは軌道をそれ、地球は冷却化を免れたのである。

MS名鑑

RX-78NT1-FA
ガンダムNT1・FA



- ① 同、チョバムアーマー仕様
- ② 連邦軍
- ③ ポケットの中の戦争
- ④ 1/144 予定

RX-78NT1
NT専用ガンダム“アレックス”
試作第1号機



- ① NT専用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ポケットの中の戦争
- ④ 1/144 予定

RGM-79SP
ジム・スナイパーII



- ① 宇宙戦用量産型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ポケットの中の戦争
- ④ 未定

RX-77D
ガンキャノン量産型



- ① 中距離支援用量産型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ポケットの中の戦争
- ④ 未定

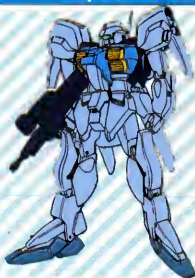
①分類、②所属、③登場、④模型対応表

MSA-0011
Sガンダム

- ① 汎用試作型可変モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ 1/144

MS-18E
ケンプファー

- ① 強襲用試作型重モビルスーツ
- ② ジオン軍
- ③ ポケットの中の戦争
- ④ 1/144

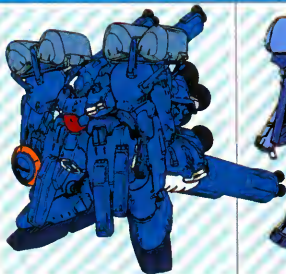
MSA-007
ネロ

- ① 汎用量産型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ —

MSZ-006C1
Zプラス (C2)

- ① 攻撃用量産型可変モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ 1/144

RMS-142
ゼク・ツヴァイ



- ① 攻撃用試作型重モビルスーツ
- ② ニューディサイズ
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ —

RMS-141
ゼク・アイン



- ① 汎用量産型モビルスーツ
- ② ニューディサイズ
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ —

ORX-013
ガンダムMK-V



- ① 汎用試作型重モビルスーツ
- ② ニューディサイズ
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ —

AMX-007
ガザE



- ① 攻撃用量産型可変モビルスーツ
- ② アクシズ
- ③ ガンダム・センチネル
- ④ —

MWS-19051G-2
 ロガンダムセカンド


- ①汎用カスタム・メイド・ワーカ
ー改造機 ②連邦軍 (モノトーン・
マウス社) ③ダブル・フェイク
④ー

 MWS-19051G
 ロガンダムファースト


- ①汎用カスタム・メイド・ワーカ
ー ②連邦軍 (モノトーン・マウス
社所有) ③ダブル・フェイク
④ー

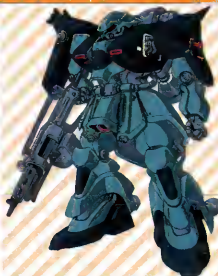
 RGM-89B
 ジェガン改


- ①攻撃用試作型モビルスーツ
②連邦軍
③ダブル・フェイク
④ー

 RGX-D3
 ロガンダムサード


- ①汎用試作型モビルスーツ
②連邦軍
③ダブル・フェイク
④ー

AMX-011C
ザクIII後期型



- ① 汎用量産型モビルスーツ
- ② カラード
- ③ ダブル・フェイク
- ④ —

AMX-102C
ズサ・カスタム



- ① 攻撃用試作型モビルスーツ
- ② カラード
- ③ ダブル・フェイク
- ④ —

MSN-X4
バギ・ドーガ



- ニュータイプ
- ① N T 専用試作型モビルスーツ
 - ② ネオ・ジオン
 - ③ ダブル・フェイク
 - ④ —

AMX-003S
ガザC改



- ① 汎用量産型モビルスーツ
- ② カラード
- ③ ダブル・フェイク
- ④ —

RX-93

νガンダム (フィン・ファンネル装備)



ニュータイプ

- ① N T 専用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ 逆襲のシャア
- ④ 1/100、1/144

RX-93

νガンダム

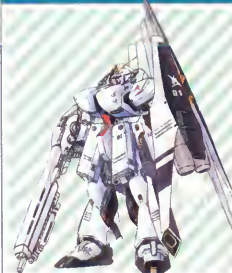


ニュータイプ

- ① N T 専用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ 逆襲のシャア
- ④ 1/144

FA-93HWS

νガンダム (ヘビーウェポンシステム装着型)



ニュータイプ

- ① N T 専用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ CCA-MSV
- ④ 1/144 (N C M)

RX-93

νガンダム (Dフィン・ファンネル装備)



ニュータイプ

- ① N T 専用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ CCA-MSV
- ④ —

RGM-89
ジェガン



- ①汎用量産型モビルスーツ
- ②連邦軍
- ③逆襲のシャア C C A
- ④1/144

RGZ-91
リ・ガズィ



- ①攻撃用試作型モビルスーツ
- ②連邦軍 ③逆襲のシャア C C A
- ④1/144 (NCMでB W S 発売) バックウエポンシステム

MSN-03
ヤクト・ドーガ(ギニュー専用)



- ①N T専用試作型モビルスーツ ニュータイプ
- ②ネオ・ジオン
- ③逆襲のシャア C C A
- ④1/144

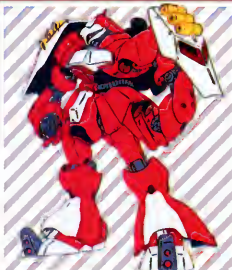
MSN-04
サザビー



- ①N T専用試作型モビルスーツ ニュータイプ
- ②ネオ・ジオン
- ③逆襲のシャア C C A
- ④1/144

AMS-119
ギラ・ドーガ(一般兵用)

- ①汎用量産型モビルスーツ
②ネオ・ジオン
③逆襲のシャア
④¹/₁₄₄

MSN-03
ヤクト・ドーガ(クェス専用)

- ①^{ニュータイプ}N T専用試作型モビルスーツ
②ネオ・ジオン
③逆襲のシャア
④¹/₁₄₄

NZ-333
α・アジール

- ①^{ニュータイプ}N T専用試作型モビルアーマー
②ネオ・ジオン
③逆襲のシャア
④¹/₅₅₀

AMS-119
ギラ・ドーガ(レズン専用)

- ①汎用量産型モビルスーツ
②ネオ・ジオン
③逆襲のシャア
④¹/₁₄₄

RGZ-91B
リ・ガズィ・カスタム



- ① 攻撃用試作型可変モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ CCA-MSV
- ④ —

ホビー・ハイザック



- ① ホビー用モビルスーツ
- ② 民間（ロンデニオン）
- ③ 逆襲のシャア
- ④ —

RGM-90
ジェガン重装型



- ① 砲撃戦用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ CCA-MSV
- ④ —

RGM-89S
スターク・ジェガン



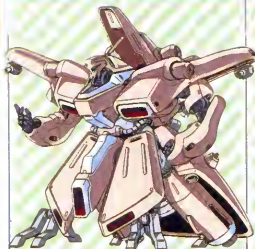
- ① 砲撃戦用試作型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ CCA-MSV
- ④ —

AMS-190S
ギラ・ドーガ改

- ①汎用試作型モビルスーツ
②ネオ・ジオン
③CCA-MSV
④—

AMS-120X
ギラ・ドーガ (サイコミュ試験タイプ)

- ①N T専用実験機
②ネオ・ジオン
③CCA-MSV
④—

NZ-222
サイコ・ドーガ

- ①N T専用試作型モビルアーマー
②ネオ・ジオン
③CCA-MSV
④—

AMS-119
ギラ・ドーガ (重武装仕様)

- ①汎用(砲撃戦用)量産型モビル
スーツ②ネオ・ジオン
③CCA-MSV
④—

スペースシップ&ファイター名鑑

ペガサス級強襲宇宙揚陸艦
ホワイトベース



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③ミノフスキークラフトにより大気圏内巡航が可能。ペガサス級の2番艦

サラミス級巡洋艦
サラミス



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③ブースター装備により、大気圏離脱可能。戦後、MS運用のため改装された

マゼラン級戦艦
マゼラン



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③連邦軍の主力艦。同型艦に「ルザル」がある。やはり戦後改装される

輸送艦
コロンプス



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③MS積載能力のないサラミス、マゼランに随伴するために建造された

ムサイ級軽巡洋艦
ムサイ



- ① 公国軍
- ② 機動戦士ガンダム
- ③ 公国軍の主力艦。シャアの艦はキシリア少将から譲り受けたものである

チベ級重巡洋艦
チベ



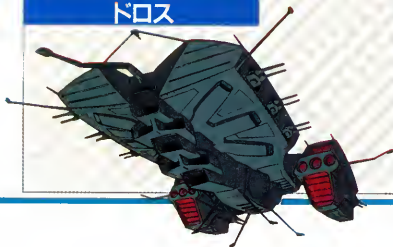
- ① 公国軍
- ② 機動戦士ガンダム
- ③ 戦前は戦艦として位置付けられていたがグワジンの登場と共に重巡とされた

グワジン級戦艦
グワジン



- ① 公国軍
- ② 機動戦士ガンダム
- ③ 公国軍の旗艦。同型艦として“グレート・デギン”“グワバン”がある

戦闘空母
ドロス



- ① 公国軍
- ② 機動戦士ガンダム
- ③ 一年戦争時最大の宇宙艦艇。要塞クラスの火力を有する

補給艦
パプア



- ①公国軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③旧式艦。足が遅く、武装貧弱だ。MSの積載は3機が限度

機動巡洋艦
ザンバル



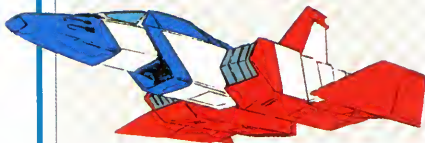
- ①公国軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③大気圏突入が可能。シャトル的な艦艇。大気圏内飛行時間も短い

輸送艦
パゾク



- ①公国軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③大戦末期に就役した新型輸送艦。MSを16機積載可能

FF-X7
コア・ファイター



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③大気圏内外両用戦闘機。RXシリーズMSのコクピットに変形する

コア・ブースター



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③FF-X7に熱核ロケットエンジンを搭載したブースターを装備した重戦闘機

Gファイター



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③RX-78用サポートシステムのABパーツのみで構成された汎用戦闘機

Gスカイ・イージー



- ①連邦軍
- ②機動戦士ガンダム
- ③同、サポートシステムのBパーツとFF-X7によって構成された戦闘機

ペガサス級強襲艦空母

トロイホース



- ①連邦軍
- ②ポケットの中の戦争
- ③ペガサス級4番艦。兵装を抑え、MS積載・運用を重視した設計である

ティベ級重巡洋艦

グラーフ・ツェッペリン



- ① 公国軍
- ② ポケットの中の戦争
- ③ 戦後末期に新造された艦艇。推力、火力共に格段の向上をとげている

ムサイ級軽巡洋艦

ジークフリート



- ① 公国軍
- ② ポケットの中の戦争
- ③ 同じく末期に建造された新設計艦。同型艦にヴァルキューレがある

強襲用機動巡洋艦

アーガマ



- ① エウゴ
- ② Zガンダム
- ③ バリユート装備により大気圏突入が可能。非戦闘時には居住ブロックが回転する

マゼラン級戦艦

アイリッシュ



- ① エウゴ
- ② Zガンダム
- ③ エウゴが独自に建造した新型艦。アーガマと同系の設計である

アレキサンドリア級巡洋艦
アレキサンドリア



- ①ティターンズ
- ②Zガンダム
- ③一年戦争後、初めて就役した新造艦。ムサイの設計を取り入れている

アレキサンドリア級巡洋艦
ハリオ



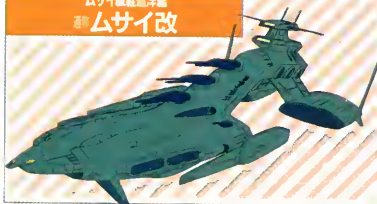
- ①ティターンズ
- ②Zガンダム
- ③武装を若干強化したタイプ。サラミス(改)級よりもあらゆる面で勝っている

サラミス級巡洋艦
サチワヌ



- ①ティターンズ
- ②Zガンダム
- ③改装艦。MSデッキが増設された。エウゴ、連邦軍でも使用されている

ムサイ級軽巡洋艦
ムサイ改



- ①ジオン共和国軍
- ②Zガンダム
- ③改装艦。基本性能に大きな差はない

チベ級巡洋艦
通称 **チベ改**



- ① ジオン共和国軍
- ② Zガンダム
- ③ 改装艦。艦首をMSデッキに改造している

大型戦艦
ドゴス・ギア



- ① ティターンズ
- ② Zガンダム
- ③ ティターンズの旗艦。MSデッキが8基と戦闘空母的性格が濃い

超大型輸送艦
ジュビトリス



- ① ティターンズ
- ② Zガンダム
- ③ 木星ヘリウム輸送艦。同型艦にジュビトリスIIがある

超大型戦艦
グワダン



- ① ネオ・ジオン(アクシズ)
- ② Zガンダム
- ③ アクシズの旗艦。グワジン級戦艦の発展型

アレキサンドリア級巡洋艦
ロンバルディア



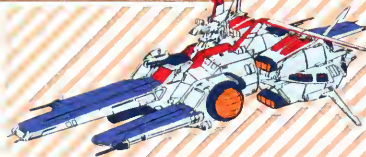
- ①ティターンズ
- ②Zガンダム
- ③MS 積載量を増した新造艦。巡航性能も向上させている

FXA-05D
Gディフェンサー



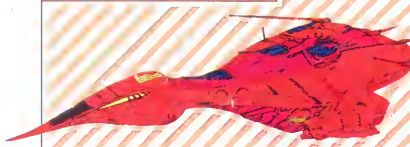
- ①エウゴ
- ②Zガンダム
- ③RX-178 用サポートシステム。MSを乗せた輸送形態をGフライヤーと呼ぶ

機動戦艦
ネエル・アーガマ



- ①エウゴ
- ②ガンダムZZ
- ③コロニーレーザー級の威力を持つハイメガ砲を主砲として搭載する

グワジン級戦艦
グワンバン



- ①ネオ・ジオン(アクシズ)
- ②ガンダムZZ
- ③第1次ネオ・ジオン抗争の初期に仮旗艦となる

ムサイ級艦船
エンドラ



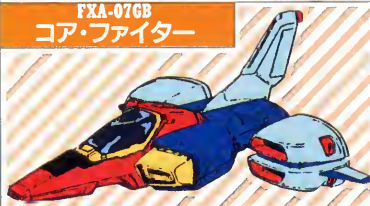
①ネオ・ジオン
②ガンダムZZ
③ネオ・ジオンの主力艦。同型艦にサンドラ、ミンドラがある

機動戦艦
サダラーン



①ネオ・ジオン
②ガンダムZZ
③大気圏突入、大気圏巡行が可能。地球侵攻作戦用に建造された

FXA-07GB
コア・ファイター



①エウーゴ
②ガンダムZZ
③MSZ-010のシステムの中核をなすコア・ブロックが変形した汎用戦闘機

MS用高速機動型支援兵器
メガライダー



①エウーゴ
②ガンダムZZ
③MSサポートシステム。MSを乗せて戦闘可能。ハイメガ砲を装備する

機動戦艦
ラー・カイラム



- ① 連邦軍
- ② 逆襲のシャア
- ③ ロンドベル隊の旗艦。戦闘ブリッジが別にある

クラブ級巡洋艦
ラー・チャター



- ① 連邦軍
- ② 逆襲のシャア
- ③ 90年代の主力艦。ラー・ギエム、ラー・ザイムなどがある

グワジン級戦艦
レウルーラ



- ① ネオ・ジオン
- ② 逆襲のシャア
- ③ 第2次ネオ・ジオン抗争における旗艦。戦闘ブリッジがある

ムサイ級軽巡洋艦
ムサカ



- ① ネオ・ジオン
- ② 逆襲のシャア
- ③ 90年代に入り秘かに建造されたもの。ネオ・ジオンの主力艦



モビルスーツ

MS開発史

MS Development History

- UC80年代後半から90年代にかけてのMSは、技術の流出や機体の譲渡、強奪が相継ぎ、明確な分類は非常に困難である。ここでは各作品ごとに機体の解説をする。

Illustration by Hitoshi Fukuchi.

1. α任務部隊のMS(センチネル)

ティターンズの実質的崩壊の後、エウーゴが主流となった連邦に抵抗し続けるニューディサイズ。対する討伐部隊として編成されるα任務部隊には当時恐龍的な進化をしていた実験機や試作機が多数配備されている。連邦自体が疲弊し、ネオ・ジオンが、依然存在している当時の状況下では、主力部隊を身内のイザコザに割くわけにはいかなかったからだ。しかし、これらの機体のもつポテンシャルは高く、第2世代MSを数だけ揃えた部隊よりは充実した実力を持つ部隊となっている。まず、この部隊の象徴ともいえるMSA-0011Sガンダムは、第4世代のMSと呼

ぶにふさわしく、強力なジェネレータを4基持ち、インコム・システムと強力な火力を備えたTMSとなっている。さらにALICE(発展型論理・非論理認識装置)と呼ばれる画期的なコンピュータを搭載しているため、一時的にはパイロットの代行も可能で、EX-1SやBSTといった様々なオプション装備にもスムーズに対応できる。ただし、この機能に限っては、インコムなどの人工的サイコミュ技術の発展等もあり、継続しての開発は見送られている。また、MSZ-006Zガンダムの大気圏内専用機としてカラバが再設計し使用していたMSZ-006A1Zプラ

スを宇宙用に再々設計したMSZ-006C1Zプラスは、TMSとして考えれば安価でもあり月面上でのヒットアンドアウェイ等特殊な局面で非常に有効な能力を持っている。再突入も可能で、コストパフォーマンスの高い機体である。さらに、当時開発中であったMSZ-010の先行量産機であるFA-010BフルアーマーZガンダムは、難航していた変形システムを排除し、当初からプラ

と機体中央のハイメガ砲はダミーだが、半年後に完成するZZガンダムのフルアーマータイプと較べても、材質や形状が多少異なるだけで、能力的にはほとんど差がない。しかも右肩にマウントされている大型のハイパー・メガ・カノンはMSが単体で持つ武器としては最高出力を誇る。MSA-007ネロは、非常にポテンシャルの高いジム系のMSで、試作中のガンダム系MS2機を参考に製作されている。肩口にオプション用のムーパブル・フレームがあり、高性能なチューンアップが可能である。バリエーションに早期警戒用の007E EWACネロ、AMBAC一体型スラスターを装備した007Tネロトレーナーがある。

MS Development History

MSA-0011 シーガンダム

FAZ-010B フルアーマーZZ (FAZZ)

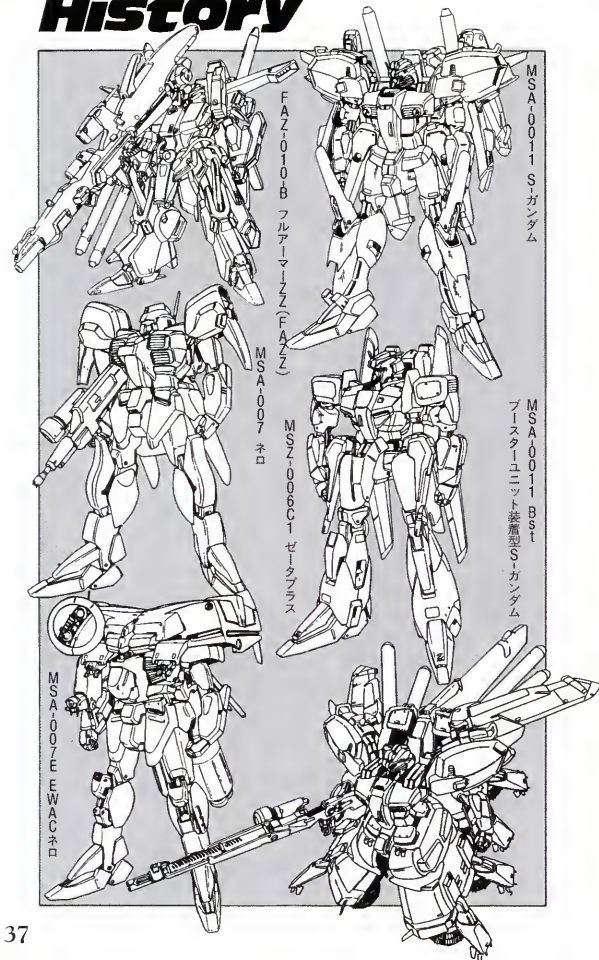
MSA-007 ネロ

MSZ-006C1 ゼータプラス

MSA-0011 Bst

ブイスターユニット装備型「シーガンダム」

MSA-007E EWACネロ

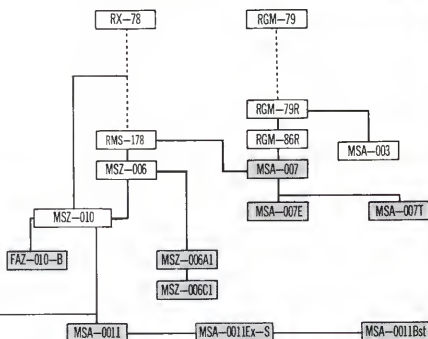


2. ニューデイズのMS(センチネル)

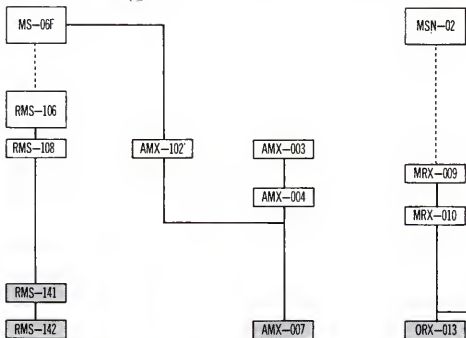
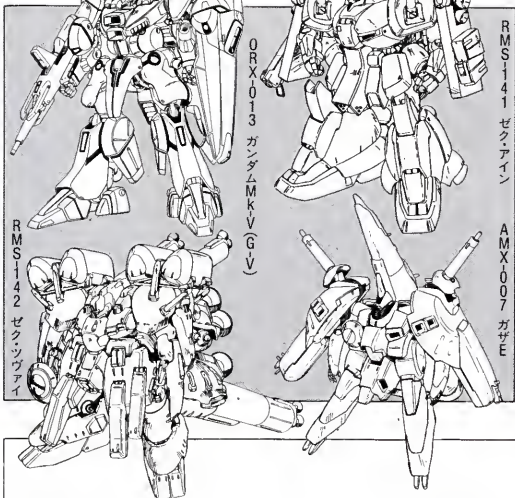
エイノール提督の反乱によりニューデイズにもたらされたORX-003ガンダムMKⅡVは、オーガスタ研究所がMRX-009サイコガンダムの小型版として数機を開発した準サイコミュ搭載MSである。NT能力のないパイロットでも操作できるインコムを装備しており、オールレンジ攻撃が可能。エアーズ市の攻防戦では、アナハイムガンダム対オーガスタガンダムの闘いが展開されたことになる。その後ニューデイズ敗北とともに、ネオ・シオンに技術が流出し、AMX-014ドールベン・ウルフの原形となっている。RMS-141セク・アインはハイザ

ック、マラサイに続く連邦製のザクタイプMSである。ニューデイズの主力MSであり、操縦しやすく、設計がシンプルで、肩アーマーに設置された多目的ラッチマウントシステムにより、装備の変更のみでガンナータイプ、マインヤータイプとして使用可能である。さらにRMS-142セク・ツヴァイは、重武装と高機動の究極の両立をもとめた最強の機体である。AMX-007 ガザEは、AMX-008ガ・ゾウムと同時期に開発されたもので、ガ・ゾウムに比べ、航行能力を重視した設計となっている。この闘いでは示威行動を取ったのみであった。

センチネルMSの開発経路



MS Development History



●この表はMSのおおまかな開発経路を示したものです。省略された機体がたくさんありますが、御了承下さい。

3. アラハス、ZMSのMS (ダブルフェイス)

UC0090年代に入り、反連邦運動は過激にエスカレートしていった。度重なる戦争により破壊されたコロニー等の再建計画が着手されたが、空コロニー等はテロ組織のアジトに利用される事も多く、再建作業には連邦の護衛がつくようになる。もともと、MS自体が、プチMS等のワーカーから発展したものであり、MS規模の機動作業機への改造もそう難しくはなかったため、ハンドメイドのMSも数機製作されることになる。MS-19051G Dガンダムファーストも、そういった機体のうちのひとつで、製作者の趣味が高じてガンダムタイプのMSとなっている

が、内部構造などは、破壊されたMSの部品やワーカーを流用したものである。だが機動性や運動性は相当優秀であった。Dガンダムと呼ばれるこの機体の名称は製作者の名を取り、*「ダリーズガンダム」*の意味である。開発当初は作業用の機材を武器として使用していたが、この修理作業チームが、*「ガンダム」*を持っていたため、過激派にマークされ、それを援助していたネオ・ジオン勢力にも追撃されることになる。RGX-03 Dガンダムサードは、Dセカンドを経て、連邦の技術者が手を加えた機体で、Dガンダムを運用していた民間修理会社モノトーン護衛隊の連邦軍ア

ラハス隊に編入されることになり、実際の武装も携帯するようになる。機体自体も改装され、当時の連邦の量産機と同等以上の性能を持つている。アラハス隊に配備されているRGM-89B ジェガン改は、コクピット回り等を改造して、立ち上がりと操作性が向上している。追撃するNSPのカラード隊とネオ・ジオンの過激派偽装部隊は、新兵器の実験部隊としても機能しており、*「ドーガ・タイプ」*の試験機やMタイプMSの宇宙用等、様々な機体が投入されている。またNSPが使用するAMX-003Cガザ改、AMX-110CザクIII後期型、AMX-102Cスカスタム等は、連邦が接収した機体を奪回したり、ネオ・ジ

オン側から譲渡されたりしたものであり、戦力的にも実際の軍隊に引けを取ることはなかった。MSN-X4バギ・ドーガはファンネルの運用を根本から考え直したもので、2機のモビル・ビットを装備している。AMX-004GやAMX-015が、装備したファンネルの数に比例した戦果をあげられなかったことを反省したものであるが、AMX-015のマザーファンネルシステムに機動力を持たせる構想を具体化したことになる。ユニットが小さく隠密性に秀れているが、パイロットの負担が重い。この時期投入された実験機があったからこそMSN-04、NZ-333などは、高い完成度を達成できたといえる。

MS Development History

DMS-19051G
Dファーストガンダム

MSN-X4
バギ・ドーガ

RGX-D3
Dサイドガンダム

RGM-89B
ジェガン改

AMX-1003S
ガザC改

AMX-102C
ズサカスタム

AMX-110C
ザクIII後期型

4.ロバ・ズラズ(逆襲のシャド)

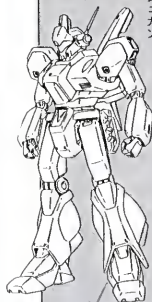
UC0093当時、反連邦組織等の運動は非常に活発で、ネオ・ジオン復活の機運もあり、潜在的な脅威は増す一方であった。にも関わらず、連邦軍内で具体的に講じられた対策は外郭新興部隊ロンド・ベルの設立だけだった。RX-93ガンダムは、ロンド・ベル隊の要請に応え、RX-78ガンダムの設計思想を受け継ぎ、最新の技術を投入した超高性能機で、設計にはパイロットのアムロ・レイ大尉が参加している。月面のアナハイム・エレクトロニクスのフォン・ブラウン工場で作られたこの機体は、サイコ・フレームとフィン・フアンネルを装備していることが

最大の特徴である。サイコ・フレームは、コンピュータチップを金属粒子のレベルで封じ込めたもので、駆動系に直接パイロットの意志を伝えることができ、機体の追従性が大幅に向上した。フィン・フアンネルは、アムロ大尉のアイディアによるもので、メカ粒子砲として使用できる他に、Iフィールド発生器としても機能し、ビーム・バリアーを機体周辺に展開可能である。RGZ-91リ・ガズイは、MSZ-1006Zガンダムの量産機としてUC0091にアナハイム・エレクトロニクスによって試作されたもので、量産化を妨げる変形機構を排除し、武装モジュール

を追加装備するだけのBWS(バックウエポンシステム)を採用し、量産性を向上させている。スペックの上ではMSZ-1006、006C1等に匹敵し、スペースファイター形態での運動性、長距離巡航能力、火力など、量産機とは思えない性能を発揮するが、完成までの時期に大規模な戦闘もなく、小規模なゲリラ活動のみが頻発している状況だったため、他のMSと比較してコストが割高だったこともあり、量産化は見送られた。名称の由来は「リファイン・ガンダム・ゼータ」。試作機の1機のみがロンド・ベル隊に配備されたい。RGM-189ジェガンは、ジム系の発展型MSである。機体の設計にあたっては、MSA-1003、

007、なども含め、いわゆるジム系MSのほとんどを参考にしていく。連邦軍の量産機はRGM-186Rに至るまでほとんど連邦軍内で開発生産されていたが、この機体はアナハイム・エレクトロニクスで製作、量産されている。主力を務める第2世代MSとして非常に優秀な機体である。総力戦における主力は第2世代と呼ばれるMSが依然としてその地位を占めており、戦略において不可欠な戦力だが、戦局を決定する戦闘は既に第4世代のMSによって展開しており、その範疇を超える機体も出現している。現在想定できる第5世代以降のMSの機能としてはミノフスキークラフトの搭載、宇宙空間との往復能力などがある。

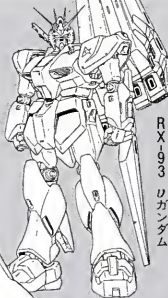
MS Development History



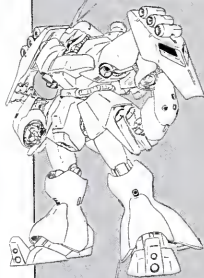
RGGM-89
ジェガン



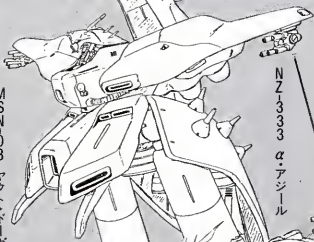
RGZ-91
リガンズイ



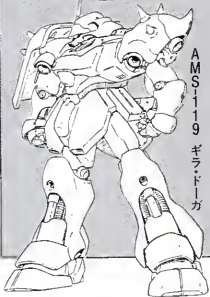
RX-93
リガンダム



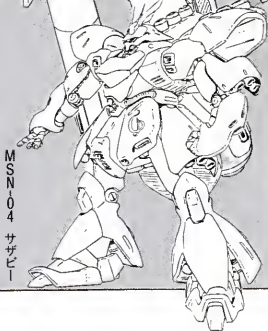
MSN-03
ヤクト・ドーガ



NZ-333
α・アジール



AMS-119
ギラ・ドーガ



MSN-04
サザビー

5. ネオ・ジオンのMS (逆襲のシャア)

MSN-04サザビは、

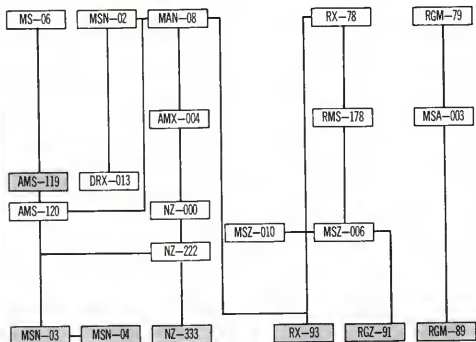
NT専用MSとして開発された。ネオ・ジオンを再興したシャアは、自軍のNT研究所に開発を命じたが、製造、実験施設が不十分だったため、基本的な設計を除いた開発、製造はアナハイム・エレクトロニクスのグラナダ工場に委ねられた。当初、AMS-119をベースにサイコムシステムを搭載させる予定であったが、それで作られたMSN-03は、実用には耐えられるものの、要求された性能には達せず、新たに大型の機体に変更された。その過程で開発されたサイコ・フレームを採用することにより、新開発の装甲材の導入と相乗効果

が生まれ、軽量化と同時に多数のロケットモーター、アポジモーターの内蔵が可能となり、他に類をみない機動性を獲得することができた。この機体はジオン系MSの集大成であり、かつ完成された機体である。尚、サイコ・フレームの技術は、シャア本人により、意図的にアナハイム・エレクトロニクスのグラナダ工場から漏洩させたものとされる。MSN-04の開発途上で生まれたMSN-03ヤクト・ドーガは、前述の通り、AMS-119をベースとして2機のみが製造されている。ムーバブル・フレームはAMS-119のものを流用しているが、大型のジェネレータ

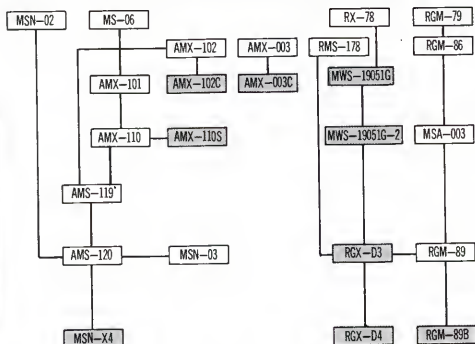
を搭載しているため、出力が高い。しかし、本来大型のサイコムシステムを小型化して組み込んだため、機能的には不十分な点もあった。サザビと同型のファンネルを6基装備している。AMS-119ギフ・ドーガは、グリプス戦争後期に開発された機体を原型として、操縦系などに手を加え、MS-06の設計思想に基づき、汎用性を持たせたネオ・ジオン軍の主力量産機である。性能的には連邦軍のRGM-89と同程度だが、旧式化の観は否めない。NZ-333αアジールは、多くのNT用MS、MAを参考に、ネオ・ジオンが総力をあげて開発した超大型MAである。この機体は、主に対艦戦用に開発された機体で、武

装も戦艦級である。この機体自体を巨大なパワープラントと呼ぶことができ、巡洋艦級のボデイの大半が、パワージェネレーターと推進器、周辺器機で占められており、武装の占める比率は意外に小さい。ただし、この機体は武装自体が大型であるため、威力は絶大である。脚部に相当するスツルムスラスターユニットは、巨大なプロペラントタンクと推進器が一体となったもので、燃料を消費し切った段階で投棄される。MSN-02に似て歩行ユニットがないように見えるが、完成した機体ではさほど意味のないものだ。ファンネル9基と有線サイコム式メガアーム砲等を装備し、機動兵器としては最強である。

逆襲のシャアMSの開発経路



ダブル・フェイクMSの開発経路



MS

【MS用語辞典①】

アーム・レイカー AMBAC

アーム・レイカー (Arm Leaker)

MSのコクピットにある操縦レバーのこと。従来のスティックよりも少ないアクションでより多くの操作が行える。ボールの上にカップが載ったような構造で、保持性も向上している。

1 フォールド (Fold) ミノフス

キー物理学の応用で生まれた、メガ粒子砲に使用されるメガ粒子の収束作用を持つ一種の力場のこと。メガ粒子に対する偏向能力をもっているため、大出力で指向性を持たせずに使うとビ

ームバリアーとして機能するが、エネルギーの消費が膨大なため、長時間の使用あるいはシステムの小型化は非常に難しい。

アラハス (Arhas) サラミス

改装したファクトリーベース。アナハイムの要望とモノトーン社の提携で作られた調査開発、情報収集艦。大規模なコンピュータシステムを持ち、ブリッジにイミュレーターを持つ。戦力はあまり大きくはないが、当時頻発していたゲリラによる襲撃程度なら排除でき

た。

ALICE (Advanced Logic & Intelligence)

Sequence Organizing Equipment) Sガンダムに搭載された発展型

論理・非論理認識装置。RX-78-2に搭載していた教育型のコンピュータ

をさらに発展させたもので、戦闘の状況をも判断し、一定レベルの人格さえ持つて

いたといわれる。しかし、同じ時期に開発がスタート

したNTの研究が進み、強化人間などのほうが確実な

成果を上げ、人間的な機械を作るよりも機械的な人間

を作るほうが廉価で容易だという判断があつて、研究

は凍結されている。

α任務部隊 (Task Force α) ニュー

ディサイズの討伐を目的として編成された部隊。連邦宇宙軍少佐のイーストン・

ヒースロウを司令兼旗艦ベガサスIII艦長とする。

AMBAC (Active Mass Balance Anticor-

ミ三) 腕や足など機体の一部を高速で運動させ、その

反作用によって機体の姿勢を制御する方法。宇宙空間

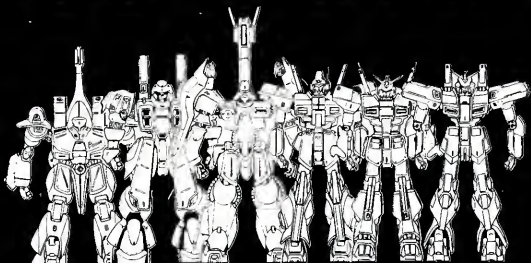
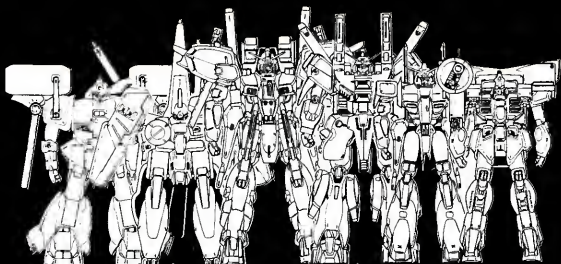
においては、バーニアによる姿勢制御を行うよりも効

率がよく、推進剤を必要としない点からもMSなどに

広く採用されている。



アーム・レイカー



モビルスーツ

MS性能比較

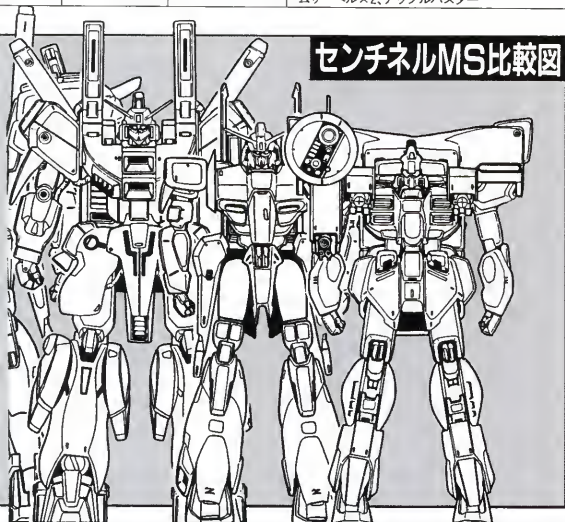
An Ability symmetry of M.S.

●立体物、コミックと、アニメーションの枠を超えた様々な作品の中で、MSも数多くのバリエーションを持つに至った。代表的な作品の中から主要MSのデータスペックをはじめて一挙に発表する。

Illustration by Hideki Hoshino.

1.ガンダム・センチネル モビルスーツ

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
143600	18800	バルカン×8、大腿部ビームカノン×2、背部ビームカノン×2、インコム、ビームサーベル×2、ビームスマートガン
1182000	18800	同上、さらに、リフレクターインコム、ビーム偏向器、背部ビームカノン×2(計4)
2140000	18800	バルカン×8、背部ビームカノン×4 ビームスマートガン、インコム
124200	21000	バルカン×2 大腿部ビームカノン×2 ビームサーベル×2、ビームスマートガン
40800	12000	バルカン×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
66400	12000	バルカン×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
40800	625000	バルカン×2、ビームライフル
88000	15000	ビームサーベル×4、ビームライフル(グレネードランチャー)、速射型スマートガン、マシンガン、クレイバズーカ、他
1890400	20300	バルカン×2、ビームサーベル×2、武装ポッド×3、マシンガン、速射型スマートガン、ロケットランチャー×6
111200	12000	ビームライフル、ビームサーベル×2、インコム×2、ビームカノン×2、(ミサイルポッド×4)
59300	11690	ビームカノン×2、バインダー武装ポッド×2、ビームサーベル×2、ナックルバスター



センチネルMS比較図

ORX-013 ガンダムMK-V

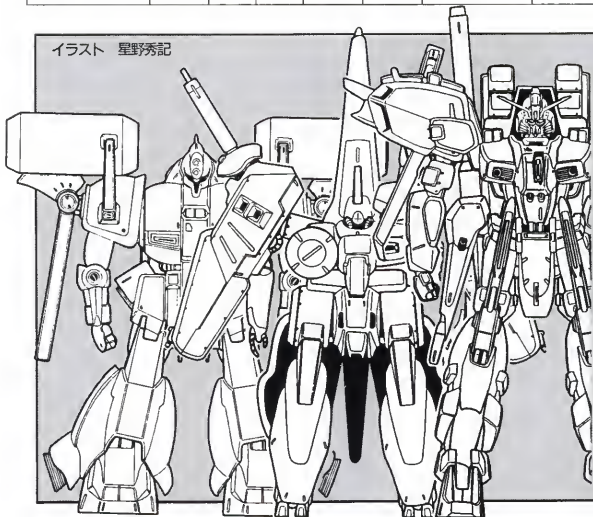
MSZ-006C1 Zプラス(C型)

MSA-007E EWACネロ

MS性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
S-ガンダム	MSA-0011	25.2	21.7	38.4	73.0	7180
Ex-Sガンダム	MSA-0011Ex	25.9	21.7	69.2	162.5	7180
Bst-Sガンダム	MSA-0011Bst	19.2	15.7	82.2	220.1	12250
Zプラス	MSZ-006C1	22.1	19.9	36.2	77.0	2070
ネロ	MSA-007	20.0	19.0	34.1	60.5	1650
ネロトレーナー	MSA-007T	20.9	19.0	38.2	61.7	1650
EWACネロ	MSA-007E	22.0	21.3	43.6	79.2	1650
ゼク・アイン	RMS-141	19.2	19.2	37.6	72.5~87.3	2100
ゼク・ツヴァイ	RMS-142	27.4	25.2	88.2	151.7	7330
ガンダムMk-V	ORX-013	25.4	22.8	39.8	85.3	5320
ガゼE	AMX-007	24.8	16.3	34.8	68.2	2280

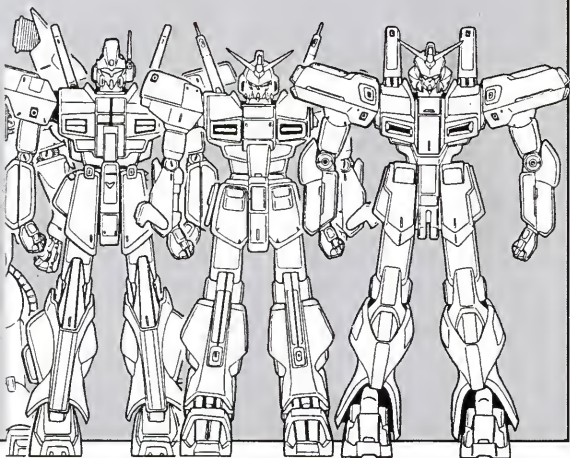
イラスト 星野秀記



2. ダブルフェイク モビルスーツ

スラスタ総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
52050~98350	—	リベットガン、大型トリモチ弾、マグネットアンカー、ドリルガン、ダミー(MS、岩)各種有線式爆薬
53580~99510	—	コードコネクテッドライフル、ビームサーベル×2
64296~119412	14200	ビームライフル、ビームサーベル、Gプラストナックル
72658~137251	14200	ビームライフル、ビームサーベル、G-クルーザーユニット(メガキャノン×2、ビーム砲×2)
83600	14200	ビームライフル、ニードルショットバック、ビームサーベル、他
129800	10800	ビームサーベル、専用銃ガンスピア、攻撃用バックAk-90S
212800	9850	メガ・マシンガンSPS、ビーム砲×2
100059	9989	ビームサーベル×2、ナックルバスター、ビーム砲×2
72000	16400	ビームライフル、ビー・ビット×2(モビルビット)スプーン・ビット×8(ピクセル)

ダブルフェイクMS比較図



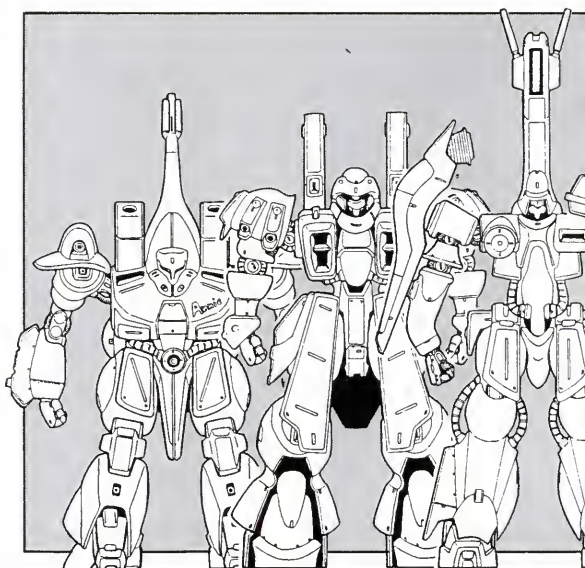
RGM-89B ジェガン改

MWS1905G-2
Dガンダムセカンド

RGX-D3 Dガンダムサード

MS性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
Dガンダムファースト	MWS19051G	20.5	18.9	53.4	53.4	1820
Dガンダムセカンド	MWS1905G-2	20.5	18.9	42.2	52.8	2002
Dガンダムサード	RGX-D3	21.2	19.5	41.5	55.5	2528
Dガンダムフォース	RGX-D4	21.2	19.1	41.2	96.8	2763
ジェガン改	RGM-89B	22.3	19.5	19.5	49.2	2350
ズサ改	AMX-102C	24.3	15.0	22.5	61.8	2250
ザクIII後期型	AMX-011C	21.0	21.0	42.5	69.2	12950
ガザC改	AMX-003S	18.5	18.5	29.2	75.2	2020
バキ・ドーガ	MSN-X4	22.1	18.5	21.7	48.3	3110



3. 逆襲のシャア モビルスーツ

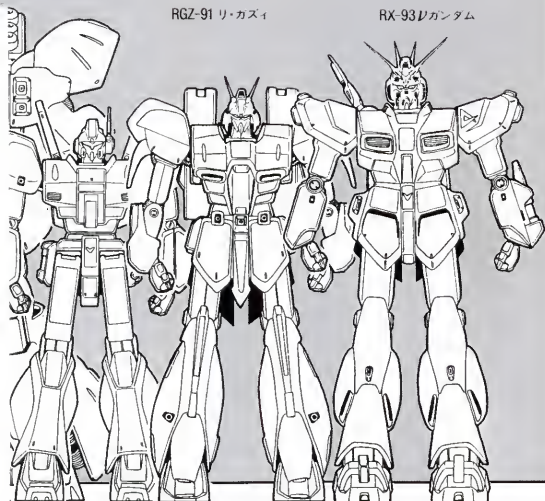
スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
54000	16400	ビームマシンガン、ビームソードアックス、グレネードランチャー、スツルムファウスト
82000	16400	ビームアサルトライフル、ビームサーベル、メガガトリングガン、メガ粒子砲×4(シールド) ミサイル×6
133000	22600	ビームショットライフル、ビームトマホーク、ビームサーベル、ミサイル×3、ファンネル×6
2217500	23800	バルカン砲×2、メガ粒子砲、有線サイコミュ式メガアーム砲×2、ファンネル×9
48700	14200	ビームライフル、ビームサーベル、バルカン砲×2、ハンドグレネイド×3、2連装ミサイルランチャー
67600	14200	ビームライフル、ビームサーベル×2、グレネイドランチャー×4、バルカン砲×2、バックウェポンシステム
97800	21300	ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ビームキャノン、バルカン砲×2、ミサイル×4、フィンファンネル×6

逆襲のシャアMS比較図

RGM-89
ジェガン

RGZ-91 リ・カズィ

RX-93Vガンダム



MS性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
ギラ・ドーガ	AMS-119	20.0	20.0	23.0	50.8	2160
ヤクト・ドーガ	MSN-03	21.0	21.0	28.0	64.6	3340
サザビー	MSN-04	25.6	23.0	30.5	71.2	3960
α-アジール	NZ-333	108.26	58.4	128.6	267.4	19830
ジェガン	RGM-89	20.4	19.0	21.3	47.3	1870
リ・ガズィ	RGZ-91	21.5	20.5	24.7	55.2	2550
νガンダム	RX-93	23.0	22.0	27.9	63.0	2980

AMS-119 ギラ・ドーガ

MSN-03 ヤクト・ドーガ

MSN-04
サザビー



MS用語辞典②

エアーズ市・サイコ・フレーム

エアーズ市 (Aers City) 1月の裏側に位置する超保守的な自治都市。カイザー・パインフイールド市長のもと、連邦軍の主導権をエウーゴが握ったことを不満としてニューデイスイズを支持し、市民を巻き込んでα任務部隊と壮烈な市街戦を繰り広げた。

エイノー艦隊 (Einhorn Fleet) ニューデイスイズ討伐のため編成されたα任務部隊の主力として派遣された。旧ソロモンに駐留のマゼラン改級のブル・ランを旗艦とする

る連邦軍本国艦隊の一部。

司令官のブライアン・エイノー提督の判断で本部の命令を無視してニューデイスイズと合流する。

エグム (Egum) 旧エウーゴから離反した反地球連邦組織。

軍の覇権を握ったことで有名無実となったエウーゴに不満を持つ、過激派やテロリストが中心となって構成している。ネオ・ジオンの援助もあつたとされている。

NSP (Neo-Solomon Peace) 旧世紀1960年代に起きた公民権運動のひとつから名を取

った私設軍隊養成組織の俗称。

核ハルス・エンジン (Nuclear Heart Engine)

小規模な核爆発を連続的に発生させ、その超巨大な衝撃波による圧力によって推力を得るシステム。

小惑星や大質量の建造物を運搬するため使われるが、宇宙空間の放射能汚染の問題が未解決のままである。

カノード隊 (Canard) エルデス

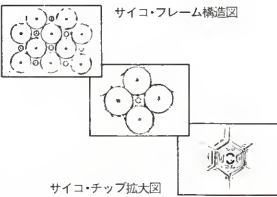
コ・バイエをボスとするNSPの最強のテロリスト部隊。カスタムメイドのムサイやガザC改、ガザW、ズサカスタム、ザクIII後期型などを持つ。

サイコ・フレーム (Psycho Frame)

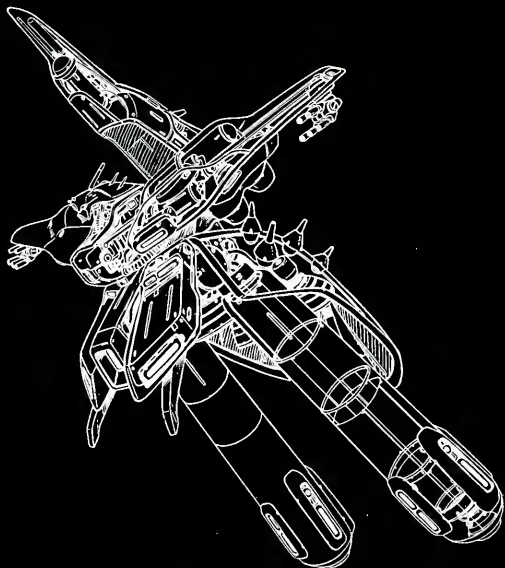
脳波を増幅して発信する装置であるサイコミュの性能を持つチップを金属粒子のレベルで封じ込んだMS用の

フレームのこと。サイコミュシステムとして機能させるには親機となる装置が必要であるが、これによってMS機体内に占めるサイコミュ装置の大幅なスペースを節約することができる。

サイコ・フレーム構造図



サイコ・チップ拡大図



ガンダム オフィシャル レポート

GUNDAM Official Report

●ネオ・ジオンがシャアによって復活するまでの期間になにがあったのか？ そして兵器はどう変わっていったのか？ その疑問にお答えしよう

Illustration by Hitoshi Fukuchi.

ガンダム・オフィシャル・レポート、1

歴史

History

U.C.0090~0093

グリプス戦争後

U.C.0087年に端を発するグリプス戦争から始まった、地球圏すべてを巻き込んだ混乱は、一年戦争以来蓄積していた諸問題が噴出したものだといえることができる。0089年1月17日にハマーン戦争と呼ばれる第1次ネオ・ジオン抗争が終結してから事態は鎮静したように見えたが、連邦は何の対策も講じてはおらず、度重なる戦争で生じた難民に対する救済措置もおざなりなものだった。実際にはアースノイドとスペースノイド間の軋轢は少しも解消されておらず、8月25日には各コロニーの自治権を無視した規制も加えられた。この時期の反地球連邦運動はかつてのサイド3のときのような

狂騒状態には至らなかったものの、広くスペースノイド全体に敷衍されたものとなっていき、連邦政府に対する反感も徐々に人々の中に醸成されていった。0088年前後のタイターンズの台頭や月面都市エアーズの市民を巻き込んだニューデイスイズの行動などが、連邦に対する印象を決定づけた側面も否定できない。



イラスト、福地 仁

0092年12月22日、難民収容コロニーのスウィートウォーターを艦隊により占拠し、ネオ・ジオンの復活を宣言するシャア・アズナブル。別個に活動していた反連邦組織をまとめあげ、その活動の拠りどころとしてスペースノイドの支持を獲得した。過激派の行動は独立したものであったとされるが、彼の暗躍はあっただろうと考えられる。

History

歴史

年・月・日	事 柄
0087-03-02	エウーゴ、グリプス1より試作MS3機を強奪。
04-29	最後の木星エネルギー輸送船ジュビトリス地球圏に帰還
05-11	エウーゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を攻撃。
06-29	ティターンズ、ホンコン・シティを襲撃。
08-10	ティターンズ、アポロ作戦発動。フォン・ブラウン市を襲撃。
08-17	エウーゴの指導者、ブレックス・フォーラ准将暗殺。
10-12	アクシズ、地球圏に帰還。
11-16	エウーゴ、ダカールの連邦会議を占拠。全世界にティターンズの悪を訴える。
12-07	ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーによってサイド2・18パンチを破壊。
12-14	ティターンズ、サイド2・21パンチを毒ガス攻撃。住民は全員死亡。
0088-01-18	アクシズ、ゼダンの門の旧ア・バオア・クーを破壊。
02-02	エウーゴ、メールシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリプス2を占拠。
02-22	エウーゴ、アクシズ、ティターンズの三つともえの艦隊戦。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エウーゴも戦力の大半を失う。シャア・アズナブル行方不明。
02-24	惑星ベズンにおいて、ティターンズ教導部隊の一部青年将校が「ニューディサイズ」を名乗り反乱を起こす。
02-29	ネオ・ジオン、各サイドに制圧部隊を送る。
03-23	連邦軍、ニューディサイズ討伐部隊前衛艦隊α特務部隊を編成。
03-28	ベズン、占領部隊の核爆弾により爆発。ソロモン駐留のエイノール艦隊、反乱軍の討伐に発進するが、連邦軍の指揮を離れ、装備と共にニューディサイズと合流。
03-29	エイノール艦隊、月裏面のエアーズ市に降下。
04-01	エアーズ市の上空で攻防戦が展開される。FAZZ部隊全滅。ニューディサイズ、マス・ドライバー基地を占拠。
04-02	エアーズ市武装解除。ニューディサイズ、マス・キャッチャーを利用し脱出。ネオ・ジオン、ジオン残党のトワニング隊と合流。
04-04	ニューディサイズ、低軌道中継ステーション、ペントを制圧。
04-05	α特務部隊、任務終了。
06-06	〔ティターンズの反乱（グリプス戦争）〕終結
08-01	ネオ・ジオン、先遣部隊を地球に降下させる。
08-29	ネオ・ジオン、ダカールを占拠。旧公国軍、ティターンズ残党を配下に治める。
10-31	ネオ・ジオン、ダブリンにコロニーを落とす。
11-14	地球連邦政府、ネオ・ジオンにサイド3を譲渡。ネオ・ジオンの戦力、地球より撤退する。
12-25	ネオ・ジオン内でグレミー軍が反旗を翻す。
0089-01-16	アクシズ、コア3に激突。
01-17	エウーゴ、ネオ・ジオンを制圧。ハマーン・カーン戦死。ミネバ・ザビ行方不明。〔ハマーン戦争（第1次ネオ・ジオン抗争）〕終結。
03-15	木星エネルギー輸送再開。ジュビトリスII発進。
05-01	連邦軍、大質量アステロイドの管理体系を再編成。
08-25	連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対し経済制裁等の引き締め強化。
0090-01~	エグム、NSP等、反地球連邦組織の活動活発化。
02-03	難民収容施設として、スウィート・ウォーターを改造
03-21	連邦軍、外郭新興部隊ロンド・ベル隊再編。
07-15	NSPのカラード隊、サイド6、再建中のデキサスコロニーを襲撃。連邦軍のアラハス隊、モノトーン社のスタッフと合流。
10-15	サイド2でアラハス隊とカラード隊、戦闘。
11-23	民間会社モノトーンのスタッフが連邦軍のテストパイロットに抜擢。
12-15	NSP 徳健派、アラハスと合流。ネオ・ジオンの過激派偽装陽動部隊と交戦。
0091-02-06	NSP 解散宣言。
02-27	過激派偽装陽動部隊、木星へ。
0092-08~	連邦軍、本部をチベットのラサへ移動。
12-13	ネオ・ジオン、地球連邦軍に対し攻撃を示唆。
12-22	シャアを総帥とする艦艇、スウィート・ウォーターの占拠を宣言
12-25	連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。
0093-02-27	ネオ・ジオン総帥のシャア、インタビュー番組内で事実上の宣戦布告。
03-03	ネオ・ジオン艦隊スウィートウォーターを発進。
03-04	5thルナ、連邦軍本部所在地チベットのラサに激突。
03-06	ネオ・ジオン軍と連邦軍、サイド1、ロンデニオンにおいて、極秘裏に和平交渉。
03-12	ネオ・ジオン艦隊、投降を偽装しアクシズを奪回。地球へ降下させるが失敗。〔アクシズ戦争、シャアの反乱（第2次ネオ・ジオン抗争）〕終結

History

第2次ネオジオン抗争

0090年にはいり、反地球連邦組織の活動は、激化していた。



ラー・カイラム内でB・W・Sを取り付けるRGZ-91リ・ガズィ。B・W・Sの構想自体は88年当時にMSZ-006CIに続いて検討されていた。

達し、連艇まで調り、MS組織もあり、模を持つ

邦への妨害工作も顕著になった。テロや小規模な戦闘が頻発し、その対応をせまられた連邦は、同年3月21日付けで、外郭新興部隊 Rond・ベルを再編し、装備と人員の補充を行なった。当時、地球連邦軍の宇宙軍の艦艇は各サイドのコロニーと月軌道内にあるいくつかの小惑星に、内乱防止のためとしての駐留部隊となつて分散していた。そのため、実働部隊が必要となり、Rond・ベルが再編されたのである。しかし、組織としての規模は依然として小さく、空コロニーなどが点在する月軌道内外の暗礁空域などの搜索は物理的に不可能であった。また、当時の連邦軍の戦略は有事を想定しておらず、国家規模の戦争には到底、迅速な対応ができるものではなかつた。

0092年12月22日にシアアのスイートウォーター占拠宣言が発せられてから事態は急変した。連邦政府自体が取った対策は、シアアがスイートウォーターの独立を求めてきた場合の手続きの検討程度だったが、地球連邦政府の高官であるジョン・パウアー（0089年当時にジェガンタイプの量産を強行したのも彼である）の指示もあり、12月25日に、Rond・ベル隊の増強が行われ、組織的にも実戦部隊として機能できるように再編成された。大気圏周回用ガルダに配属されていたブライト・ノアも、それまでの経験を買い、旗艦ラー・カイラムの艦長として Rond・ベル隊に編入された。しかし、それでも戦力は十分ではなかつた。

った。Zガンダムをはじめとして、百式まで、ガンダムと名が付くすべてのMSが永久保存の名目で連邦の手により秘匿され、その保管場所までが不明な状態だった。そのため、ロンド・ベル隊に配備されていたMSは、ジェダやジエガンといった量産機のみだった。一年戦争から第1次ネオ・ジオン抗争に至るまで、総力戦や物量戦を除く重大な戦局でのNT専用MSの重要性を熟知していたロンド・ベルのMS隊長アムロ・レイ大尉は、ネオ・ジオンがNTを戦闘に投入してきた場合を想定して、Zガンダムの量産機であるリ・ガズイを製作したが、それでも戦力不足であると判断し、アナハイム・エレクトロニクス社のフォン・ブラウン工場の協力を取

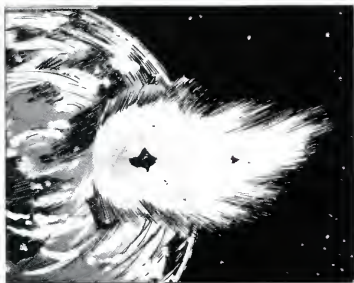
り付け、サイコミュ搭載のZガンダムを開発した。

0093年3月3日に、スウィートウォーターを発進したネオ・ジオン艦隊は、フィフス・ルナに向かった。ロンド・ベル隊が到着したときにはすでに遅く、フィフス・ルナは核パルス・エンジンを作動させ、地球連邦本部があるチベットのラサへ降下を開始した。連邦本部はすでに移転していたが、ラサ周辺に甚大な被害もたらされた。3月6日、極秘に行われた和平交渉でネオ・ジオンは巨額なアクシズ売取金を提示。アクシズの譲渡と武装解除を交換条件とし、連邦との交渉を締結する。3月12日、ルナツーの空域で艦隊の武装解除と投降を行なう予定のネオ・ジオン艦隊は協定を破ってルナツー

を制圧し、保管してあった核兵器を奪取、時を同じくして別動隊がアクシズを奪回した。ルナツー制圧隊の到着を待って、アクシズは地球に降下を開始する。もしこの作戦が成功すれば、地球は居住不能になる。ロンド・ベル隊も秘密裏に核兵器を調達し、激戦を繰り広げた。

大気圏内での核爆発は回避できたものの、双方におびただしい死傷者が出た。そこに、そ

0093年3月12日、地球落下の軌道へ入ったにも関わらず、コースを外れ引力圏外へ抜けるアクシズ。原因は不明だが、その時アクシズが発していた、光が地球を包みこんだ、などの不確定情報が多数あった。



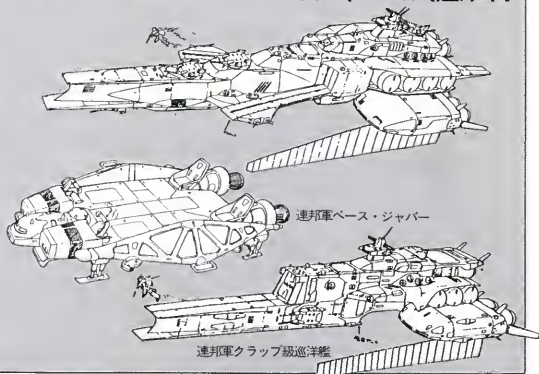
れまで傍観を続けていた各駐留部隊から援護がかけつけたが、戦略的には余りに遅すぎた。だが、なんらかの理由により、アクシズは落下のコースを外れ、ネオ・ジオンの地球寒冷化作戦は失敗した。

通常兵器

U.C.0090~0093

この時期の通常兵器については、歴史的な背景を抜きに語ることができない。地球連邦政府が、第1次ネオ・ジオン抗争以来、組織としてのなて直しを行なっていないからだ。反地球連邦組織などの活動が激化してはいたが、連邦は小規模なテロ以外の脅威はないと判断した。通常兵器の新たな配備はおろか開発も実質的には凍結され、戦力的にはグリプス戦争終結当時と較べて大きな変化はない。特に宇宙戦艦などはテロ鎮圧のためとして各サイドに分散し、艦隊としての再編成さえ遅々として進まなかったのである。一応の対策として、外郭部隊のロンド・ベル隊は編成されていたものの、各コロニーの

ロンド・ベル(連邦軍)

**Weapon**

通常兵器

反乱分子の搜索など、どだい無理な相談であった。

●宇宙艦ラー・カイラム

ロンド・ベル隊の旗艦。一年戦争以来、対MS戦での艦橋の被弾率は高く、その対策として80年代後期以降は、ダミーブリッジや戦闘ブリッジなどを装備することが多くなっている。2連装大型砲5門、ミサイル発射管6門、側方発射管、大小火器多数、ふたつのMSカタパルトを持つ。

●クラップ級巡洋艦

ロンド・ベル隊の主力艦。ラー・チャター、ラー・ギエム、ラー・ザイム、クラップなどが就役している。2連装大型砲2門、ミサイル発射管6門、側方発射管、後方発射管、大小火器多数、MSカタパルトをひとつ装備している。

●ベース・ジャバー

大気圏内で使用されていた無人のS・F・Sを宇宙用に再設計したもの。通常はMSから操縦するが、連絡艇としての設備も追加装備している。

●ブチMS「ズック」

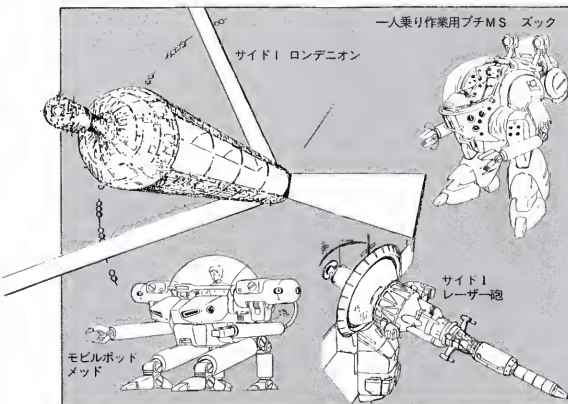
モビル・ポッド「メッド」どちらも普通のワーカーで兵器と呼べる代物ではないが、アクシズ分断工作に威力を発揮した。ズックは元々補修用の装備。メッドは民間のものを徴用した機体である。

●サイド・レーザー砲

ロンデニオンコロニーのシリンドラーの径部分に装備され、100mの砲身を持つ巨大兵器。効果は絶大だが距離に比例して威力は減衰する。

●ロンデニオン

サイド1にあるロンド・ベル隊の本拠コロニー。数少ない協力的なコロニーである。



Weapon

通常兵器

ネオ・ジオンの戦力

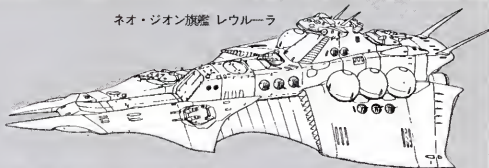
ネオ・ジオンの再興は、第1次ネオ・ジオン抗争のときのように、単純に旧公国軍が復活したものだということとはできない。この時期の「ジーク・ジオン」のスローガンはザビ家に対する忠誠を誓うものではなく、スペースノイドのあるべき未来を説いたジオン・ズム・ダイクンをたたえる宇宙生活者たちの希望そのものであった。逆にいえば、地球連邦政府に対する不満や反感は、それほど広く、深く、人々のなかに存在していたことになる。表立った軍組織としてのネオ・ジオンが存在していないくとも、宇宙生活者の中に潜在的な支持者や協力者が多数存在することにより、兵器の拡充や開発は連邦の追

及から逃れることができた。さらに、ジオンの残党が連邦の組織に潜り込み、シヤアのような人物が立つのを待っていた。こういった背景があつて初めて、シヤアを総帥とするネオ・ジオンは復興することができたのだ。

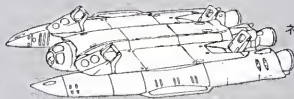
●グワジン級戦艦レウルーラ
ネオ・ジオンの旗艦。グワダン、グワンバンの中間的な装備。外観をもつ大型艦である。例に漏れず戦闘ブリッジをもつ。2連装大型砲5門、2連装砲2門、ミサイル発射管6門、アンチ・ミサイル・ミサイルランチャー大小火器多数、上下でふたつのMSカタパルトを持つ。

●ムサイ級軽巡洋艦ムサカ
ネオ・ジオンの主力艦。電撃作戦の展開が可能のようにエンジンの出力を向上させて

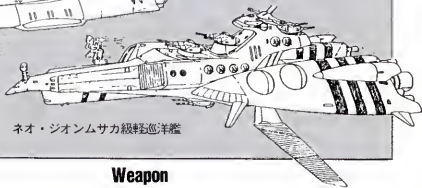
ネオ・ジオン旗艦 レウルーラ



ネオ・ジオン用 シャクルズ



ネオ・ジオンムサカ級軽巡洋艦



Weapon

通常兵器

おり、そのために巨大な放熱フィンを持つている。13番艦まで建造されている。2連装砲4門、ミサイル発射管6門、大小火器多数、斜めに設置されたふたつのMSカタパルトを持つ。

●シャクルズ

エウーゴ系のS・F・Sの設備を使って作られたため、そのままでの名称で呼ばれる。

グリプス戦争当時のものより大型で、航続距離も延長され、一人乗り用のコックピットも増設されている。

●5th(ファイブス)ルナ

スペース・コロニー建設のため地球圏に搬入された小惑星のひとつ。移動のための核パルスエンジンを4基装備している。ネオ・ジオンはこれを質量弾として使用し、地球連邦本部があったチベットの

ラサを壊滅させた。

●アクシズ

一年戦争終結後、ジオン残党が拠点としていた小惑星。

第1次ネオ・ジオン抗争終結後は、連邦に管理されていた。

ルナツーを急襲し、核兵器を手に入れたネオ・ジオンの

手によって核パルスエンジンが復活し、5thルナを上回る

質量弾として、核兵器を満載したムサカの4番艦とともに、地球寒冷化の切り札として投入された。

●スウィート・ウォーター

ネオ・ジオンの本拠地。連邦が、ふたつの異なる密閉型と解放型のコロニーをつなぎ

合わせて、難民収容のために作ったコロニー。ロンデニオンと同じく兵器と呼べるもの

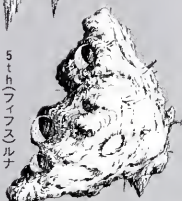
ではないが、住民はネオ・ジオン賛同者で占められている。

ネオ・ジオン

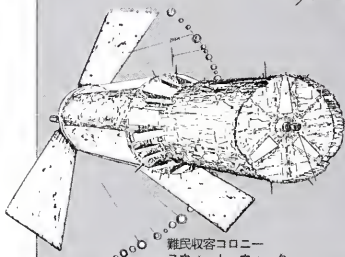
アクシズ



5th(ファイブス)ルナ



難民収容コロニー
スウィート・ウォーター



Weapon

ガンダム・オフィシャル・レポート、3

機動兵器

Mobile Weapon

U.C.0089~0093

攻撃用試作型モビルスーツ

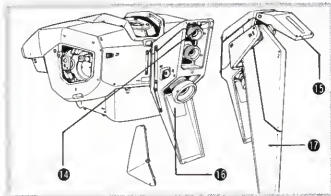
Zプロジェクトによって開発されたMSZ-1006 Zガンダムの設計案によって、その後のMS開発全体にもたらされた恩恵は計り知れないものがある。Zガンダムの持つムーバブルフレームの基本

構造は、コピーが容易で他の構造とは比較にならないほどの強度を持たせることができたからだ。あれだけ多くの可動箇所を持ちながら、ウェイブライダーとしての機能も持ち合わせたTMSとして運用可能なMSが設計可能だとは、当時の技術者たちは考えていなかったからだ。これは構造材の質の向上とも相まって、より高い効率を持った内部構造のレイアウトを実現させることとなり、以後のMSのほ

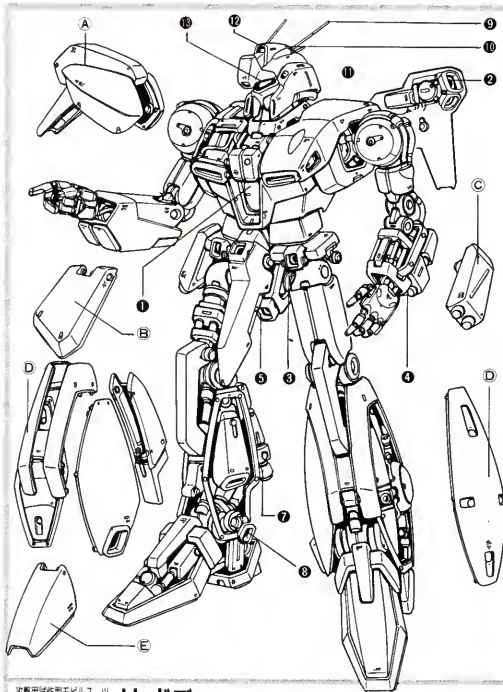
とんどが、どこかにこの構造を取り入れているといっても過言ではない。しかし、Zガンダムは本格的に量産されることはなかった。それは、TMSとしてそのまま量産するには、あまりにコストがかかりすぎるからだ。

RGZ-91リ・ガズイは、ZガンダムのMS形態時のみの構造をコピーして設計されたもので、一般の量産機は足元にもおよばないスペックを達成しているものの、単体での攻撃力はZガンダムの総合戦力には達しなかった。そのため、Zガンダム開発当時考案、試作されたバリエーションの中から、R型とよばれるBW装着の方式を採用しており、宇宙戦闘機形態時には、巡洋艦並みの戦闘が可能で攻撃力の達成に成功している。

BWSに搭載された大口径メガビームキャノンと2基のビームキャノンによって、第4世代MS並の攻撃力を持っているが、NT用の装備としてパイオセンサーを仮設してあるだけなので、厳密にそうかどうかとはできない。



Mobile Weapon



攻撃用試作型モビルスーツ

[RGZ-91] リ・ガスイ

【各部名称】 Aショルダー・アーマー Bス
カート・アーマー Cグレナード・ランチャー
Dレッグ・アーマー Eインステップ・カバー
①コクピット・ハッチ ②ショルダー・ア
ボジモーター ③前方用アボジモーター ④グレ
ナード・ランチャー ⑤下方用アボジモ
ター ⑥レッグ・アボジモーター ⑦スラス

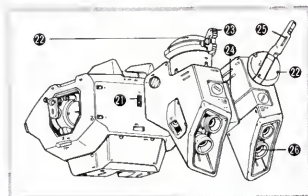
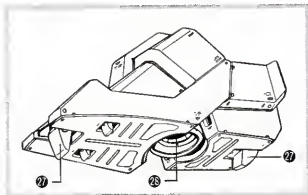
ター ⑧レッグ・アボジモーター ⑨通信アン
テナ ⑩レーダー警戒アンテナ ⑪バルカン
砲 ⑫射撃用レーザー・センサー ⑬ツイン
アイ (メインカメラ) ⑭ブースター・ノズル
⑮ブースター・ハッチ ⑯スラスター・ノズ
ル ⑰スタビレーター

Mobile Weapon

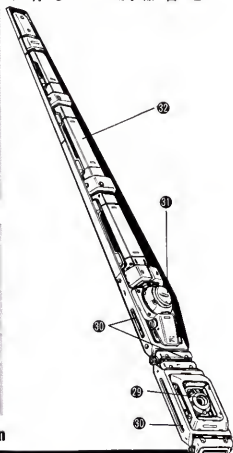
NT専用試作型モビルスーツ

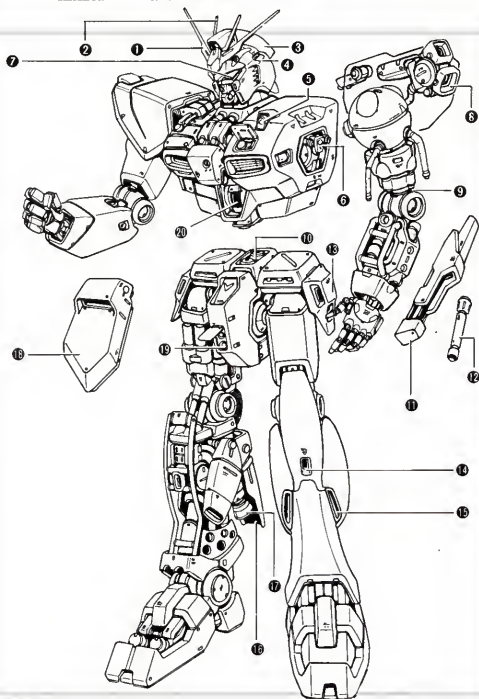
歴代のガンダムタイプの機体の最大平均値を出し、新素材を使って再設計されたのが、このRX-93レガンダムである。画期的な新素材のサイコ・フレームと、既存のビット兵器の概念を覆すフィン・ファンネルを装備したこの機体は、対NT専用機としても他と一線を画すものがある。サイコ・フレームがコクピット周辺を始め各駆動制御系に配置され、機体の追従性が格段に向上しており、パイロットの思惟と同時に機体が作動する。6基装備されたフィン・ファンネルは、解放型のメガ粒子加速帯と小型のジェネレータを内蔵し、それ自体が3プロパックからなる羽根状のAMBACユニットでもあるた

め、燃料の消費が少なく、運動性と稼働時間が大幅に改善されている。さらにこの兵器の特徴は、ビームバリアの展開が任意に可能であることだ。通常、機体に装備されるイールド発生器と原理は同じだが、ファンネルの配置で有効面を変えられるので、ビーム兵器に対しては、実質的にウィーク・ポイントが存在しないといえる。敵のビット兵器がこのフィールド内に干渉するとサイコ・ウェーブが逆流し、生理的なダメージを受けることがある。アナハイム・エレクトロニクスのフォン・ブラウン工場で作られ、短い製作期間だったにもかかわらず、ガンダムタイプのMSのなかで、最強の機体となっている。



Mobile Weapon





NT専用試作型モビルスーツ

[RX-93] νガンダム

【各部名称】 ①通信アンテナ ②マルチセンサー ③バルカン砲 ④排きよう口 ⑤レーザーセンサー ⑥マニピュレータージョイント ⑦メインカメラ ⑧ショルダーアポジモーター ⑨流体モーター ⑩コネクティングポート ⑪ビームサーベルホルダー ⑫スペアビームサーベル ⑬4方向アポジモーター ⑭ニアアポジモーター ⑮レッグアポジモーター

ター ⑯スラスターカバー ⑰スラスターノズル ⑱スカートアーマー ⑲エクステンションポート ⑳コクピット ㉑バックパックコネクター ㉒ターレット ㉓フィンファンネルジョイント ㉔専用マウント ㉕ビームサーベル ㉖スラスター ㉗スパイク・クロー ㉘スラスターノズル ㉙メインスラスター ㉚バーニアスラスター ㉛ジェネレーター ㉜ポンピングユニット

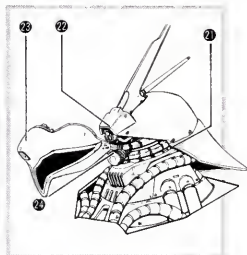
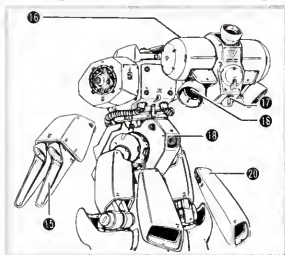
Mobile Weapon

NT専用試作型モビルスーツ

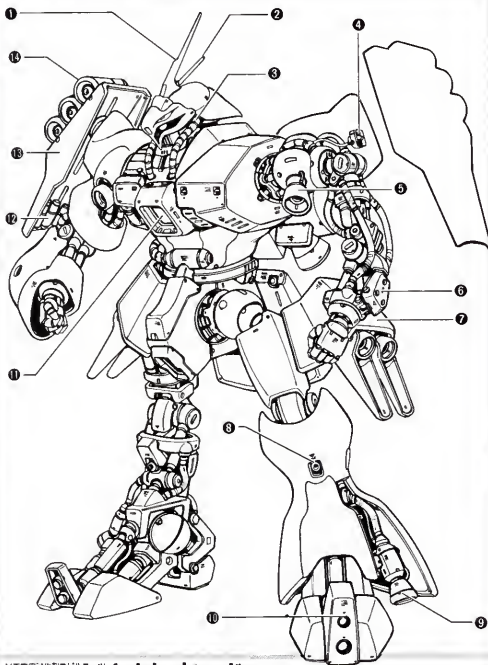
0090年代当時のネオ・ジオンの生産能力では、NZ1333の製作に総力をあげていたこともあって、量産機以上の性能のMSを製作することは不可能に近かった。AMS-119ギラ・ドーガは、グリプス戦争後期に開発された機体が原形機で、操縦系などに改良を加えて現在の量産バージョンとなった。このMSN-03ヤクト・ドーガは、量産機であるAMS-119をベースとして開発された、NT専用重MSである。開発はアナハイム・エレクトロニクスのグラナダ工場で行われた。AMS-119のムーバブルフレームを流用し、約1.6倍の出力を持つ大型のジェネレータを搭載し、各種アビ

オニクスのレイアウトも変更されていて、装甲材もチタン合金セラミックス複合材から変更されている。だが、ベースとなった機体が、元々サイコミュ搭載を想定した機体ではなかったため、搭載に際してサイコミュに必要とされる装置自体を小型化したのが、そのため機能的に不十分な点が出てきた。そこで、小型化のために省略された機能を代替するためにサイコ・フレームが開発されることになった。逆に、このサイコ・フレームが組み込まれたために機体の追従性が向上し、厳密に言えば改造機であるにもかかわらず、要求された能力をかなりの水準で達成していた。しかし、開発当初に目標とされたレベルはクリアーできず、2機が試作されただけだった。

この機体は通常のMSと較べても、かなり高い戦闘能力を持っている。ビームアサルトライフル、ヒートナイフ付きビームサーベル、ビームガトリリングガンなど武装が充実している。オプションシールドには1基あたり9・3メガワットの出力を持つ4基のメガ粒子砲が内蔵され、接近戦で威力を発揮する。最大の武器は両肩のシールドアーチャーに装備されている6基のファンネルである。1基あたり10・6メガワットの出力を持ち、サイコ・フレーム採用により追従性及び即応性が向上している。



Mobile Weapon



NT専用試作型モビルスーツ

[MSN-03] ヤクト・ドーガ

【各部名称】 ①通信アンテナ②レーダー警戒アンテナ③動力パイプ④ショルダーアーマーマウントラッチ⑤ショルダーアジャスターモーター⑥オプションシールドマウントラッチ⑦サイドスカートアーマー⑧アジャスターモーター⑨スラスターロケットモーター⑩センサー⑪コックピットハッチ⑫小型ミサ

イル⑬ファンネルポートシールド⑭ファンネル⑮スタビレーター⑯プロペラントタンク⑰後方カメラ⑱可変スラスターノズル⑲アジャスターモーター⑳リアスカートアーマー㉑モノアイガイドレール㉒レーザーセンサー㉓カメラシールド㉔メインカメラ

Mobile Weapon

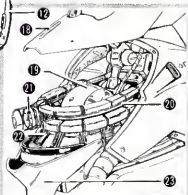
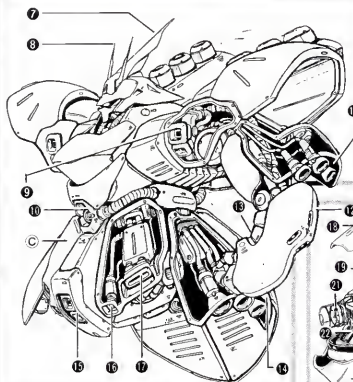
NT専用試作型重モビルスーツ

第4世代に分類されるMSの条件は、サイコミュを操縦系に組み込み、メガコンデンサー直結型のメガ粒子砲を搭載していることである。このMSN-04サザビーは、まさに第4世代と呼ぶにふさわしく、ジオン系MS中もっとも理想的なバランスのとれたものであり、かつ完成された機体といえる。MSN-03の開発中にうまれたサイコ・フレームによって、構造物そのものにサイコミュ能力を持たせることに成功し、設計段階からこの素材の導入を想定していたため、MSN-03をはるかに上回る追従性を獲得している。しかし、この技術にはいまだ未解明の部分が
多い。また、この機体はガン

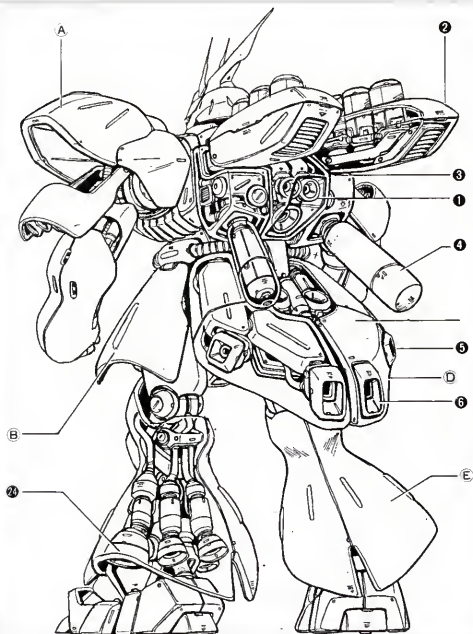
ダリウム系合金の新開発によって装甲材の強度が増し、機体の耐弾性を落とすことなく装甲を薄くでき、軽量化とともにプロペラントの増量が可能となったため、機体の持つ機動性が飛躍的に向上した。さらに、高出力のジェネレータを搭載したことにより、メガ粒子砲の稼動が可能になっている。

この機体のポテンシャルにあわせ武装面も充実しており、MSN-03と同タイプの6基のファンネルと、腹部に装備された8・8メガワットの出力を持つメガ粒子砲が装備されている。オプションとしてビームトマホーク、ビームサーベル、シールドにマウン
トされた3機の小型ミサイル、そして10・2メガワットの出力のビームショットライフル

などが装備可能である。機体に採用しているイジェクション・ポッドは、姿勢制御用のアポジモーターを装備しており、パイロットのサブイバビリティが向上している。



Mobile Weapon



NT専用試作型重モビルスーツ [MSN-04] サザビー

【各部名称】Aショルダー・アーマーB側部スカート・アーマーC前部スカート・アーマーD後部スカート・アーマーEレッグ・アーマー1背後ブースター2ファンネル・コンテナ3バック・バック4プロペラントタンク56後方アポジモーター7通信アンテナ8レーダー警戒アンテナ9前方用アポジモーター10メガ粒子砲11ショルダー・

バーニア12シールド・マウントラッチ13ビームサーベルホルダー14側部スカートバーニア15前部下方用アポジモーター16前部スカートアポジモーター17頭部カバー18インジェクション・ポッド19モノアイカメラ20メインカメラ21モノアイカバーバイザー22フェイスガード23脚部バーニア

Mobile Weapon

機動兵器

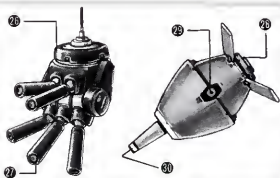
NT専用試作型モビルアーマー

NZ1333αアジールは、形式番号からしてもNZ1000クイン・マンサの後継機ということができるが、実際には、一年戦争当時から連綿と続くジオンのNT専用機動兵器を大成したMAとなっている。主としてMSN102ジョング、MAN108エルメスをはじめ、AMX1004キュベレイなどの優秀な機体を参考にして建造された。脚部に装着された巨大なスツルムスラストユニットは、2槽式のプロペラントタンクと推進器をひとつにしたものであり、圧倒的な加速性能を本機にもたらす。ユニット単体で地球の周回軌道にのれるだけの推力を獲得でき、戦闘空域に到達する時間を極端に

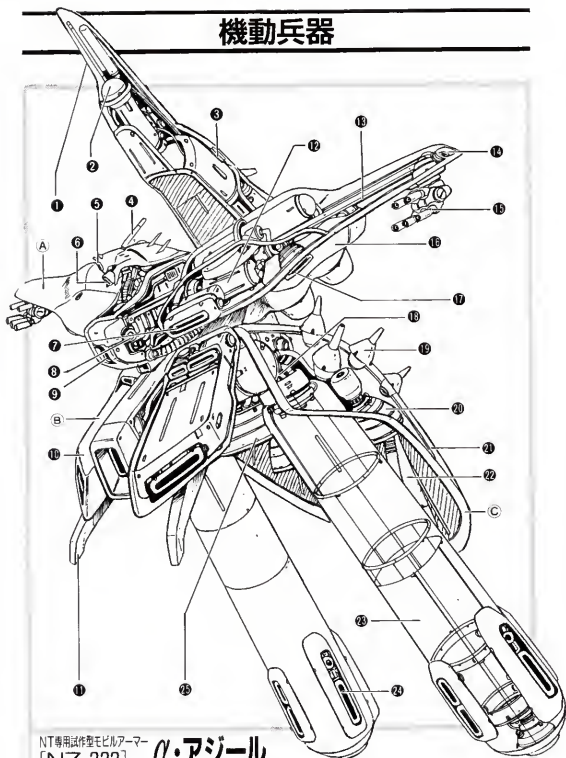
短縮することが可能だ。戦闘時このタンクはデッドウェイトになるので、戦闘空域に到達あるいは燃料を使い切った時点で投棄する。脚部が全く未完成に見えるが、強襲用として開発されたため、不要と判断されたのである。頭部の額には6千発/分のバルカン砲2門と、側頭部に2連装バルカン砲2門、口部に出力19・5メガワットのメガ粒子砲(接近戦用に拡散、収束選択可能)を持ち、この頭部の装備だけで充分MSを粉砕することができ。有線サイコミュー式メガアーム砲は、ひとつのユニットだけで12・6メガワットの出力を持っており、オールレンジ攻撃が可能。マニピュレーター状の5本の砲身はそれぞれ独立して標的を狙うことができる。片腕のユニット

5本でひとつの標的を狙った場合、63メガワットもの出力を持つことになる。そして、腰部スカートアーマーに9基マウントされたMSの胴体は、でもある大型ファンネルは、1基あたり20・4メガワットの出力を持ち、この機体最大の武器となっている。さらに、胸部には1フィールド発生装置を持ち、ビーム兵器では機体に傷をつけることも不可能である。これらすべての武装を作動させるために、ギラ・ドーガ約9機分のジェネレータ出力を持つ。肩アーマーの内側にはサブ・マニピュレーターを装備しており、サイコミュ使用時や接近白兵戦闘のときに効果を発揮する。だが、機体の慣性モーメントが大きいため、MSの運動性についていくことは非常に困難であ

る。この場合パイロットに対する負担が大きいので、ショートレンジ戦闘は極力さける必要がある。唯一の欠点は、これらの機能をフル稼働させた場合の実働時間だが、この機体の攻撃力に拮抗しうる機動兵器は存在しないため、問題は無い。



Mobile Weapon



NT専用試作型モビルアーマー

【NZ-333】

α・アジール

【各部名称】 Aショルダーアーマー B前部スカートアーマー C後部スカートアーマー
 ①ECCMユニット ②ロングレンジレーダー
 ③ヘッドカバーブースター ④マルチセンサー
 ⑤バルカン砲 ⑥メガ粒子砲 ⑦アポジモーター
 ⑧ジェネレーターユニット ⑨フィールド発生器
 ⑩アポジモーター ⑪ランディング・アーム
 ⑫サブ・ジェネレーターユニット ⑬スライドレール
 ⑭アポジモーター

⑮有線サイコミュ式メガアーム砲 ⑯サブ・マニピュレーターユニット ⑰バーニア
 ⑱スツルムナセル・コネクター ⑲ファンネル
 ⑳バーニア ㉑ファンネル・コンテナ ㉒ランディングアーム
 ㉓プロペラントタンク (二槽式) ㉔強襲用スツルムスラスター
 ユニット ㉕メインバーニア ㉖ターレット
 ㉗メガビーム砲 ㉘メインバーニア ㉙バーニアスラスター ㉚ビーム砲

Mobile Weapon

MS

〔MS用語辞典③〕

ショック・バルーン、モノトーン社

ショック・バルーン Shock Balloon

三 MSのコクピット内に大きな衝撃が発生したときなどに展開し、操縦者を保護する装置。通常の操縦時にベルト式の固定装置ではパイロットの自由度が低下するばかりか、衝撃を受けた場合に危険な拘束帯となってしまうため、リニアシートが開発されてからはベルト式の固定装置は廃止されたが、それだけでは不十分だったため、この装置が採用されている。

Zプロジェクト Z Project

ーゴとアナハイム社がティターンズに対抗するため新型MSの開発を目的として発足させた計画。TMSのZガンダムを始めとして様々な画期的な試作機や高性能機を作ることに成功した。

二ユーザイライズ Two Users

ジャミトフ・ハイマンとプロティマス・シロツコが死亡したことによって事実上崩壊したティターンズの残党。元地球連邦宇宙軍大尉ブレイブ・コッドを指導者とする。ティターンズの教

導部隊の一部青年将校が、訓練基地であった小惑星ペズンで反乱を起こし、エウーゴが主導権を握った地球連邦政府に対して反旗を翻しこの名前を標榜した。

マム・ドローバー Mam Drobber

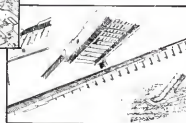
リニアモーターの一種で、物資の運搬に使用される。月や地球から軌道上まで物体を打ち上げる場合、ロケットなどでは多量の燃料を消費するが、要は物体を脱出速度まで加速すれば良いだけなので、それをプロペラントではなく、磁力によっておこなう施設。設備としてはかなり大規模なものになってしまいが、燃料の費用を考えればかなり経済的である。

モノトーンマウス社 Monotone

mouse Cold)ゼロ気圧作業専用



フォン・ブラウン市の
マス・ドライバー



の建設会社。主に、コロニー公社の下請けでコロニーの建設、修繕を行なう。開発部へはアナハイム社からスピノフが流れてくる。旧ナティック調査開発研究所から独立したもの。



モビルスーツ

MS操縦マニュアル

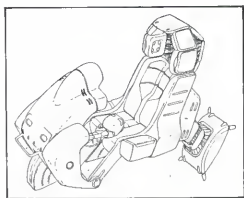
M.S. Pilot Manual

●MSが開発されてから10数年が過ぎた。各種の新技术が矢継ぎ早に開発され、コクピットは単なる操縦席ではなく、マン・マシンのインターフェイスとなっている。最新MSの概要をお伝えしよう。

Illustration by Shingo Takeba

1. コンソール解説

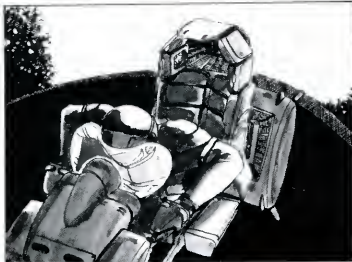
UC 80年代から採用されたリニアシートと全天周開モニターによってMSの操縦性は飛躍的に向上した。しかし、その技術が成熟するとともにシステム自体がもつ問題点も明らかになってきた。ベルトにより身体を固定する方式ではなく、発生する衝撃自体を吸収するリニアシートのコン



AMX-119ギラ・ドーガのコクピット

セプトはMSコクピットの概念を一変させる画期的なものであったが、MSの実際の運用上のデータによれば戦闘時の衝撃は一瞬にせよシートのみによる保護機能を上回るケースがかなりの頻度で起こっていることが明らかになった。そのため、旧世紀に車両等で採用されていたショック・バルーンをリファインしコンソールに組み込んであり、パイロットの身体保護が確実なものとなった。急激な衝撃の発生と同時にシート頭部からヘルメットが離れた場合、コンマ1秒以内にバルーンが展開し、衝撃を吸収する。コンソール内へのバルーン収納は1秒〜5秒前後である。さらに、コントロールステイックのホ

ールド性を向上させるためにアームレイカーを採用している。これで、ステイックよりも少ないアクションで同等以上の操作が可能となった。火器管制や、戦闘、巡航モードをあらかじめ設定しておけば、ほとんどの操作はサイドコンソールをもちいることなく、アームレイカー・ステイックのみでおこなうことができる。これにより、操作の煩雑さはほぼ解消され、パイロットは戦闘あるいは作業に専念できるようになった。火器のトリガーやマニピュレーターの操作、機体の方位等は手首のボール部分で行ない、スロットルや制動等はアームの操作で行な



衝撃を受け、展開するショック・バルーン

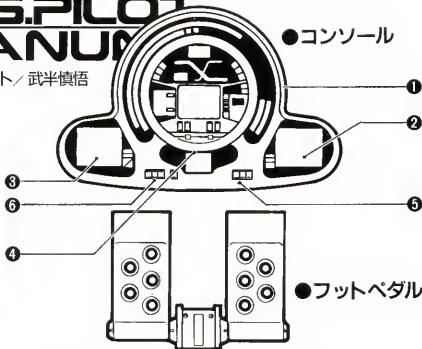
う。手前に引けば加速し、前方に押せば、逆噴射になる。

MS.PILOT MANUAL

イラスト／武半慎悟

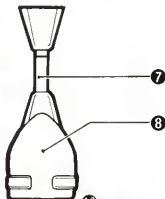
パネル&コンソール展開図

●コンソール

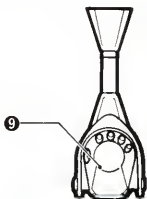


●フットペダル

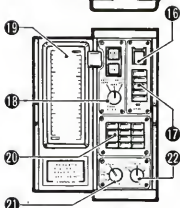
●(L)アーム・レイカー



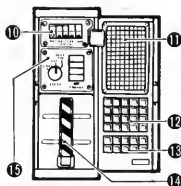
●(R)アーム・レイカー



●(L)サブパネル



●(R)サブパネル



【コンソール各部名称】①メインマルチディスプレイ②通信用モニター③後方警戒モニター④ショック・バルーン⑤メインディスプレイモードセレクター⑥ディスプレイセレクター⑦コントロールスティック⑧レイカーカバー⑨アームレイカー⑩ジェネレーター駆動系コントローラー⑪予備パネル⑫インデックスサブコンソール⑬COMキ

ーボード⑭エマージェンシースティック⑮コクピットコントロール系スイッチ⑯ディスプレイ起動スイッチ⑰外部モニターモードセレクター⑱火器管制スイッチ⑲サブディスプレイ/機体モニター⑳通信コントロールパネル㉑駆動、燃料系モードセレクター㉒センサーモードセレクター

2. 接近戦闘シークエンス

90年代のMSの操縦に、80年代のものとそう大きな差異はない。例えば、開発当初の自動車は車種ごとに運転方式が異なったが、普及するにしたがって徐々に統一されていったのと同じようなものだ。

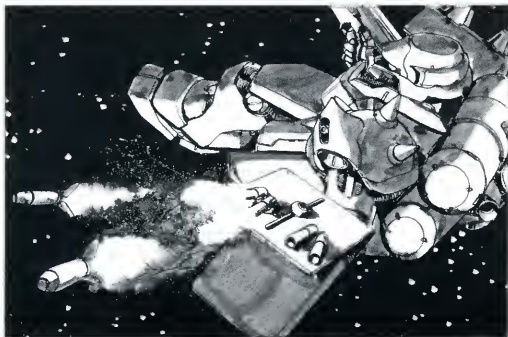
それでも、付加機能やコンソールのハウジングは機種ごとに違っているのに注意が必要だ。しかし、操縦方法自体に大きな変化はないのでそれほど気にすることはない。この項では、おもに画面表示の概要と、対艦戦を除いたショートレンジにおける戦闘シークエンスについての説明をする。

このAMS-119ギラドーガは、再興したネオ・ジオンの主力量産型MSだ。非常にバランスがよい機体で、

新兵からベテランまで、その技術に応じられ、まさにパイロットの手足となる。戦闘に関していえば接近戦において特に真価を発揮する。MSは開発当初のコンセプト自体が、ミノフスキー粒子散布下における有視界戦闘を想定したものであったので、この機体はMSの開発理念にもっとも忠実につくられたものであるといえる。そのためこの機体は、中・近距離に主眼を置いた武装がほどこされている。

狙撃が必要な場合や、敵が高速で移動している場合は、標準装備のビームマシンガンが有効である。この機体が装備している兵器の中で最も射程が長く、貫通力も大きいため、MSに対しても艦艇に対

グレネードは、シールド上にマウントされたランチャーから射出される。モニター上のレティクルの表示に合わせ、トリガーを押す。



MS.PILOT MANUAL

スツルム・ファウストは、グレネードを上回る破壊力を持っている。直撃をくらえば、ほとんどのMSは無事で済まない。



しても威力は絶大で、連射で命中させられればほぼ確実に粉砕することができる。

敵の接近を許してしまったり、銃およびシールドに装備されたグレネード・ランチャー、またはスツルム・ファウストを使用する。どちらも炸薬による推力のみで射出されるだけなので、ある程度接近してから射ったほうが効果的であり、与える損傷も大きい。無誤、その爆発に巻き込まれないよう、回避、防御行動をとることを忘れてはならない。どちらの場合も、サイドコンソール火器管制セレクトターによって、戦闘の方針を設定していれば、パイロットの判断を必要としない部分はコンピュータが対応してくれる。どちらの戦闘でも、実際の目視状態と同じ映像上に重なり

てレタイクルが表示されるので、発見時点でロックオンを完了していれば、敵機が戦闘不能に陥るまではコンピュータが追尾し続ける。ただし、状況によっては（例えば複数の援護が戦闘域内に侵入してきた場合など）モニター内に優先順位まで表示されるので、常に自機の状態を把握しておかなければならない。現在の戦闘を続けながら、参入してくる敵機の走査データを検討する必要があるからだ。僚機が同じ領域にいる場合、援護が期待できるかどうかも重要な要素だ。追撃するかキャンセルするかはパイロットの判断だが、自機の状態によってコンピュータが中断か戦闘続行かを指示することもある。外から見なければ判らない損傷もある。即座に判断せよ。

3. 白兵戦闘シーケンス

白兵戦闘は、すべての戦闘

行動のうちで、



ビームピックでジェガンの頭部を粉碎するギラ・ドーガ。敵がビームライフルで武装していても、懐に入りこめばこちらが有利になる。

最もパイロットの技能が問われるものだ。いままで説明してきた戦闘行動は初步の技術のうちに入る。例えば、交通事故を起こさずに自動車を運転できると言う程度のものだ。これから説明する白兵戦闘

は、まさにレースに参加するような心構えが必要になってくる。しかもこのレースは、MSのパイロットなら、いつか必ず、しかも否応なく参加させられてしまう闘いであるということ覚えていて欲しい。

この闘いで重要なことは、必ず機先を制することだ。白兵戦闘で使用されている武装は有効半径が狭い分だけ威力が凄まじく、装甲に特別な装備や処理（いわゆる「ワイールド等」）をほどこしていないかぎり、致命的な損傷をこうむることになる。遅れをとるということは絶対に避けなければならぬ事態だ。

敵機がビーム兵器を装備しているときは注意が必要だ。自機の受けるダメージが甚大であるからだ。たとえ相手が

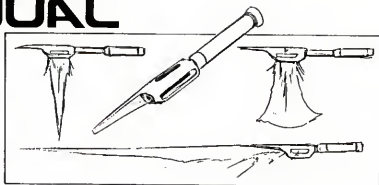
腕一本であっても、ビームサーベルのひと振りですべてが決まってしまう。戦闘空域が混戦状態のときは、敵機とのニアミスは日常茶飯事である。ニアミスだけならまだいいが、そのときに相手がビームサーベルを構えていたら、次の瞬間、機体はすでに真っ二つになっている。相手が白兵装備をしているかどうかは、以前までコンピュータが判断してくれたものだが、近年のビーム兵器は、作動状況を

3種類のビーム刃を形成するビームソードアックス。白兵戦闘時の使い勝手を考慮してある。



MS.PILOT MANUAL

ビームソードアックスのビーム刃の形状パターン。ソード(剣)アックス(オノ)ピック(ツルハシ)の3種類がある。ピックの時はレーザートーチとして使用可能。



間欠的に調整できるようになっており、走査しにくくなっている。ビーム兵器の有効線上に物体があるときだけビームを発生させることがでる機構が開発されたからだ。しかし、実際の戦闘になれば、その判断は瞬時にしなければならない。だがこのAMS-119であれば、充実した白兵能力を持っているので極端に不安を持つこともない。白兵戦闘になったとしても、腕部からビームサーベルユニットまでの長さ、敵機までの距離や行動予測によって、最適な接触時点を算出したコンピュータが、敵機のウィークポイントとタイミングをレタイクルとその他の表示で指示してくれる。とりわけ、この機体に標準装備の白兵戦闘用ビーム兵器ユニットは、ソ

ード、アックス、ピックと、3種類のビーム刃を形成できるため、状況に応じた選択が可能だ。すべて自動というわけにはいかないが、ビームソードアックスがどのビーム刃を展開すればベストであるかもコンピュータが判断してくれる。しかし、それはあくまでパイロットの判断と操作が確実でなければ効を奏さないことはいうまでもない。

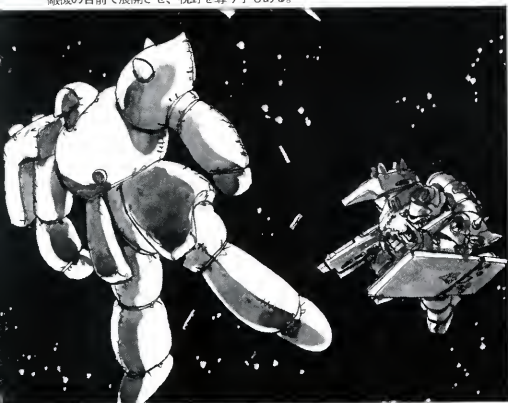
ビームサーベル同士の闘いであれば、討ちあつた瞬間に、互いのレーザー発振器が作り出す超強磁界同士の反発作用により、それ以上押すことができない。ここで引くタイミングを誤ることがあつてはならない。いつまでも押し合つたままだと、ビームサーベルのユニットどころか機体のジェネレーターにまで支障

を来たす恐れがある。離れるタイミングをつかめない時は、他の四肢を使って相手との距離を取り直すこともできる。

簡単にいえば、ケリをかませばよい。だが、特に宇宙の無重力空間でのMSの四肢は、AMBAACシステムのユニットとしても機能しているので注意しなければならない。追撃するときと離脱するときとは、とらなければならない操作が異なるからだ。追撃時は腕を振り下ろした反対のベクトルで、離脱するときは慣性に従って極力ロスタイムを少なくする。

敵の戦力を奪つたならば、爆発の可能性もあるので即座に離脱する。対応が遅れると、巻きこまれてしまうことがあるからだ。

4. 戦域離脱シーケンス



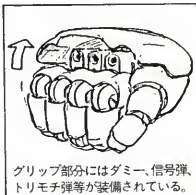
マニピュレーターの甲から射出されるバルーン・ダミー。
敵機の目前で展開させ、視野を奪う手もある。

武装を消耗し、MS本体のみの戦闘におちいった場合、マニピュレーターをダメにする覚悟があるなら、両腕を使用して直接、敵機に打撃を与える手段もある。動力パイプやモニターカメラなどを破壊する戦法も効果的だ。

自機が損傷し、脱出ポッドを作動させるまでではないにせよ戦闘不能となった場合、あるいは敵の援軍が接近してきた場合、相手との戦力差が認められた場合は、即座にその戦闘空域から離脱するほうが賢明である。緊急用のCMPが残っているうちに、戦闘モードになっているデイスプレイのオーダーを切り替え、最も確実な転進路を検索、設定する。当然、その間に相手の攻撃の回避行動をとりながら、離脱コースが確定して

も、敵機に後ろを見せれば狙い撃ちにされてしまうため、80年代以降のMSは、非常に有効な欺瞞装置を持っている。マニピュレーターから射出されるバルーン・ダミーがそれで、チャフ効果と錯視作用があり、敵のセンサーやコンピュータおよびパイロットを攪乱することができる。

以上、簡単ではあるが、中、近距離の戦闘を紹介した。MSの運用全般について疑問があれば、既刊を参照されたい。



グリップ部分にはダミー、信号弾、トリモチ弾などが装備されている。



モビルスーツ

MS設定資料集

M.S. Design collection

●「機動戦士ガンダム0080～ポケットの中の戦争～」
「ガンダム・センチネル」「ダブル・フェイク」
「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」「CCA
(逆襲のシャア) MSV」に登場するMS、M
Aのデザイン画を解説付きで紹介する。

「ガンダム・センチネル」は、月刊モデル・グラフィックス誌上に掲載されたもの。「ダブルフェイク」はM J誌上に'88,7～'89,4に連載されたサイドストーリーです。「～ポケットの中の戦争～」は、大図鑑にて収録できなかったMSを掲載しています。

RX-78-NT1 "アレックス"

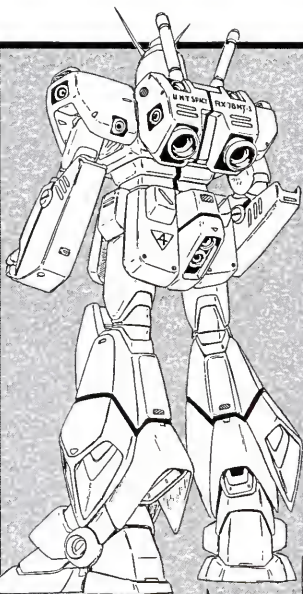
ニュータイプ専用
ガンダム試作第1号機

頭部に60mmバルカン
砲内蔵

腕部に90mmガトリ
ングガン内蔵する

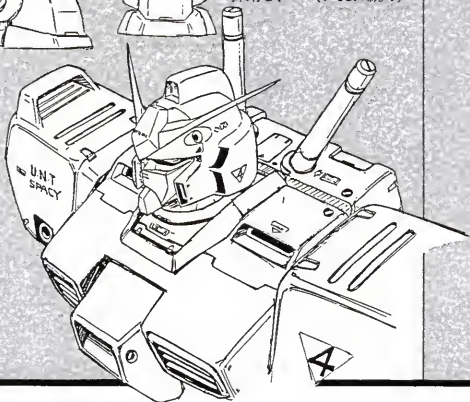
腰部

ガンダムNT1「アレックス」



RX-78NT-1は、一年戦争時に連邦軍が開発した4機目の“ガンダム”である。NTとうわさされていたホワイトベース部隊のアムロ・レイ少尉専用機として再設計された機体であることから、NT-1という型式番号が与えられた。とはいっても公国軍のサイココミュニケーションターのような技術はなく、後世のNT専用機とは異なる。

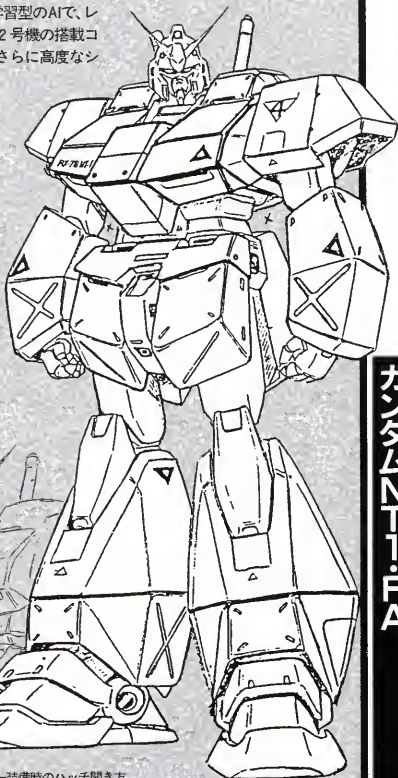
NT-1の特徴は、第一に機体の追従性が非常に高いことで、最新のマグネットコーティング（駆動系の摩擦抵抗を軽減する磁気被膜処理）技術、アポジモーターの増設及び推力向上、それに加え、全周囲モニターを採用し、（P 86に続く）



（前ページから）さらにそれらを統括する高速大容量コンピュータを搭載していた。このコンピュータは、やはり自己学習型のAIで、レイ少尉が使用する2号機の搭載コンピュータより、さらに高度なシステムである。

また、NT1はかねてより計画が進められていたフルアーマー・オペレーションによりチョバムアーマー（複合装甲＝ハイブリッドアーマーと一般的に呼ばれる）製の増加装甲が試作された。これによって全備重量は95tにはね上がり、運動性は極度に低下した。

RX-78-NT1-FA ガンダムNT1・FA



チョバムアーマー装備時のハッチ開き方

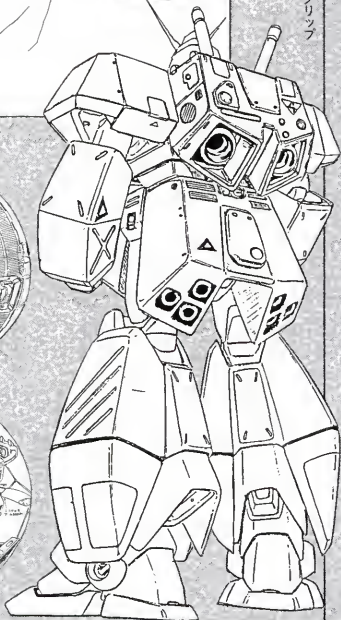
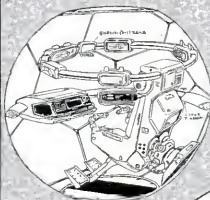
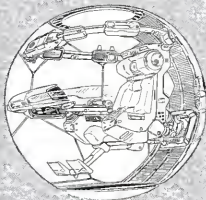
ガンダムNT1・FA

コクピットハッチオープンパターン



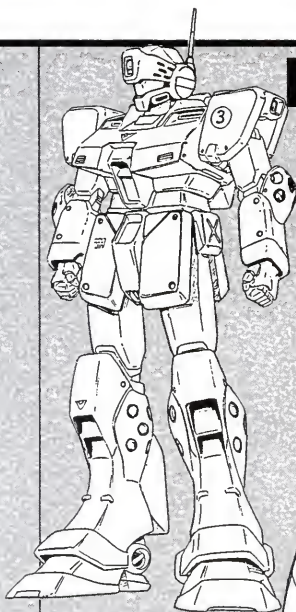
リニアシートクリップ

“アレックス”試作リニアシート

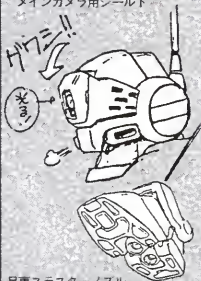


RGM-79SP ジム・スナイパーII

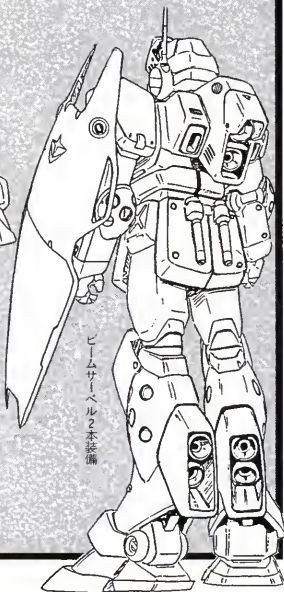
廉価版MSの代表格といわれるジム・シリーズだが、少数ながらも高性能バージョンが存在する。それがSP型である。推力を増強させ、部分的に装甲の強化も行っている。バックパックの形状ものちのMSA-003ネモに近い。頭部のバイザーには射撃用レーザーセンサーと電子光学式高倍率カメラが装備されており、遠距離狙撃の際に使用する。



メインカメラ用シールド



足裏スラスターノズル



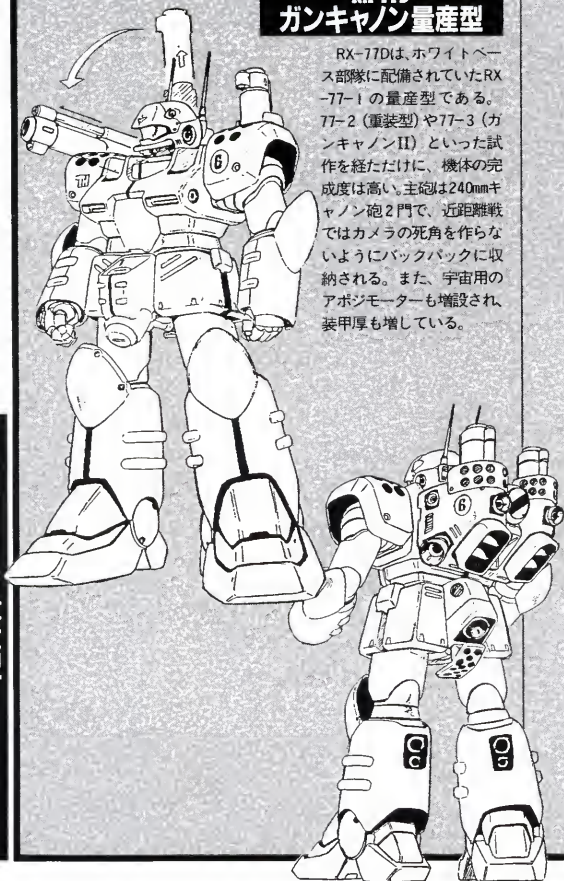
ビームサーベル2本装備

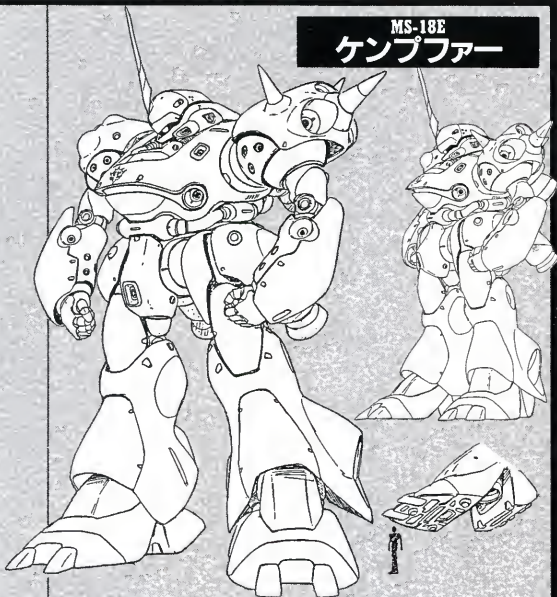
ジム・スナイパーII

RX-77D ガンキャノン量産型

RX-77Dは、ホワイトベース部隊に配備されていたRX-77-1の量産型である。77-2（重装型）や77-3（ガンキャノンII）といった試作を経ただけに、機体の完成度は高い。主砲は240mmキャノン砲2門で、近距離戦ではカメラの死角を作らないようにバックパックに収納される。また、宇宙用のアポジモーターも増設され、装甲厚も増している。

ガンキャノン量産型



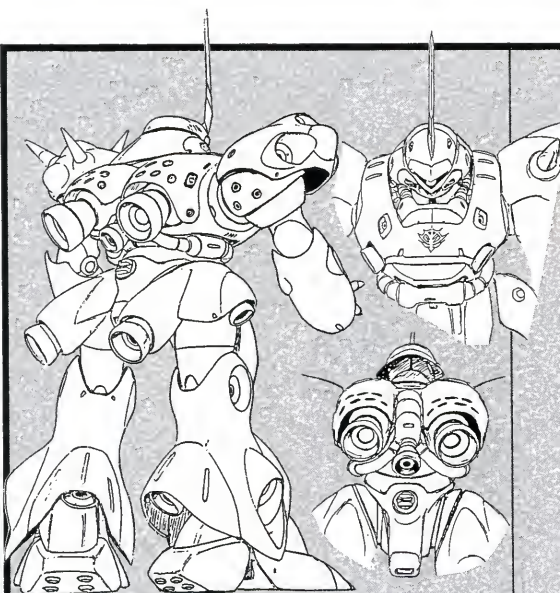
MS-18E
ケンプファー

MS-18Eは、公国軍の最終モビルスーツである。(むろんMSN-02ジオングを除いた場合だが) 機体名称のケンプファーは、独語で「闘士」という意味があり、これまでの汎用機とは違った作戦目的のために開発された機体だ。

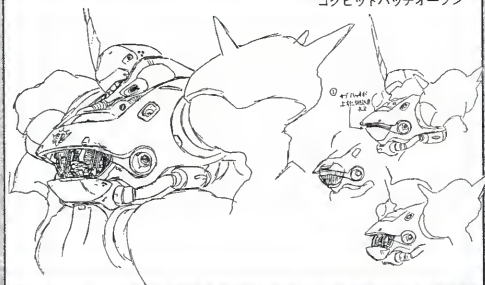
MS-18Eは、今日強襲用と分類される特殊機で、姿勢制御用のアポジモーターと共に大推力のスラスターを全身に配置している。そのおかげで、従来のモビルスーツ

からは想像もできないような、高運動性が実現された。ただし、熱核ロケットエンジンを使用しているものの推進剤の消費量は激しく、戦闘持続時間は短い。強襲用といわれるのは、そのために、全身に装備した火器(ジェネレータの出力が下がり、推進力を低下させるため、ビーム兵器は少ない)を撃ちまくり、即座に戦場から離れる一撃離脱戦法を得意とする。

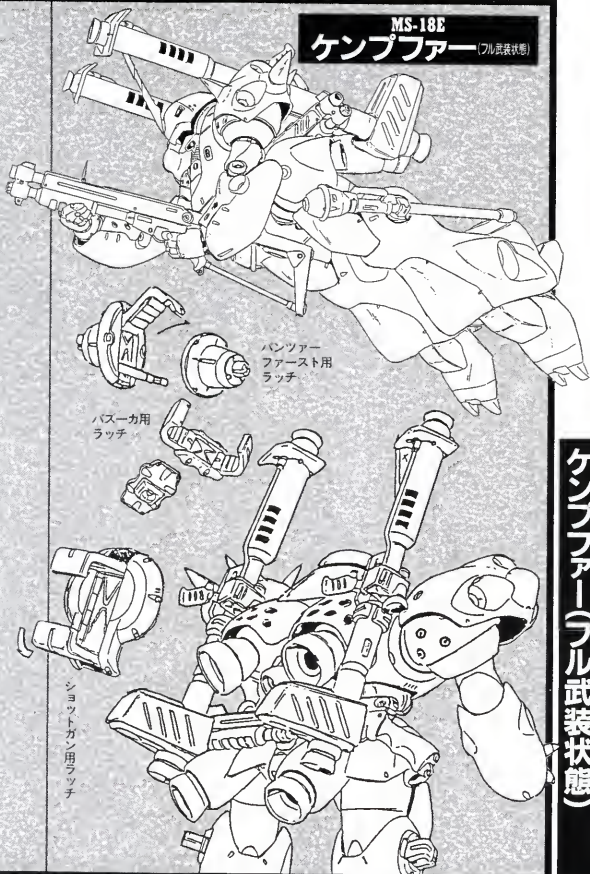
→ (P 93に続く)



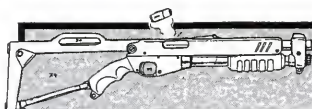
コクピットハッチオープン



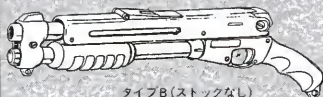
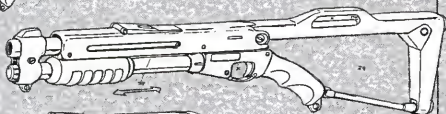
MS-18E ケンプファー (フル武装状態)



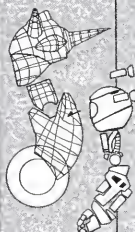
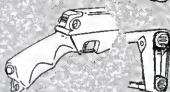
ケンプファー(フル武装状態)



ケンプファー専用ショットガン
タイプA(ストック付)



タイプB(ストックなし)



ケンプファー調整
中のグラフィック
パターン

(P 90より続き) したがって火器も予備マガジンなどは携帯せず、弾が切れたら銃もデッドウェイトにならないように捨ててしまう。武器を機体に固定するラッチも使用時に外れて捨てるというように徹底されている。

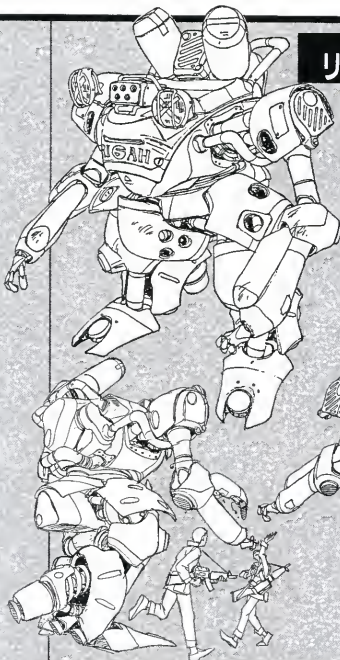
MS-18Eは、極めて優れた機体であつたが、特殊性がわざわいし、

脚光を浴びなかつた機体である。

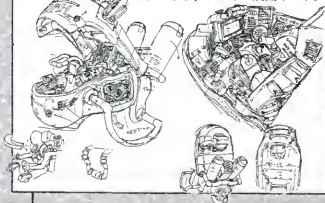
(試作機が破壊されたことと、すぐに終戦を迎えたせいで、存在そのものの一部にしか知られていない) だが、0093年にNZ-333α・アジールの登場により、再び、強襲用モビルスーツを見直す風潮が起きている。

RH-35E リーア35 ドラケンE

連邦軍サイド6駐留部隊、通称「リーア軍」が保有していたミドル・モビルスーツ。ポストマンという愛称がある。マニピュレータは2重下腕支で、限界まで小型化したビームサーベルを持つことができる。(直径122センチメートルのものまでつかめる)



コクピット、フェイス展開ギミック



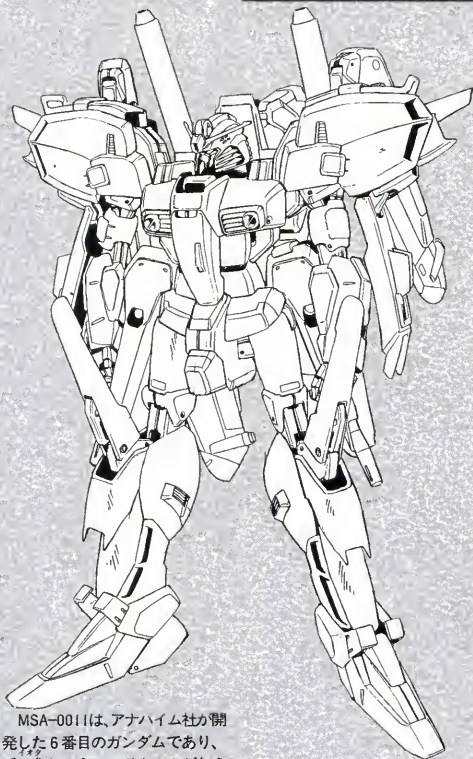
2重下腕支とマニピュレータ



リーア35ドラケンE

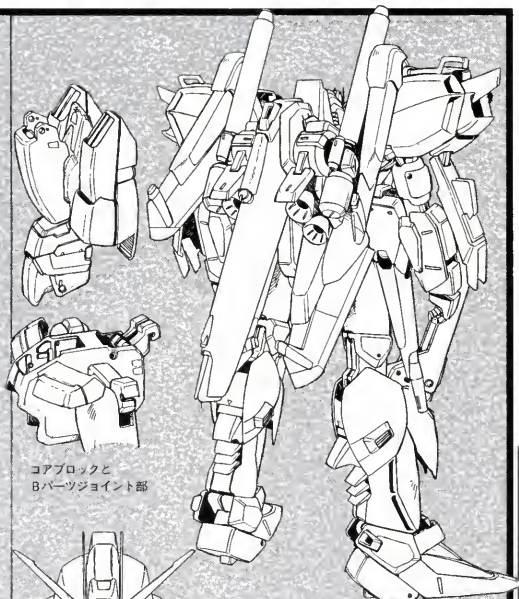
スベリオール MSA-0011

Sガンダム

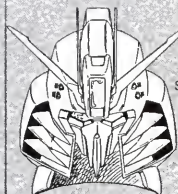


MSA-0011は、アナハイム社が開
発した6番目のガンダムであり、
「^{イオク}I」^イというコードネームが与え
られていた。機体はいうまでもな
くMSZ-010ZZガンダムを再設計

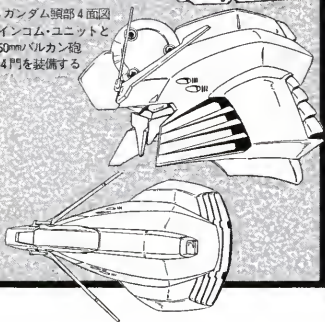
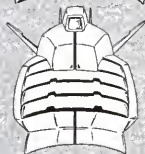
し、さらに強化改良を加えたもの
である。

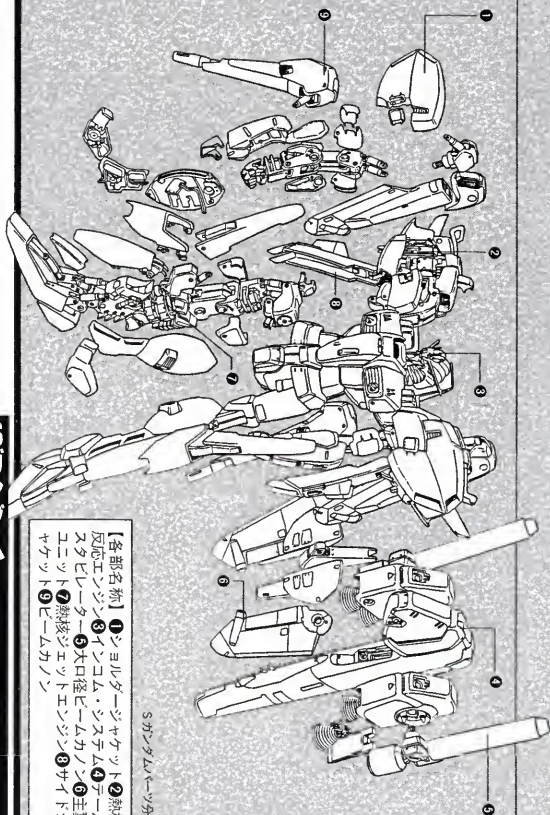


コアブロックと
Bパーツジョイント部



Sガンダム頭部4面図
インコム・ユニットと
50mm Vulcan砲
4門を装備する

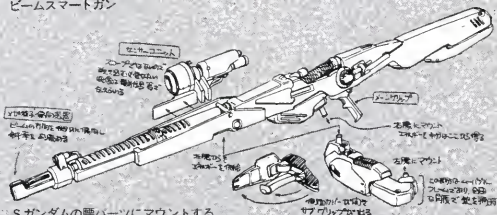




Sガンダムパーツ分解図

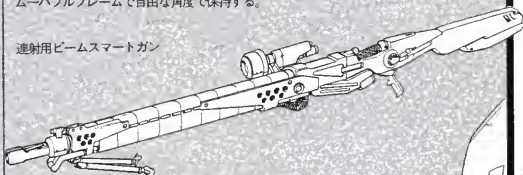
【各部名称】①シールド・ジャケット ②熱核反応エンジン③インコム・システム④テールスタビレーター⑤大口徑ビームカノン⑥主翼ユニット⑦熱核ジェットエンジン⑧サイドジャケット⑨ビームカノン

ビームスマートガン

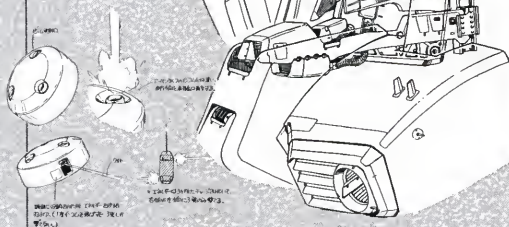


Sガンダムの腰パーツにマウントする、ムーバブルフレームで自由な角度で保持する。

連射用ビームスマートガン



頭部透視図

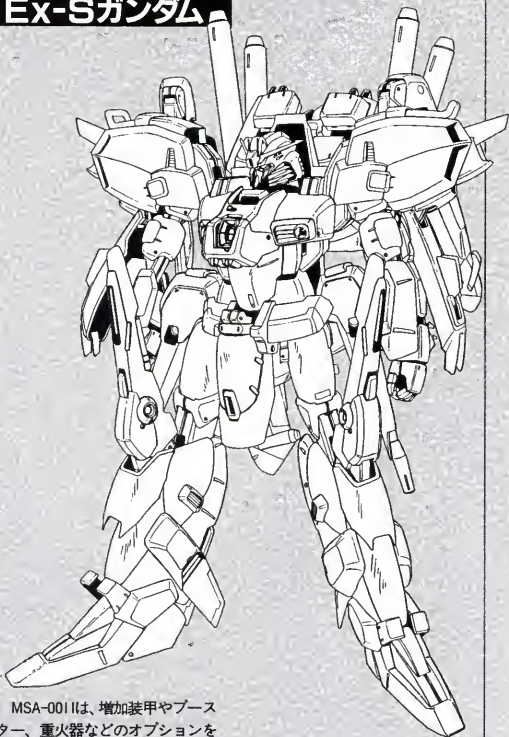


インコム

Sガンダム

イクスィス MSA-0011EX

Ex-Sガンダム

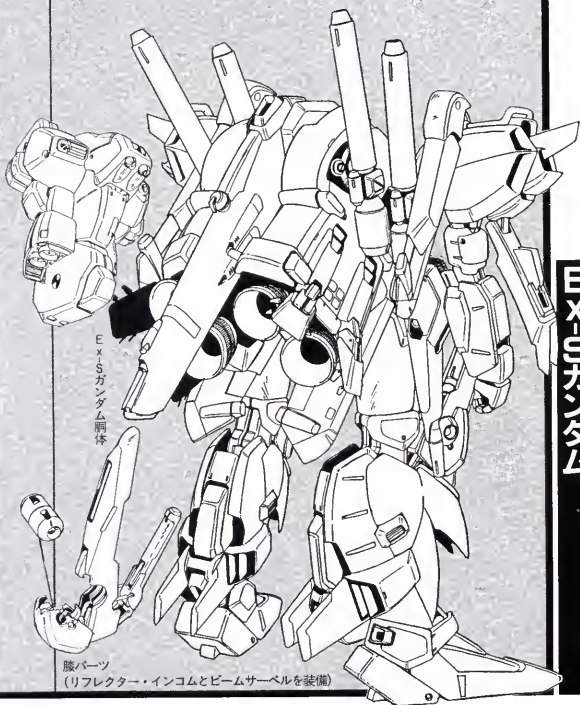


MSA-0011は、増加装甲やブースター、重火器などのオプションを最初から機体設計に組み込んでいる。そのため、追加装備した場合でもそのバランスが崩れることはない。EX-Sはノーマルに1フィー

ルド発生器、リフレクターインコム、強化型ブースターバックなどを加えた重装型である。

胸部パーツに内蔵されたIフィールドジェネレータは、コクピット周辺にビーム偏向フィールドを形成し、パイロット保護を果たす。また、膝パーツにはリフレクターインコムとビームサーベルが装備されている。リフレクターインコ

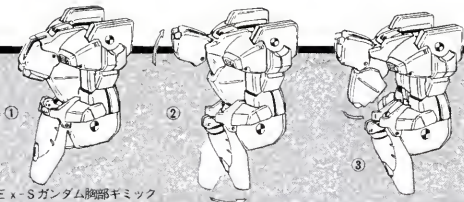
ムはやはりIフィールド発生器が内蔵され、自機が撃ったビームの射線を反射させる。敵にとっては思いがけぬ方向からビームが向かってくるわけである。だが、防御用には使えない。



EX-Sガンダム 胴体

膝パーツ
(リフレクター・インコムとビームサーベルを装備)

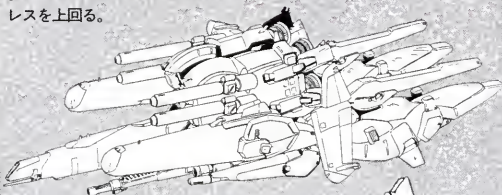
EX-Sガンダム



Ex-Sガンダム胸部ギミック

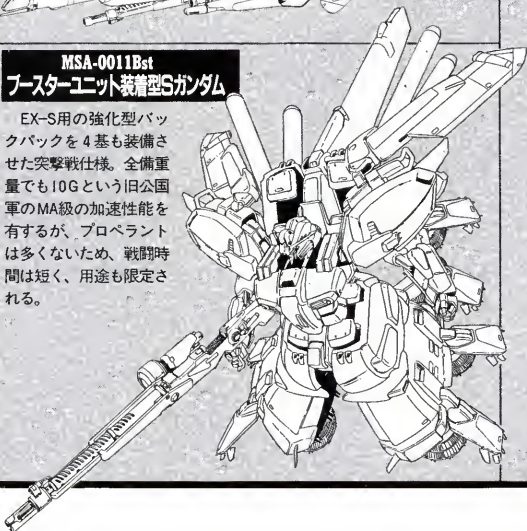
ノーマル、EX-Sは共にGクルーザー形態への変形が可能である。多くの面でMSZ-010のGフォートレスを上回る。

Ex-Sガンダム Gクルーザーモード



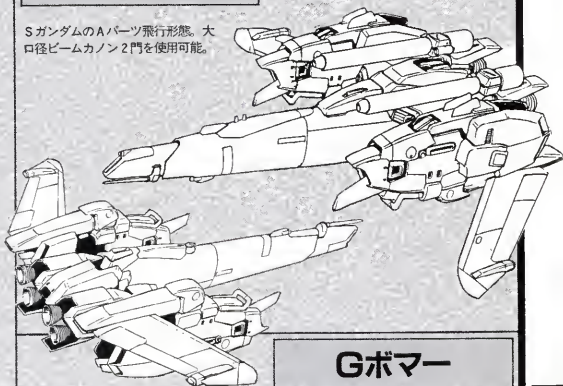
MSA-0011Bst ブースターユニット装着型Sガンダム

EX-S用の強化型バックパックを4基も装備させた突撃戦仕様。全備重量でも10Gという旧公国軍のMA級の加速性能を有するが、プロペラントは多くないため、戦闘時間は短く、用途も限定される。



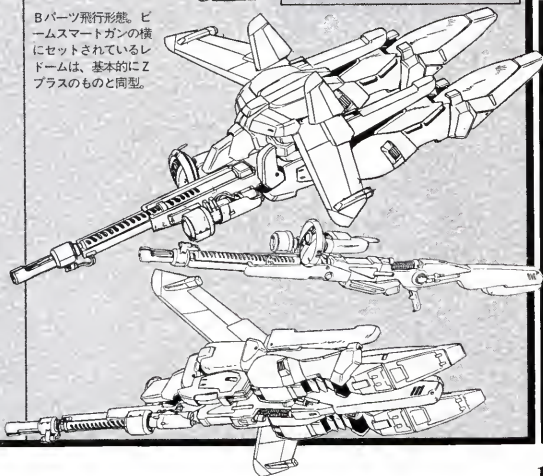
Gアタッカー

SガンダムはAパーツ飛行形態。大口径ビームカノン2門を使用可能。



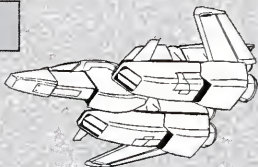
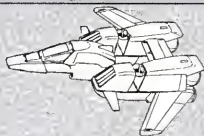
Gボマー

Bパーツ飛行形態。ビームスマートガン横にセットされているレドームは、基本的にZプラスのものと同型。

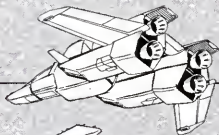


Gアタッカー、Gボマー

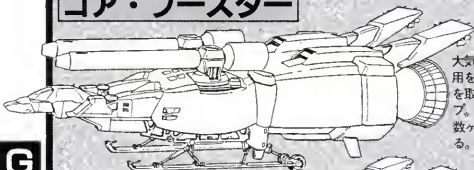
FXA-08GB Gコア



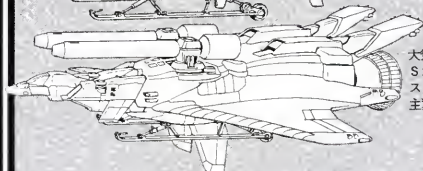
Cパーツ飛行形態。機首はRX-78のFF-X7と同型に近い。



FXA-08GB-Bst コア・ブースター



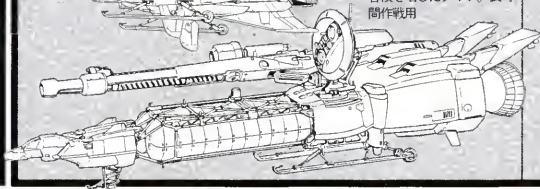
大気圏外にその使用を限定し、主翼を取り外したタイプ。スラスターを数ヶ所増設している。



大気圏内外両用型。Sガンダム用ブースターユニットに主翼を付けている。



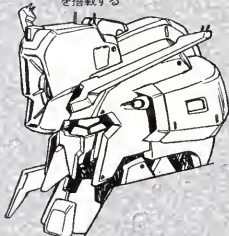
アダプターユニットのタンクを延ばし、プロペラント容積を増したタイプ。長時間作戦用



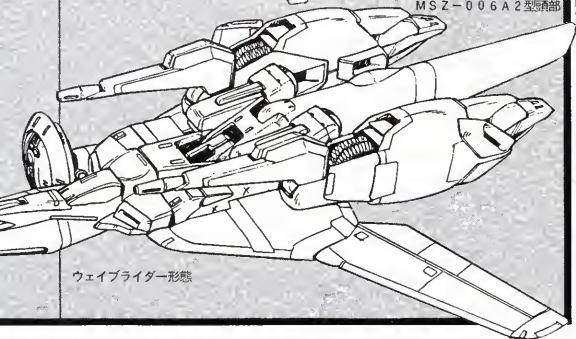
MSZ-006CI
Zプラス(C型)

試作型であったMSZ-006を量産機として再設計した機体である。まず、大気圏内専用機としてA1型が作られ、ついで宇宙用のCI型が再々設計された。CI型でも大気圏再突入が可能だ。ウェイブライダー形態では、ビームスマートガンを機体底部にマウントする。また、大腿部のビームカノンは変形時にも使用できる。

頭部にメガ・カノン
を搭載する

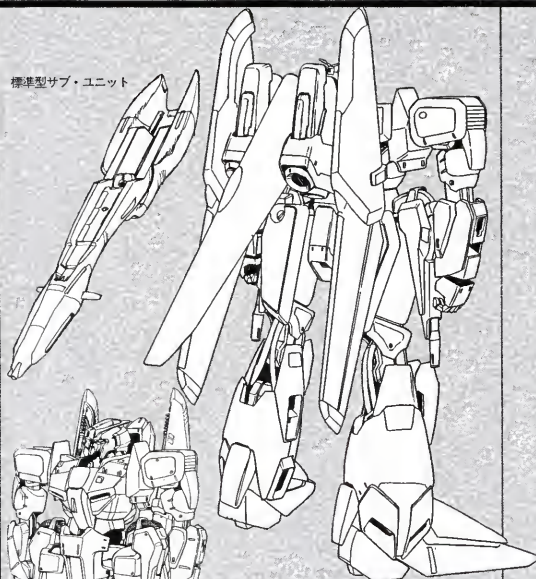


MSZ-006A2型頭部



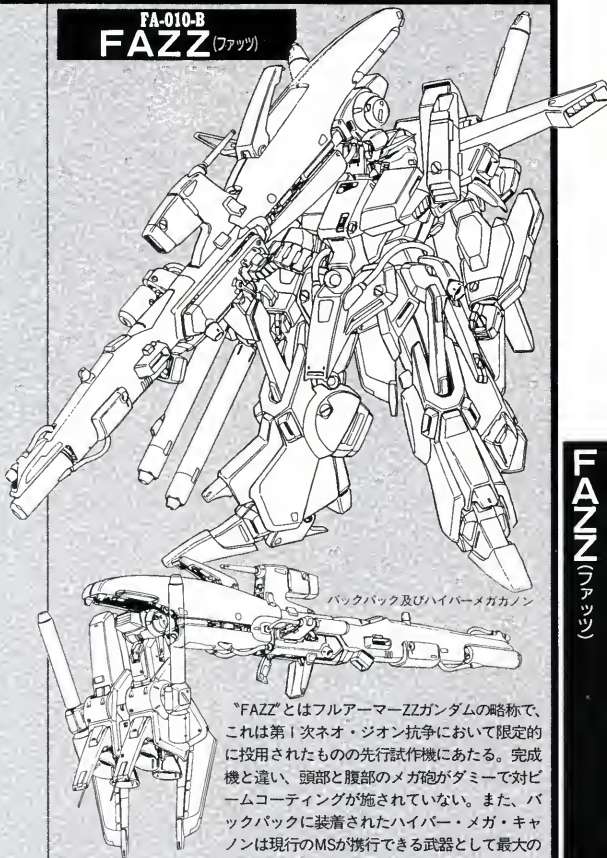
ウェイブライダー形態

標準型サブ・ユニット



MSZ-006AI
Zプラス (A型)

大気圏内専用機であるA1型は、その用途を限定したことで、試作機(Zガンダム)以上の飛行性能とハイ・コストパフォーマンスを実現した機体である。なお、A2型は額にメガ・カノンを装備した派生型である。

FA-010-B
FAZZ (ファッツ)

バックパック及びハイパーメガカノン

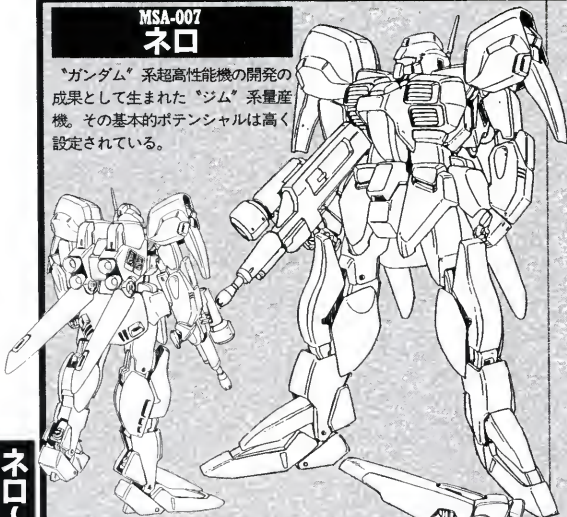
「FAZZ」とはフルアーマーZZガンダムの略称で、これは第1次ネオ・ジオン抗争において限定的に投用されたものの先行試作機にあたる。完成機と違い、頭部と腹部のメガ砲がダミーで対ビームコーティングが施されていない。また、バックパックに装着されたハイパー・メガ・キャノンは現行のMSが携行できる武器として最大の火力を誇る。

FAZZ (ファッツ)

MSA-007

ネロ

“ガンダム”系超高性能機の開発の成果として生まれた“ジム”系量産機。その基本的ポテンシャルは高く設定されている。

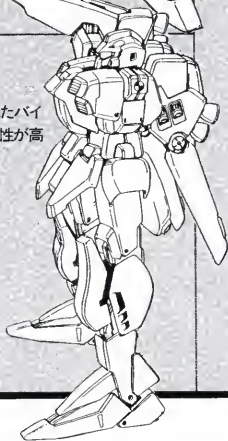
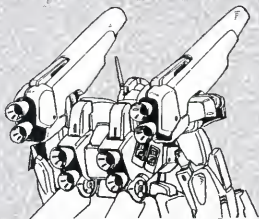


MSA-007T

ネロ・ 트레이ナータイプ

アンバツク

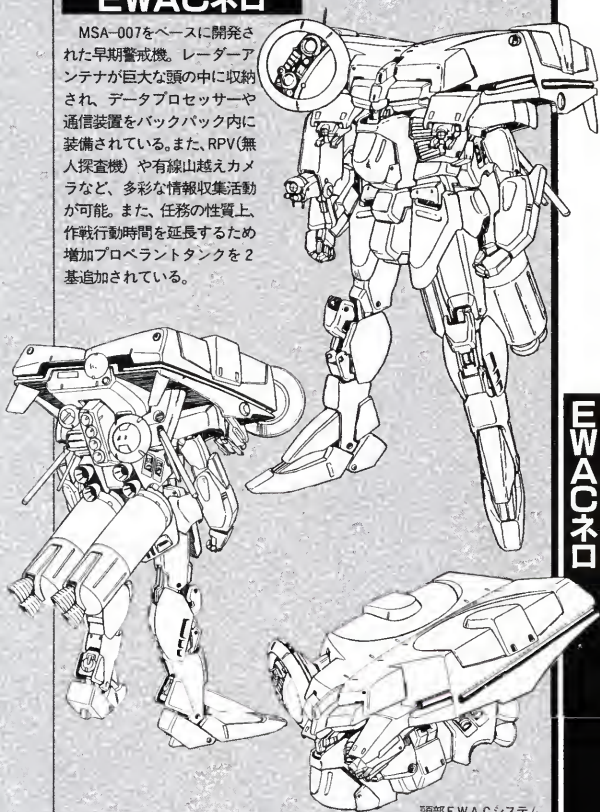
バックパックはAMBAC機能と推進器を兼ねたバイナダーを装着したタイプ。一般機に比べ機動性が高い。パイロット訓練用に使用される。



ネロ・ネロ・トレーナータイプ

MSA-007E
EWACネロ

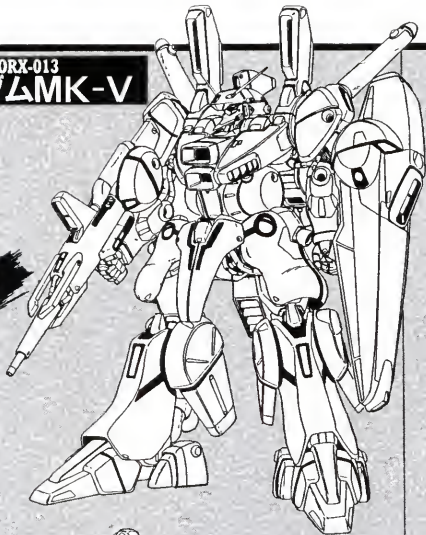
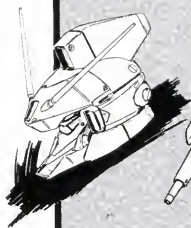
MSA-007をベースに開発された早期警戒機。レーダーアンテナが巨大な頭の中に収納され、データプロセッサーや通信装置をバックパック内に装備されている。また、RPV(無人探査機)や有線山越えカメラなど、多彩な情報収集活動が可能。また、任務の性質上、作戦行動時間を延長するため増加プロペラントタンクを2基追加されている。



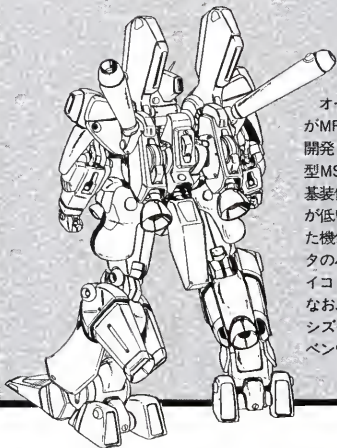
EWACネロ

頭部EWACシステム

ORX-013
ガンダムMK-V



ガンダムMK-V

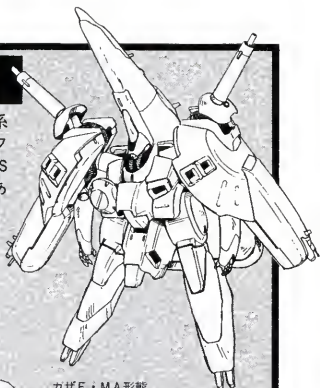


ニュータイプ
オーガスタ NT 研究所
がMRX-009の小型版として
開発した準サイコミュ搭載
型MS。両肩にインコムが2
基装備されている。NT能力
が低い一般人の使用を考え
た機体であり、コンピュ
ータのバックアップによりサ
イコミュ兵器を起動させる。
なお、試作機の一機がアク
シズに流れ、AMX-014ドー
ベンウルフの原型となった。

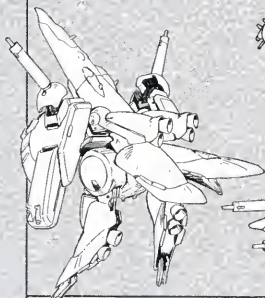
MMT-2(AMX-007)

ガザE

飛行性能を重視した“ガザ”系可変MSの1機。MA形態はサブ・フライング・システムとして、他のMSを乗せて大気圏内飛行が可能である。



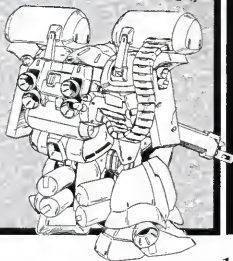
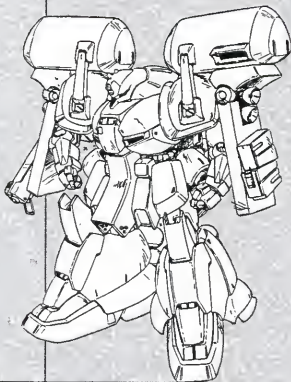
ガザE・MA形態



RMS-141

ゼク・アイン

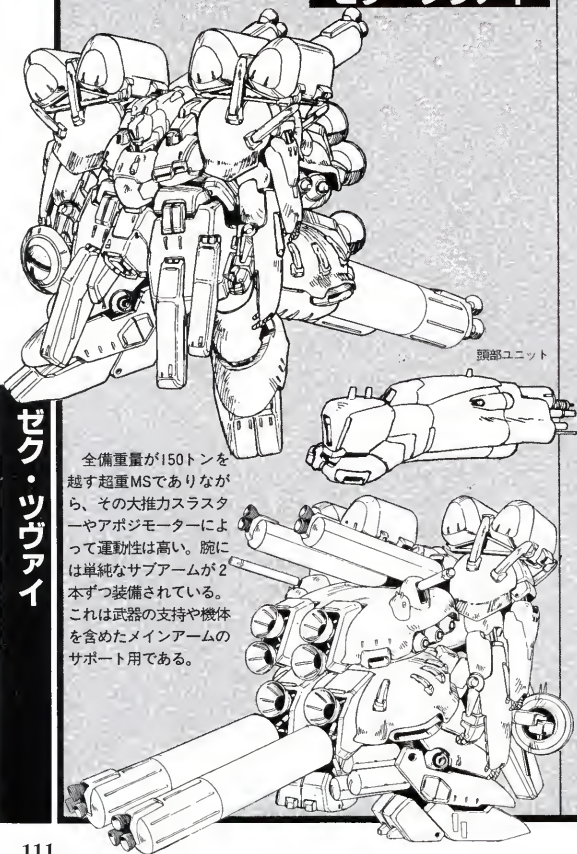
“ザク”系の設計思想を受け継いだ汎用量産機。信頼性の高い技術だけを投入したシンプルな設計が売り物だ。肩アーマーには多目的ラッチとマウント・システムを導入。



ガザ
ゼク・アイン

RMS-142

ゼク・ツヴァイ



頭部ユニット

全備重量が150トンを超える超重MSでありながら、その大推力スラスターやアポジモーターによって運動性は高い。腕には単純なサブアームが2本ずつ装備されている。これは武器の支持や機体を含めたメインアームのサポート用である。

ゼク・ツヴァイ

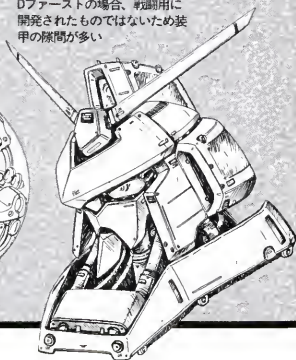
MWS-19051G Dガンダムファースト

Dファーストはモトーン・マウス社がジャンクMSを集めて作った作業用MSである。外装はパイロットであるダリーの趣味で“ガンダム”デザインとなった。

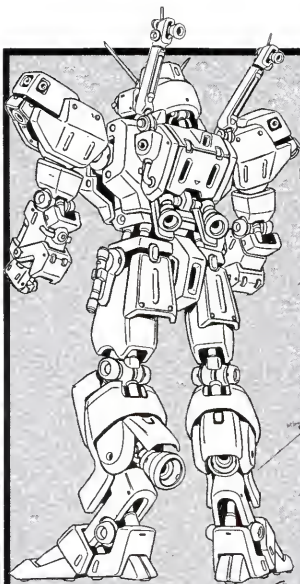
ワーカーではあるが、ムーバブルフレームやジェネレータは、ネオ・ジオン抗争時の一線級のMSから流用しているため、基本性能は異常に高い。だが、戦闘用ではなく、“7つ道具”を武器として使用する。

Dファーストの場合、戦闘用に開発されたものではないため装甲の隙間が多い

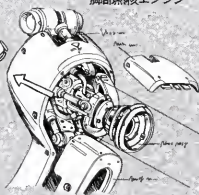
Dファースト・セカンド用コックピット。気密ブロックである



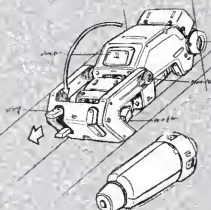
Dファースト



脚部熱核エンジン



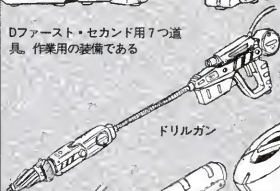
ナックルクラッシャー



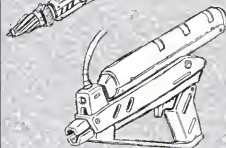
ダミー弾 (MS)

ダミー弾 (岩塊)

Dファースト・セカンド用7つ道具。作業用の装備である



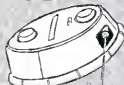
ドリルガン



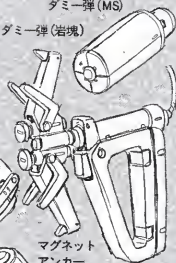
リベットガン



マグネット
アンカー



有線爆弾

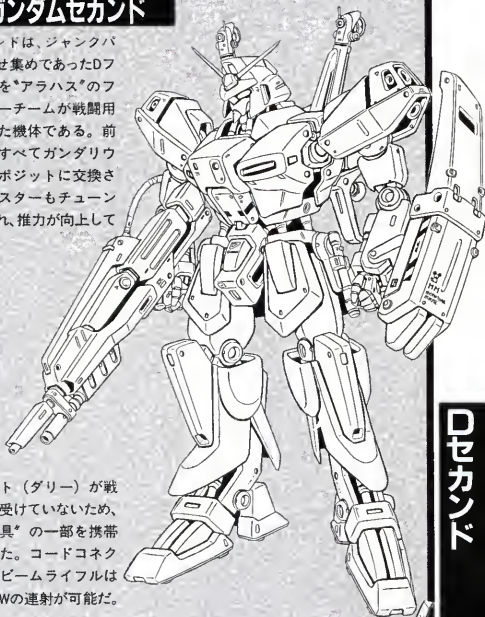


大型トリモチ弾



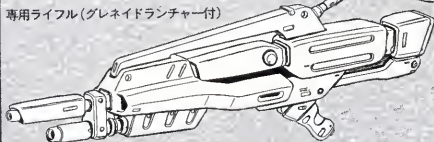
MWS-19051G-2 Dガンダムセカンド

Dセカンドは、ジャンクパーツの寄せ集めであったDファーストを“アラハス”のファクトリーチームが戦闘用に改造した機体である。前面装甲はすべてガンダリウム・コンボジットに交換され、スラスターもチューンナップされ、推力が向上している。バックパックはメインノズルが収納式で、全開時のみ露出する。武器も一新されているが、パイロット（ダリー）が戦闘訓練を受けていないため、“7つ道具”の一部を携帯させていた。コードコネクテッド・ビームライフルは出力3.8kWの連射が可能だ。



Dセカンド

専用ライフル（グレネイドランチャー付）



Dファースト用ビームショットガン



Dサード用バスターショット



Dセカンド用バズーカ (5発装填可)



Dサード用バズーカ (8発装填可)



Dサード用シールドライフル (シールドから変形。グレネイド1発装備)



メインスラスター
開閉機構

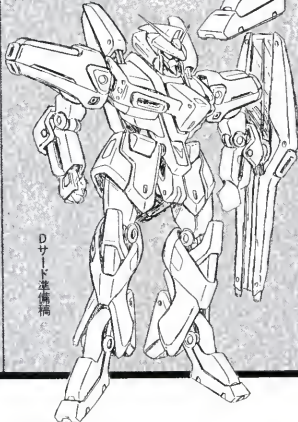
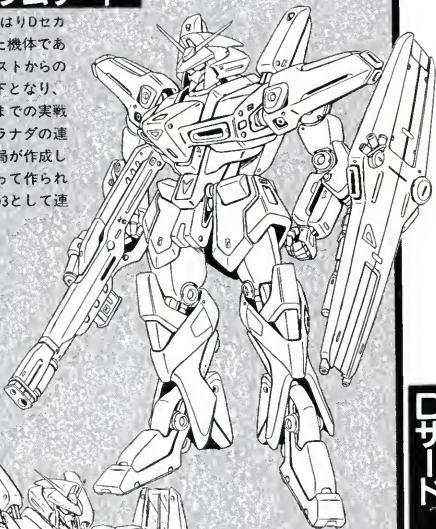
Dセカンド

バック
バック

RGX-D3 Dガンダムサード

DサードはやはりDセカンドを改造した機体であるが、Dファーストからの部品が3割以下となり、さらにはこれまでの実戦データからグラナダの連邦軍兵器開発局が作成したプランに従って作られたため、RGX-D3として連邦軍に承認された。(Dセカンドの段階で、軍がモトーン・マウス社から機体を買い上げている)

装甲は全てガンダリウム合金製に換装



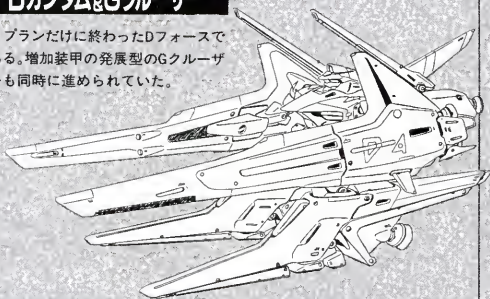
Dサード準備稿

され、ジェネレーターやスラスターなどの駆動系や、ムーバブルフレームのアビオニクスも最新のものに交換された。主な武装はバスターショットとシールドガンで、90年代のビーム兵器技術の向上を示している。また、Dファースト以来のナックルも改良され、電磁粉碎方式のGブラストナックルとなった。

Dサード

RGX-D4 Dガンダム&Gクルーザー

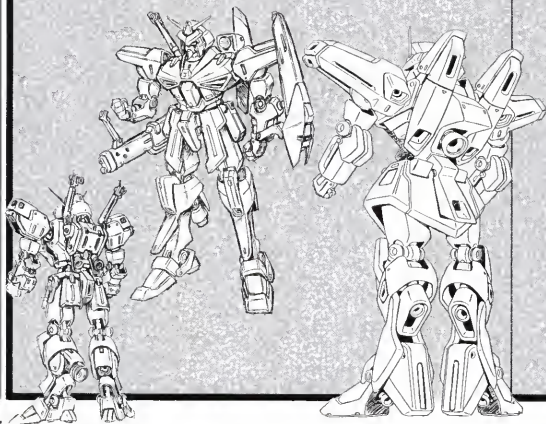
ブランだけに終わったDフォースである。増加装甲の発展型のGクルーザーも同時に進められていた。



Jガンダム

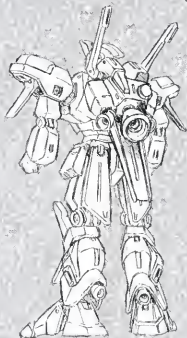
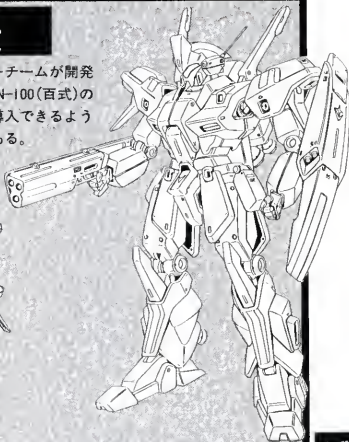
Dガンダムの原形「Jガンダム」百式改の発展型とジェガンのバージョンアップ版としてデザインさ

れたが、設定変更により、もっとポロイメカとされた。



RGM-89B ジェガン改

“アラハス”のファクトリーチームが開発したジェガンの高性能版。MSN-100(百式)の設計を再検討し、量産機に導入できるように試験的に採用した実験機である。ベース機とは比較にならないほど性能向上が見られる。



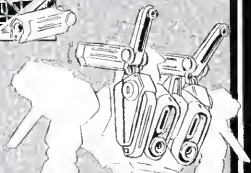
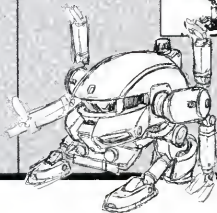
ジェガン改専用シート



ザクヘッド
モトーン・マウス社が製造した作業用小型モビルスーツ。一年戦争直後、慢性的な物資不足により、破壊されたザクの頭部を流用したのが始まりだ。



オプション・バックパック
(ロケット弾9発×2)



ジェガン改

AMX-102C ズサ・カスタム

旧ネオ・ジオンのAMX-102の改修機。ミサイルの搭載量を減らし、その分ビーム砲を増やした。それでもベース機より軽く、運動性や格闘戦性能は高い。攻撃用バックは他の仕様も存在する。

ズサ・カスタム本体

ブースター装備時

ガン・スピア (速射式ビーム砲、腕に直接マウントする)

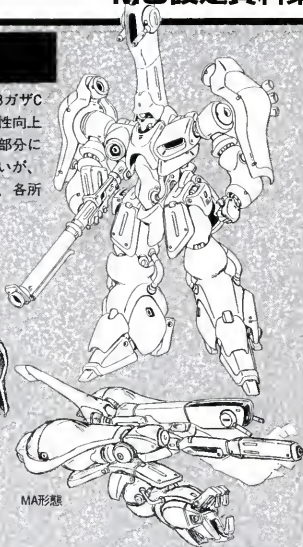
ブースター (ミサイル12発×2内蔵)

AMX-013 ズサ・ダイナ

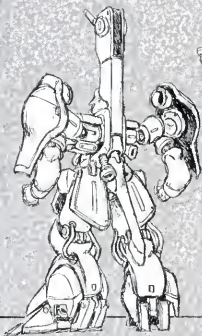
「ズサ」系の設計グループが格闘戦性能を強化した汎用MSとして開発した機体。両肩のスパイクアーマー内にはミサイルランチャーが内蔵されている。

AMX-003S ガザC改

旧ネオ・ジオンのAMX-003ガザCの改良型。MA形態時の操縦性向上を考え、コクピットが機首部分にある。基本武装に変更はないが、格闘戦の対応力を増すため、各所に改良が見られる。

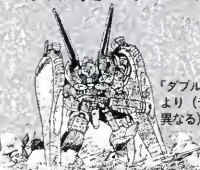
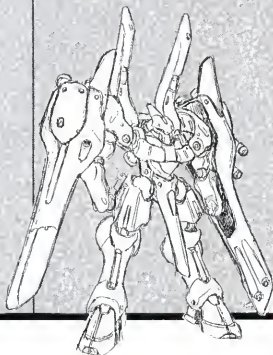


MA形態



AMX-016 ガザW

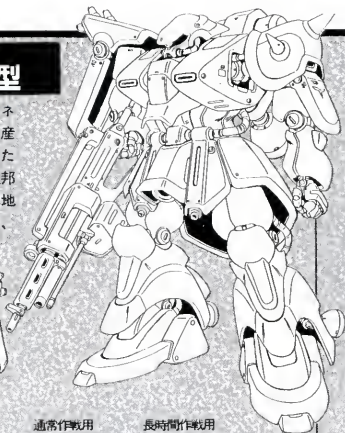
*ガザ*系の最終型といわれる可変重MS。シールド・バインダー内の熱核ジェット/ロケット・エンジンによって大気圏内飛行も可能。股間のユニットは対地レーダーシステム。



「ダブルフェイク」より（デザインは異なる）

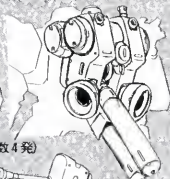
AMX-011C ザクIII後期型

旧ネオ・ジオンが第1次ネオ・ジオン抗争時に汎用量産機の主力として考えていたAMX-110の発展型。戦後、連邦軍から隠しおこせた開発基地において、改良が続けられ、AMX-010SザクIII



通常作戦用
バックパック

長時間作戦用
バックパック



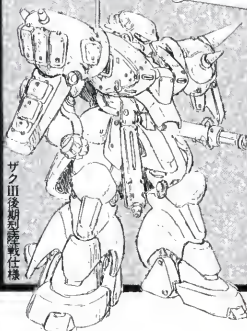
ザクIII用バズーカ (装填数4発)



後期型として小数ながら製造された。大推力、重武装が売り物であったザクIIIをさらに性能強化し、*ドーガ*系に移行する新ネオ・ジオンMSの試金石の機体となった。

左の機体は陸戦仕様のもので、スモークディスチャージャーや増加装甲、砂中用スコープなどを追加装備している。

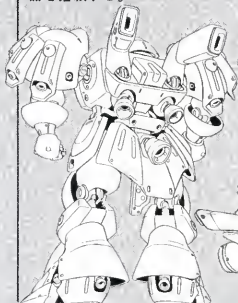
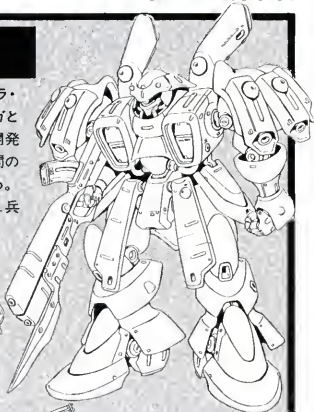
ザクIII後期型陸戦仕様



ザクIII後期型

MSN-X4 バギ・ドーガ

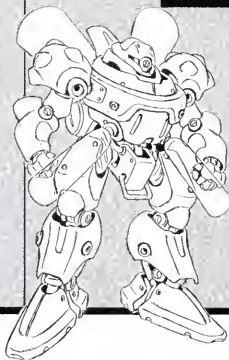
新ネオ・ジオンのAMS-119ギラ・ドーガとMSN-003ヤクト・ドーガとの中間的なNT用実験機。開発にあたっては、フラナガン機関の流れをくむNT研が参加している。モビルビットというサイコミュ兵器を搭載する。



モビル・ビット（作中では「ウィルトン」「ウェルティーン」というニックネームがつけられていた）

クォーターズーツ

一種のパワードスーツ。作中ではネオ・ジオンのNT、タウが使用する。武器は20mmマシンガン。

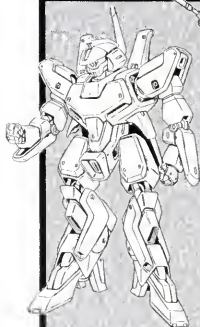


「ダブルフェイク」より。モビル・ビットの収納口

「ダブルフェイク」より。人物との対比に注目



バギ・ドーガのクォーターズーツ



MSA-008(RGM-87)

バーザム

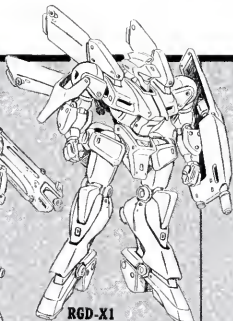
エウゴ仕様として製作されたバーザムの発展型。



GRD-X2

GDキャノン

ゼータ
GDシリーズの砲撃戦専用機。

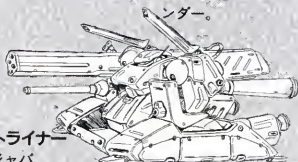


RGD-X1

ゼータ

GDストライカー

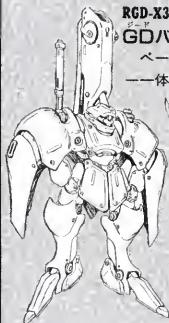
連邦軍の新量産シリーズの汎用機。G
D = ガン・ディフェンダー。



RGD-X3

GDバストライナー

ベースジャバ
——体型MS。



AMX-002

ガゼB

ギラ・ドーガの前段階の機体。



AMX-121

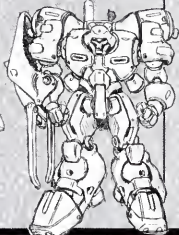
クェル・ドーガ

前大戦時の「ザク」系重MSのバリエーション。

AMX-012

グザ

作業用MSであった可変MS。



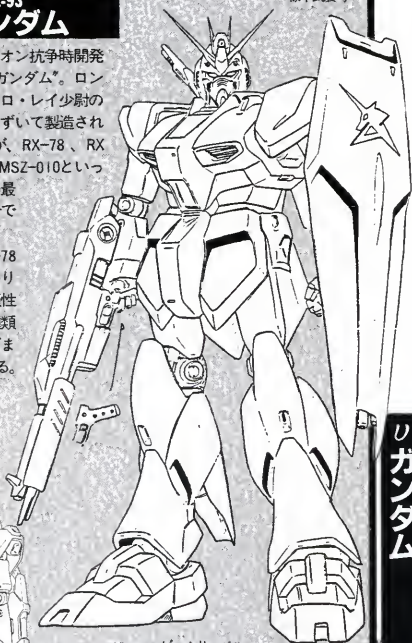
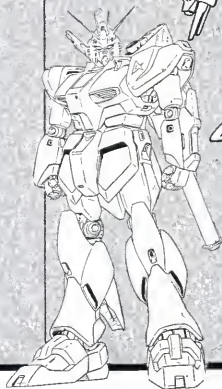
ニュー RX-93 Vガンダム

標準武装時

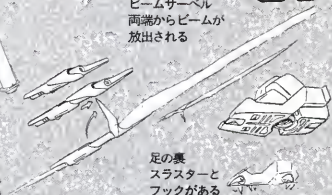
第2次ネオ・ジオン抗争時開発された最新型の“ガンダム”。ロンド・ベル隊のアムロ・レイ少尉の設計プランにもとずいて製造された。偶然であるが、RX-78、RX-178、MSZ-006、MSZ-010といった歴代ガンダムの最大公約数的な設計であった。

基本武装はRX-78当時のものと変わらないが、その信頼性は高い。また、種類も豊富で、さまざまな作戦に対応できる。

ニューハイパー
バズーカを装備

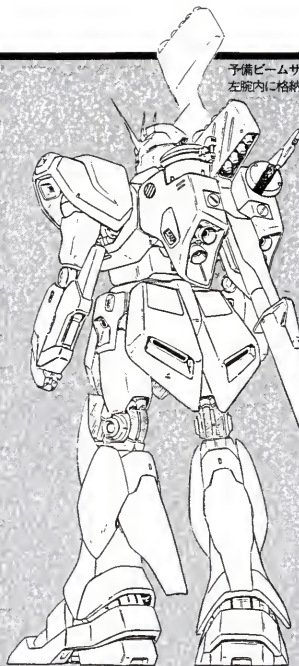


ビームサーベル
両端からビームが
放出される



足の裏
スラスターと
フックがある

V
ガンダム



予備ビームサーベル
左腕内に格納されている

シールド・ビーム
キャノンの他
ミサイル2発が
装備されている



シールド
装備の
ミサイル



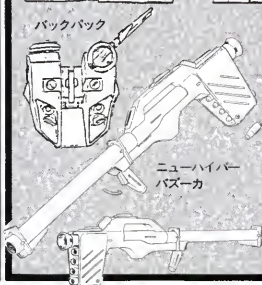
バックパック



頭部
60mmバルカン砲
2門搭載



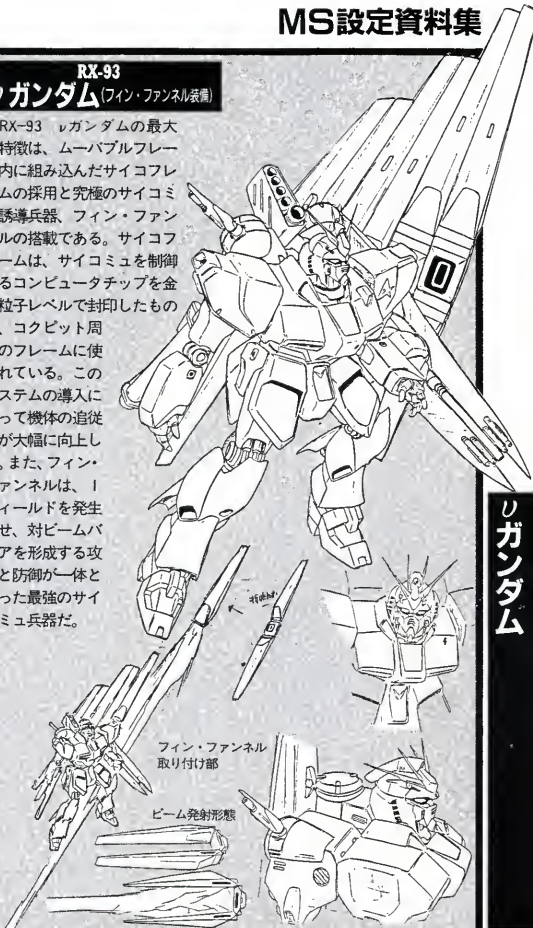
ニューハイパー
バズーカ



RX-93

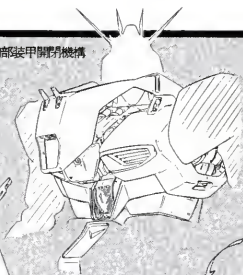
リガンダム (フィン・ファンネル装備)

RX-93 リガンダムの最大の特徴は、ムーバブルフレーム内に組み込んだサイコフレームの採用と究極のサイコミュ誘導兵器、フィン・ファンネルの搭載である。サイコフレームは、サイコミュを制御するコンピュータチップを金属粒子レベルで封印したもので、コクピット周辺のフレームに使われている。このシステムの導入によって機体の追従性が大幅に向上した。また、フィン・ファンネルは、1フィールドを発生させ、対ビームバリアを形成する攻撃と防御が一体となった最強のサイコミュ兵器だ。

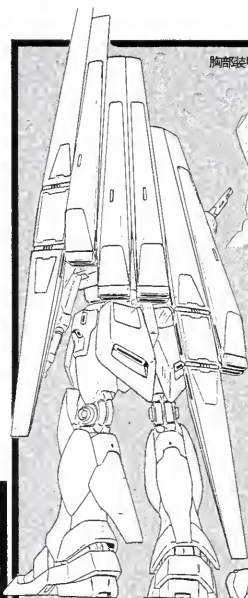


リガンダム

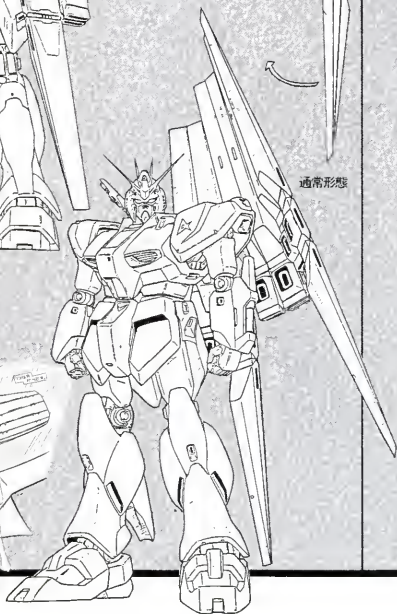
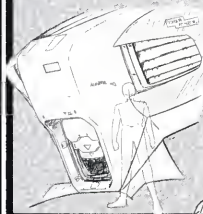
胸部装甲開閉機構

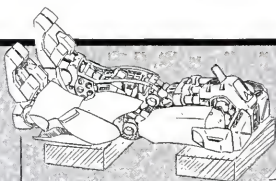


通常形態

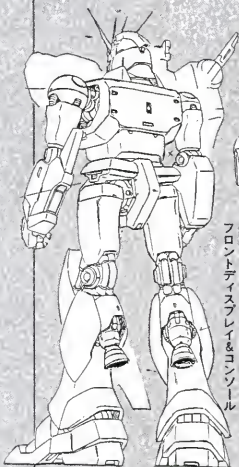


コクピットハッチ





組み立て中のνガンダム



νガンダム背面細部



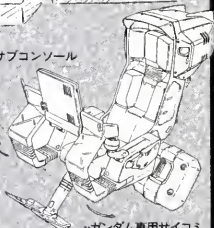
サブコンソール



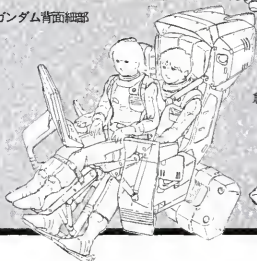
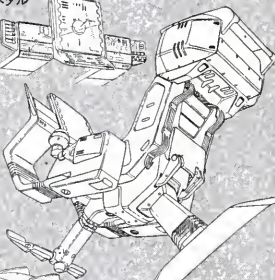
ペダル



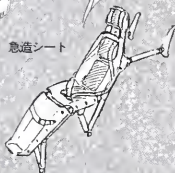
フロントディスプレイ&コンソール



νガンダム専用サイコミュシート

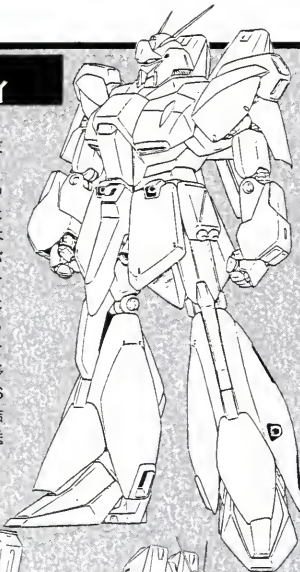


急造シート

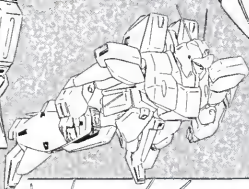


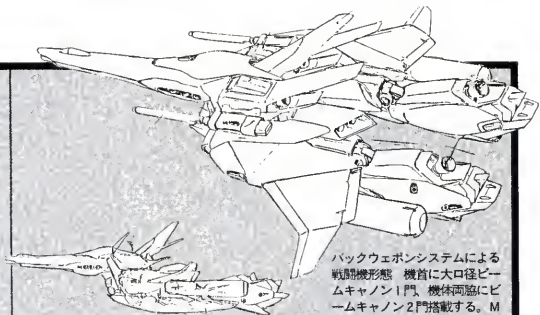
RGZ-91 リ・ガズィ

RGZ-091リ・ガズィは、MSZ-006Zガンダムを再設計した機体で、小数生産されたZプラス以上に量産のための低コスト化を狙ったものだ。そのため、機体本体の変形機構を排除し、バックパックウェポンシステムに全て依存している。ただし、ファイター形態からMS形態への移行時にシステムを除装するため、逆の移行はできない。簡易可変MSの実験機としては良好な結果を得たが、量産化は見送られている。



頭部 60mmバルカン砲を2門装備している。センサー性能はMSZ-006より高い





バックウェポンシステムによる
戦闘機形態 機首に大口径ビー
ムキャノン1門、機体両脇にビー
ムキャノン2門搭載する。M
S時の武器はシールド内に
固定する。主翼にはプロペ
ラントタンクを装備する

(1) ノーマル形態



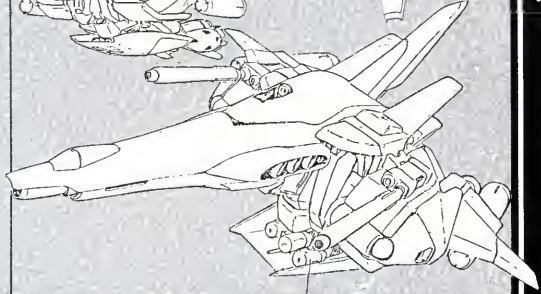
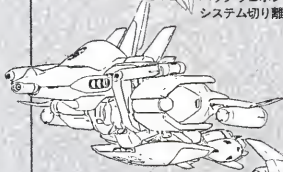
(2)



(3)

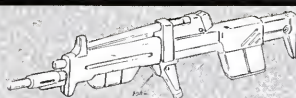


バックウェポン
システム切り換え過程



リ・ガズイ

ビームサーベル



リ・ガズィ
専用ビームライフル



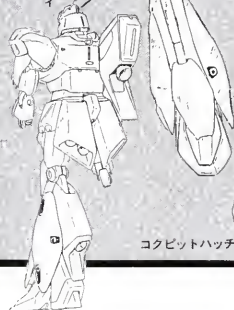
グレネイドランチャー



足の裏



中破したリ・ガズィ



コクピットハッチ

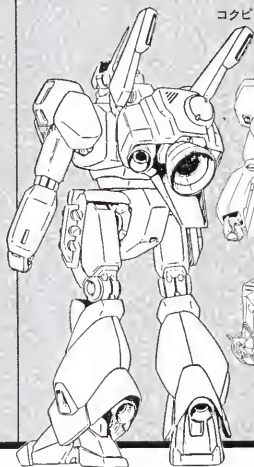
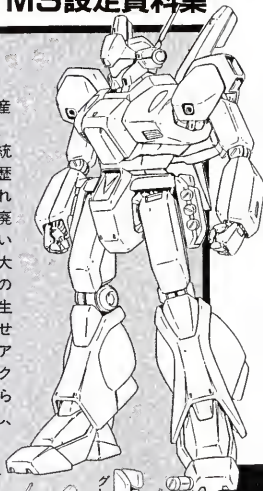


リ・ガズィ専用シート

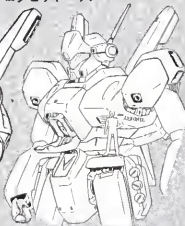
リ・ガズィ

RGM-89 ジェガン

RGM-89は、連邦軍の主力MSで、開發生産をアナハイム社が行なっている。そのため、**“ジム”系**と**“ネモ（ネロ系も含む）”系**が統合された設計となっている。改良を重ねた歴史あるシリーズだけに、信頼性は高い。これまでのシリーズ機と比較すると、まず胸の廃熱ダクトが小型化され、耐弾性が向上している。また、腰アーマーをなくし、代わりに大腿部の全面に増加装甲を施している。股間の関節がむき出しになるが、脚部の駆動時に生じる抵抗がなくなることと、軽量化が果たせるというふたつの利点がある。腰のサイドアーマーの代わりには、ビームサーベルラックとグレネードラックが装備されている。さらにバックパックには大型スラスターを搭載し、量産機としては高機動を誇る。



コクピットハッチ



グレネードラック（左腰）



ビームサーベルラック（右腰）

連邦軍製
MS旧式シート

ジェガン

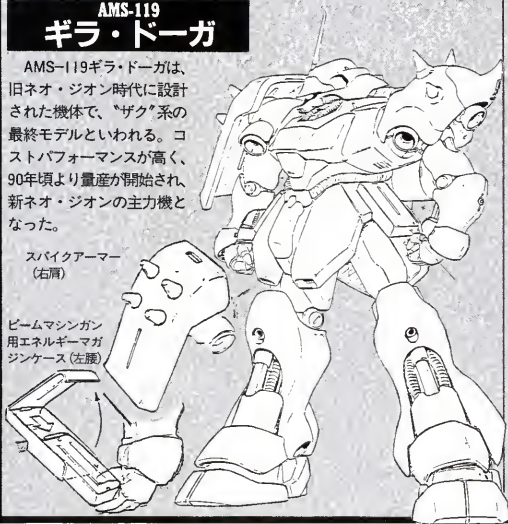


AMS-119 ギラ・ドーガ

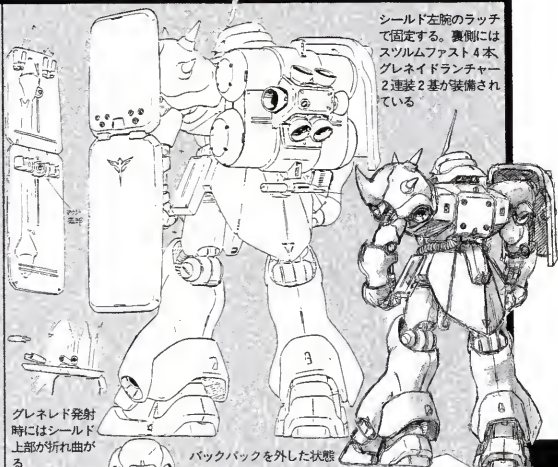
AMS-119ギラ・ドーガは、旧ネオ・ジオン時代に設計された機体で、“ザク”系の最終モデルといわれる。コストパフォーマンスが高く、90年頃より量産が開始され、新ネオ・ジオンの主力機となった。

スパイクアーマー
(右肩)

ビームマシンガン
用エネルギーマガ
ジンケース (左腰)



シールド左腕のラッチで固定する。裏側にはスズルムファスト4本グレネードランチャー2連装2基が装備されている

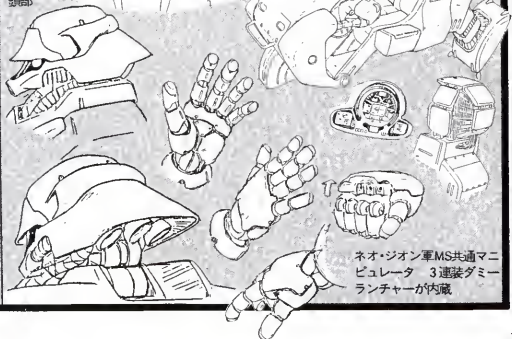


グレネード発射時にはシールド上部が折れ曲がる

バックパックを外した状態

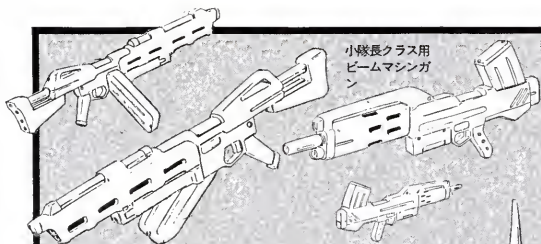
ネオ・ジオン軍
旧式シート

頭部



ネオ・ジオン軍MS共通マニピュレータ 3連装ダミーランチャーが内蔵

ギラ・ドーガ

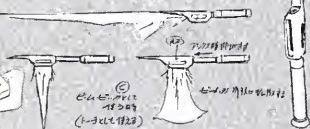


小隊長クラス用
ビームマシンガン

一般兵士用
ビームマシンガン



グレネードランチャー
を装着可能



ビームソード
(つるはし)
(トーチとして使える)

ビームソードアックス
ソード(剣)、アックス(斧)、
ピック (つるはし) の3用
途に使用可能。ピック状態
はトーチとして使える

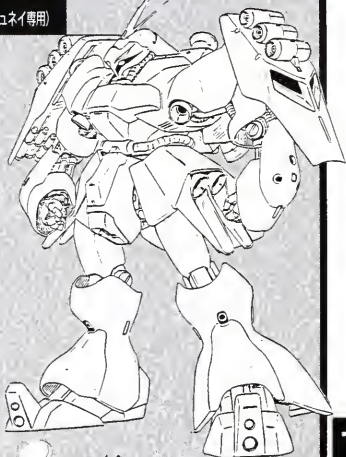


コクピットハッチ



MSN-03 ヤクト・ドーガ (ギュネイ専用)

MSN-03ヤクト・ドーガ
ニュータイプ
は、N T専用機として
開発されたMSである。サ
イコミュを装備し、6基
のファンネルを搭載して
いる。2機製造された試
作機のうち、青い機体が
ギュネイの、赤い機体が
クエスの専用機となっ
た。また、機体色の他に、
頭部形状や武装の一部が異
なっている。



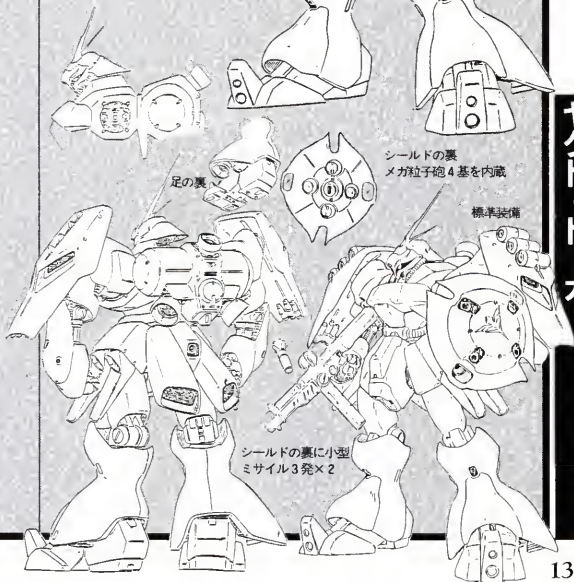
ヤクト・ドーガ

足の裏

シールドの裏
メガ粒子砲4基を内蔵

標準装備

シールドの裏に小型
ミサイル3発×2



コクピットハッチ

頭部

ビームサーベル
ヒートナイフ付

ビームアサルトライフル

MSN-03 ヤクト・ドーガ (クエス専用)

2機の試作機は、外観上の差はあっても、その性能に差はない。武装の差もメインアームズに限定され、それもパイロットの好みで選択されただけだ。

頭部

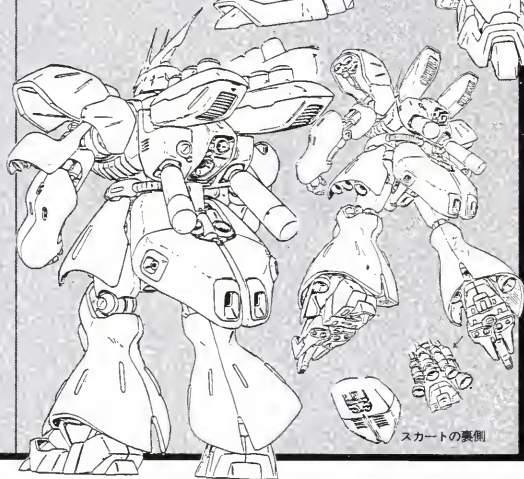
ファンネル
投下

メガ・ガトリングガン

ヤクト・ドーガ

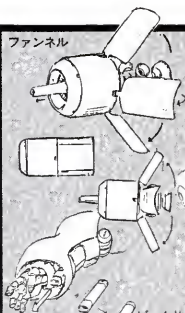
MSN-04
サザビー

MSN-04サザビーは、ヤクト・ドーガと共に設計=ネオ・ジオン、開発・製造=アナハイムという経由で作られたNT専用機である。完成度はヤクト・ドーガを上回り、攻撃力、防御力、機動性などあらゆる面で優れた性能を示す機体となった。また、かつて“赤い彗星”といわれたシャア・アズナブルの専用機となることが決まっていたため、機体色を真紅とした。



サザビー

ファンネル



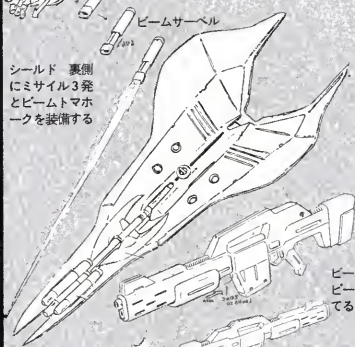
ファンネルボッド



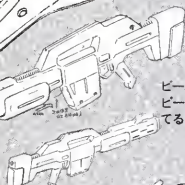
ビームサーベル



シールド 裏側
にミサイル3発
とビームトマホ
ークを装備する



ビームショットライフル 収束
ビームと拡散ビームの両方を撃
てる



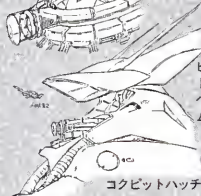
モノアイと
脱出ポッド



ビームトマホーク
トマホークとサー
ベルの2種類ビー
ム刃を形成する



コクピットハッチ



頭部



頭部

NZ-333
α・アジール

NZ-333α・アジールは、ネオ・ジオンが開発した史上最大の機動兵器である。兵装の制御はサイココミュ

によって行われ、9基の大型ファンネルと2基の5連装有線式メガアーム砲、さらに頭部の2種類の砲を同時に使用することが可能だ。下部のブースターは、使用後、切り離されてしまう。

ファンネル

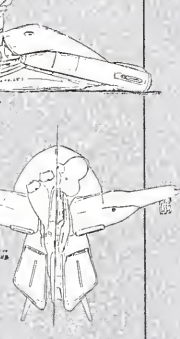
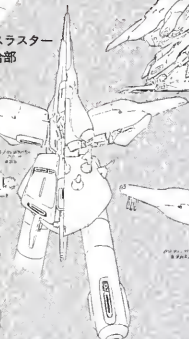
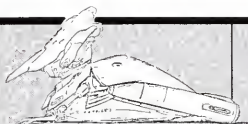
輸送形態

頭部正面
額は2連装
バールカン砲
口はメガビ
ーム砲

α・アジール



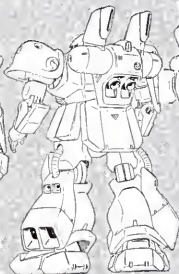
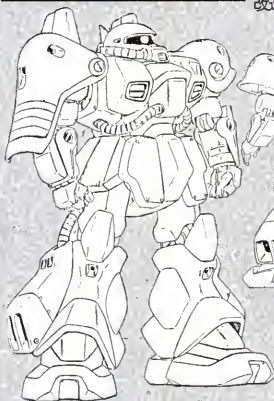
降着姿勢ストウルムスラスター
ユニット接合部



α・アジール 6面図

ホビー・ハイザック

民間のホビー用MS、軍払い下げの機体（兵装は取り除かれている）を改造したものである。



マニピュ
レータ



後頭部



コクピット
ハッチ

シャクルズ	62→大図鑑②
ジュピトリス	31→大図鑑②
ショック・バルーン	74、76
スウィートウォーター	63
Zプロジェクト	60、74
ズック	60
タ行	
チベ	26→大図鑑①
チベ改	31→大図鑑②
ドゴス・ギア	31→大図鑑②
トロイホース	28
ドロス	26→大図鑑①
ナ行	
ニューディサイズ	38、74
ネエル・アーガマ	32→大図鑑②
ネオ・ジオン	62→大図鑑②
ハ行	
パゾク	27→大図鑑①
パプア	27→大図鑑①
フィフス(5ht)・ルナ	63
フィン・ファンネル	66
ベースジャバー改	60
ペズン	36
ホホワイト・ベース	25→大図鑑①
マ行	
マス・ドライバー	74
ムサイ	26→大図鑑①
ムサイ改	30→大図鑑②
ムサカ	34、62
メガライダー	33→大図鑑②
メッド	61
モノトーン・マウス社	68、74
ラ行	
ラー・カイルム	34、60
ラー・ギエム	34、60
ラー・ザイム	34、60
ラー・チャター	34
レウルーラ	34、62
ロンデニオン	61
ロンド・ベル	60
ロンバルディア	32

アクシズ	63→大図鑑②
アラハス	46
ALICE(アリス)	46
α任務部隊(タスクフォース・アルファ)	37、46
アレキサンドラ	30→大図鑑②
AMBAC	46
エアーズ市	38、54
エイノー艦隊	38、54
エグム	54、56
NSP	54、57
エンドラ	33→大図鑑②
カ行	
核パルス・エンジン	54
カラード	54、57
クラブ	60
グワジン	26→大図鑑①
グワダン	31→大図鑑②
グワンパン	32→大図鑑②
グラーフ・ツェッペリン	29
コア・ファイター(FF-X7)	27→大図鑑①
コア・ファイター(FXA-07GB)	33→大図鑑②
コア・ブースター	28→大図鑑①
コア・ブースター(FXA-08GB-Bst)	103
コロンブス	25→大図鑑①
サ行	
サイコ・フレーム	42、54
サイド・レーザー砲	61
サダラーン	33→大図鑑②
サチワス	30→大図鑑②
S・F・S(サブフライトシステム)	61→大図鑑②
サラミス	25→大図鑑①
ザンジバル	27→大図鑑①
Gアーマー	28→大図鑑①
Gアタッカー	102
ジーク・フリート	29
Gクルーザー	101
Gコア(FXA-08GB)	103
Gスカイ・イーザー	28→大図鑑①
Gフライヤー	32→大図鑑②
Gボマー	102

MSN-03	ヤクト・ドーガ(ギニュー用)	21、43、53、68、136
MSN-03	ヤクト・ドーガ(クエス用)	22、137
MSN-04	サザビー	21、43、53、68、138
MSN-X4	バギ・ドーガ	19、41、51、122
MSZ-006A1	ゼータ・プラスA型	105
MSZ-006C1	ゼータ・プラスC型	16、37、104
MSZ-010-B	FAZZ(ファッツ)	37、106
MWS-19051G	Dガンダムファースト	18、41、50、112
MWS-19051G-2	Dガンダムセカンド	18、114
NZ-222	サイコ・ドーガ	24
NZ-333	α アジール	22、43、72、140
ORX-013	ガンダム Mk-V (G-V)	17、39、48、109
RGC-90	ジェガン重装型	23
RGM-78SP	ジム・スナイパーII	15、88
RGM-89	ジェガン	21、43、52、132
RGM-89B	ジェガン改	18、41、50、118
RGM-89S	スターク・ジェガン	23
RGX-D3	Dガンダムサード	18、41、50、116
RGX-D4	Dガンダムフォース	117
RGZ-91	リ・ガズィ	21、43、52、64、129
RGZ-91B	リ・ガズィ・カスタム	23
RH-35H	リーア35ドラケンE	94
RMS-141	ゼク・アイン	17、39、49、110
RMS-142	ゼク・ツヴァイ	17、39、111
RX-77D	ガンキャノン量産型	15、89
RX-78NT1	NT専用ガンダム試作第1号機"アレックス"	15、84
RX-78NT1-FA	ガンダムNT1-FA	15、86
RX-93	ν ガンダム	20、43、52、66、124
RX-93	ν ガンダムフィンファンネル装備型	20、126
RX-93HWS	ν ガンダムヘビー・ウェポン・システム装着型	20
MS-18E	ケンパフアー	16、90
	ホビーハイザック	23、141

兵器&用語

ア行

アーガマ	29→大図鑑②
アームレイカー	46、76
I フィールド	46
アイリッシュ	30→大図鑑②

索引

INDEX

●「機動戦士ガンダム0080〜ポケットの中の戦争〜」「機動戦士ガンダム」「機動戦士Zガンダム」「機動戦士ガンダムZZ」「ガンダム・センチネル」「サイドストーリーオブガンダム ダブルフェイク」「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」「CCA-MSV」に登場した主要MS、MA、兵器、用語をアルファベット、50

音順にまとめました。見出しの単語を選び、記されているページ数を見て下さい。その単語が解説され、関連する事項がわかるようになっています。なお、MS、MAに関しては、型式番号をアルファベット順に検索できるようになっています。

MS&MA

AMS-119	ギラ・ドーガ(一般兵用)	22、43、53、133
AMS-119	ギラ・ドーガ(レズン用)	22、134
AMS-119	ギラ・ドーガ重武装仕様	24
AMS-119S	ギラ・ドーガ改	24
AMS-120	ギラ・ドーガ サイコミュ試験タイプ	24
AMX-002	ガザB	123
AMX-003S	ガザC改	19、41、51、120
AMX-007	ガザE	17、39、49、110
AMX-012	グザ	123
AMX-013	ズサ・ダイン	119
AMX-016	ガザW	120
AMX-102C	ズサ・カスタム(アニー専用)	19、41、51、119
AMX-011C	ザクIII後期型	19、41、121
AMX-121	クエル・ドーガ	123
MSA-007	ネロ	16、37、48、107
MSA-007E	EWACネロ	37、48、108
MSA-007T	ネロトレーナー	107
MSA-008	バージム	123
MSA-0011	Sガンダム	16、37、49、95
MSA-0011Ex-S	Ex-Sガンダム	99
MSA-0011Bet	ブースターユニット装着型Sガンダム	37、101

STAFF

企 画

株式会社メディアワークス
第4編集部・書籍編集課（安藤利明）

構成・編集

仲重 倉
渡辺 浩
千葉 暁

装 丁

タケモトアツシ（t-DESIGN LA8.）

カバーイラスト

As'maria

デザイン

シイバミツヲ

協 力

株式会社サンライズ
月刊モデル・グラフィックスSUPREME UNIT

宇宙世紀ボックス 機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.3 【アクシズ戦争編】

CONTENTS

MS戦史 MS War History	4
MS名鑑 MS Catalogue	15
宇宙艦、戦闘機名鑑 Star Ship&Star Fighter	25
MS開発史 MS Development History	35
MS性能比較 An ability symmetry of MS	47
ガンダム・オフィシャル・レポート GUNDAM Official Report	55
歴史 History	56
通常兵器 Weapon	60
機動兵器 Mobile Weapon	64
MS操縦マニュアル MS Pilot Manual	75
MS設定資料集 MS Design collection	83
MS用語辞典 MS Glossary	46、54、74
索引 Index	145

※本書は1989年6月に株式会社バンダイ・出版より発行されたエンターテインメントバイブル・シリーズ「機動戦士ガンダム MS大図鑑Part3 【アクシズ戦争編】」を復刻した物です。文章・データに2005年現在と合致しない部分がございますが、原書のままですのでご容赦下さい。
※ご協力いただいた方々の所属は発行当時のまま記載しております。

発 行 2005年3月20日 初版発行

発行者 佐藤辰男

発行所 株式会社メディアワークス
〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8東京YWCA会館
TEL03-5281-5243(編集)

発売元 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
TEL03-3238-8605(営業)

印刷所 共同印刷株式会社

落丁・私丁本はお取り替えします。

© 創通エージェンシー・サンライズ

分売不可

Printed in Japan

Ⓔ本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡下さい。

MS ENCYCLOPEDIA



NO.03

MS大図鑑
[PART3 アクシズ戦争編]

MOBILE SUIT GUNDAM
CHAR'S COUNTER ATTACK

MOBILE SUIT GUNDAM 0080
WAR IN THE POCKET

MOBILE SUIT GUNDAM DOUBLE-FAKE

Setc.

MS NO.03

MS大図鑑
[PART.3 アクシズ戦争編]

ENCYCLOPEDIA



MOBILE SUIT GUNDAM
CHAR'S COUNTER ATTACK

MOBILE SUIT GUNDAM 0080
WAR IN THE POCKET

MOBILE SUIT GUNDAM DOUBLE-FAKE

Setc.

MS NO.03 ENCYCLOPEDIA

.....

MOBILE SUIT GUNDAM
CHAR'S COUNTER ATTACK

MOBILE SUIT GUNDAM 0080
WAR IN THE POCKET

MOBILE SUIT GUNDAM DOUBLE-FAKE

Etc.

MS NO.03 ENCYCLOPEDIA

.....

MOBILE SUIT GUNDAM
CHAR'S COUNTER ATTACK

MOBILE SUIT GUNDAM 0080
WAR IN THE POCKET

MOBILE SUIT GUNDAM DOUBLE-FAKE

Etc.

アタラシキ モノ の カタチ

M S 大図鑑
PART. 3
アタラシキモノのカタチ
[新書]

NO. 03

MS大図鑑 [PART.3] 戦争編
アタック

NO.03

2020年